

岐阜県文化財保護センター  
調査報告書 第120集

# 岩 田 東 A 遺 跡

2011

岐阜県文化財保護センター

いわ た ひがし  
岩 田 東 A 遺 跡

2011

岐阜県文化財保護センター



遺跡遠景（東から）



遺跡遠景（南から）



1号方形周清墓出土遺物



近世陶磁器集合写真

## 序

清らかな長良川が市域を西流し、緑豊かな金華山がそびえる岐阜市は、斎藤道三や織田信長にまつわる岐阜城や、古来から受け継がれてきた鵜飼漁など、豊かな歴史的民俗的景観に恵まれ、情緒ある文化を守り育てている町です。

このたび、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所による 156 号岐阜東バイパス建設事業に伴い、岐阜市岩田西に所在する岩田東 A 遺跡の発掘調査を実施しました。

今回の調査では、弥生時代の方形周溝墓、安土・桃山時代の区画溝や櫛跡、江戸時代以降の溝跡や土坑跡などを発見しました。特に弥生時代の方形周溝墓は岐阜市内で検出された方形周溝墓の最北端の事例となりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、岐阜市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 23 年 12 月

岐阜県文化財保護センター  
所長 高橋 照美

## 例言

- 1 本書は、岐阜県岐阜市岩田西に所在する岩田東A遺跡（岐阜県遺跡番号 21201-07164）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、156 号岐阜東バイパス建設事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 宇野隆夫国際日本文化研究センター教授の指導のもとに、発掘調査は平成 21 年度に、整理作業は平成 22 年度に実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当は、本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆は第 1 章第 2 節を北村が、それ以外を近藤が行った。また、編集は近藤が行った。
- 6 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量、景観撮影などの業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社ユニオンに委託して行った。  
朝田公年、井川祥子、石黒立人、内堀信雄、長屋幸二、八賀晋、藤澤良祐、溝口彰啓、村木誠、藤下浩、渡邊博人、岐阜市教育委員会、財団法人岐阜市教育文化振興事業団
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）  
朝田公年、井川祥子、石黒立人、内堀信雄、長屋幸二、八賀晋、藤澤良祐、溝口彰啓、村木誠、藤下浩、渡邊博人、岐阜市教育委員会、財団法人岐阜市教育文化振興事業団
- 9 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅷ系を使用している。
- 10 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2006『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 11 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

## 目 次

序

例言

第1章 調査の経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の方法と経過.....	5
第2章 遺跡の環境.....	7
第1節 地理的環境.....	7
第2節 歴史的環境.....	9
第3章 調査の成果.....	13
第1節 基本層序と遺構確認面.....	13
第2節 遺構概要.....	15
第3節 遺物概要.....	17
第4節 弥生時代の遺構と遺物.....	21
1 1号方形周溝墓	
2 2号方形周溝墓	
3 溝跡	
4 土坑跡	
第5節 中世後期の遺構と遺物.....	30
1 掘立柱建物跡	
2 横跡	
3 溝跡	
4 土坑・柱穴跡	
第6節 近世以降の遺構と遺物.....	45
1 横跡	
2 溝跡	
3 土坑・柱穴跡	
4 掘乱からの出土遺物.....	72
第7節 包含層出土の遺物.....	88
1 包含層出土遺物.....	88
第4章 総括.....	131
報告書抄録	

## 掲表目次

図版 1 遺跡位置図・	2	図版 43 SK18 出土遺物(1)・	67
図版 2 開発区分位置図・	2	図版 44 SK18 出土遺物(2)・	68
図版 3 武蔵坑古墳群図・	3	図版 45 SK18 出土遺物(3)・	69
図版 4 グリッド設定図・地形測量図・	4	図版 46 SK18 出土遺物(4)・	70
図版 5 遺跡周辺の地質要略図・	7	図版 47 SK18 出土遺物(5)・	71
図版 6 発掘調査区段別の地形・	8	図版 48 KAI-1~9 出土遺物・	72
図版 7 明字地図・	10	図版 49 KAI-10~11 出土遺物・	74
図版 8 地形測量図・	11	図版 50 KAI-12(2) 出土遺物・	76
図版 9 発掘調査区段上の地形・	14	図版 51 KAI-12 上遺物・	76
図版 10 遺構区分模式図・	15	図版 52 KAA(1) 出土遺物・	77
図版 11 順位区分図・	16	図版 53 KAA(2) 出土遺物・	78
図版 12 瓦の種類名別・計測位置・	20	図版 54 KAA(3) 出土遺物・	79
図版 13 S21=「遺構団(1)」・	23	図版 55 KAA5~KAI10 出土遺物・	80
図版 14 S21=「遺構団(2)」・	24	図版 56 KAI11(1) 出土遺物・	81
図版 15 S21=「遺構団(3)」・	25	図版 57 KAI11(2) 出土遺物・	82
図版 16 S21 出土遺物・	26	図版 58 KAI12~KAI13 出土遺物・	83
図版 17 S22=「遺構団(1)」・	27	図版 59 KAI14~KAI16(1) 出土遺物・	84
図版 18 SD18~19, SR19, SP14, SK19, SD9 出土遺物・	28	図版 60 KAI16(2)~KAI17 出土遺物・	85
図版 19 SH1=「遺構団」・	31	図版 61 KAI18 出土遺物・	86
図版 21 SH1=「遺構団」・	32	図版 62 KAI19 出土遺物・	87
図版 22 S1=「遺構団」・	33	図版 63 KAI20 出土遺物・	88
図版 23 S1=「遺構団」・	34	図版 64 包含層出土遺物(1)・	89
図版 24 SD1=「遺構団(1)」・	36	図版 65 包含層出土遺物(2)・	90
図版 25 SD1=「遺構団(2)」・	37	図版 66 包含層出土遺物(3)・	91
図版 26 SD8=「遺構団(1)」・	38	図版 67 包含層出土遺物(4)・	92
図版 27 SD8=「遺構団(2)」・	39	図版 68 包含層出土遺物(5)・	93
図版 28 SD9=「遺構団」・	40	図版 69 包含層出土遺物(6)・	94
図版 29 SH2, SD15=「出土遺物」・	41	図版 70 包含層出土遺物(7)・	95
図版 30 SP1=「遺構団(1)」・	42	図版 71 包含層出土遺物(8)・	96
図版 31 SP1=「遺構団(2)」・	43	図版 72 遺構全般分図面図 1・	97
図版 32 SK1=「遺構団」・	44	図版 73 遺構全般分図面図 2・	99
図版 33 SA3=「遺構団」・	45	図版 74 遺構全般分図面図 3・	100
図版 34 SD12=「遺構団」・	46	図版 75 遺構全般分図面図 4・	101
図版 35 SD13=「遺構団」・	47	図版 76 遺構全般分図面図 5・	102
図版 36 SD17=「遺構団」・	48	図版 77 遺構全般分図面図 6・	103
図版 37 SK4=「遺構団」・	49	図版 78 遺構全般分図面図 7・	104
図版 38 SK9=「遺構団」・	51	図版 79 遺構全般分図面図 8・	105
図版 39 SK12=「遺構団」・	52	図版 80 遺構全般分図面図 9・	106
図版 40 SK10, SP20=「遺構団」・	53	図版 81 遺構全般分図面図 10・	107
図版 41 SK14=「遺構団」・	54	図版 82 遺構全般分図面図 11・	108
図版 42 SP22~30=「遺構団」(1)・	55	図版 83 遺構全般分図面図 12・	109
図版 43 SP22~30=「遺構団」(2)・	56	図版 84 重要文化財区分図面図 18・	110
図版 44 SD13=「15, 17, SK6, 7~13~15, 川上」出土遺物・	57	図版 85 出土遺物分布図 1・	132
図版 45 SK7=「遺構団」(1)・	58	図版 86 川上遺物分布図(2)・	133
図版 46 SK7=「遺構団」(2)・	59	図版 87 彩器裏・遺跡跡形分布図・	134
図版 47 SK18=「遺構団」(1)・	60	図版 88 方形瓦蓋墓跡形・大きさと時期のグラフ・	135
図版 48 SK18=「遺構団」(2)・	61	図版 89 墓・文様・小文字の部位位置図・	136
図版 49 SK17=「遺跡」(1)・	62	図版 90 重要文化財区分図面図・	139
図版 50 SK17=「山遺跡」(2)・	63	図版 91 重要文化財区分図面図・	141
図版 51 SK17=「山遺跡」(3)・	64	図版 92 中近世海螺貝殻埋蔵・堆生・墓種別グラフ・	142
図版 52 SK17=「出土遺物」(4)・	65	図版 93 出土遺物分布図・	142
表 1 表 1 古墳整備実施試験・確認個々結果・3		表 27 近世以降の瓦瓶焼成(2)・	130
表 2 築造地盤・瓦質・	10	表 28 今美集落瓦瓶焼成(1)・	130
表 3 地質・土壤・	15	表 29 白糸上岩瓦瓶焼成・	131
表 4 川上遺物点数(1)~(6)・	17	表 30 須原聚落瓦瓶焼成・	131
表 5 烧成地質・	19	表 31 桜草集落瓦瓶焼成(1)・	137
表 6 石器・石製品・貯米袋・	20	表 32 桜草集落瓦瓶焼成(2)・	138
表 7 出土植物・	111	表 33 中近世海螺貝殻埋蔵(1)・	141
表 8 出土植物・	112	表 34 中近世海螺貝殻埋蔵(2)・	141
表 9 遺構断面図(1)・	113	表 35 川上遺物分布図(吉瀬戸・白須)・	142
表 10 遺構断面図(2)・	114	表 36 川上遺物分布図(吉瀬戸・大須)・	142
表 11 遺構断面図(3)・	115	表 37 古墓寺向南~大須方面・吉瀬戸・白須・瓦瓶焼成・	142
表 12 遺構断面図(4)・	116	表 38 石器・石製品・瓦瓶焼成(1)・	143
表 13 遺構断面図(5)・	117	表 39 出土遺物分布図(吉瀬戸)・	143

## 表月次

表 1 台田古川遺跡実地調査・確認個々結果・3		表 14 遺構周辺の地形・	8	表 27 近世以降の瓦瓶焼成(2)・	130
表 2 土質・	10	表 15 土質推定(1)・	118	表 28 今美集落瓦瓶焼成(1)・	130
表 3 土質・	15	表 16 上部粘土質(2)・	119	表 29 白糸上岩瓦瓶焼成・	131
表 4 川上遺物点数(1)~(6)・	17	表 17 上部砂質(3)・	120	表 30 須原聚落瓦瓶焼成・	131
表 5 烧成地質・	19	表 18 土質粘土質(4)・	122	表 31 桜草集落瓦瓶焼成(1)・	137
表 6 石器・	20	表 19 土質粘土質(5)・	123	表 32 桜草集落瓦瓶焼成(2)・	138
表 7 出土植物・	111	表 20 十字架粘土質(6)・	124	表 33 中近世海螺貝殻埋蔵(1)・	141
表 8 出土植物・	112	表 21 土質粘土質(7)・	125	表 34 中近世海螺貝殻埋蔵(2)・	141
表 9 遺構断面図(1)・	113	表 22 上部粘土質(8)・	126	表 35 川上遺物分布図(吉瀬戸・白須)・	142
表 10 遺構断面図(2)・	114	表 23 上部粘土質(9)・	127	表 36 川上遺物分布図(吉瀬戸・大須)・	142
表 11 遺構断面図(3)・	115	表 24 石器・石製品・瓦瓶焼成・	128	表 37 古墓寺向南~大須方面・吉瀬戸・白須・瓦瓶焼成・	142
表 12 遺構断面図(4)・	116	表 25 石器・石製品・瓦瓶焼成・	128	表 38 石器・石製品・瓦瓶焼成(1)・	143
表 13 遺構断面図(5)・	117	表 26 近世以降の瓦瓶焼成(1)・	129	表 39 出土遺物分布図(吉瀬戸)・	143
挿入写真目次		表 27 土出土遺物: 土器(10)		表 28 土出土遺物: 土器(10)	
写真 1 南浦地区作業風景(1)~(6)		表 29 土出土遺物: 土器(11)		表 29 土出土遺物: 土器(11)	
写真 2 南浦地区作業風景(2)~(6)		表 30 土出土遺物: 土器(12)		表 30 土出土遺物: 土器(12)	
写真 3 南浦地区作業風景(7)~(10)		表 31 土出土遺物: 上器(13)		表 31 土出土遺物: 上器(13)	
写真 4 視察説明会風景・	6	表 32 土出土遺物: 上器(14)		表 32 土出土遺物: 上器(14)	
写真 5 視察説明会風景・	6	表 33 土出土遺物: 土器(15)		表 33 土出土遺物: 土器(15)	
写真 6 地質図版目次		表 34 土出土遺物: 土器(16)		表 34 土出土遺物: 土器(16)	
写真 7 北側地区立派・南側地区立派		表 35 土出土遺物: 土器(17)		表 35 土出土遺物: 土器(17)	
写真 8 S21完結状況・S22完結状況		表 36 土出土遺物: 土器(18)		表 36 土出土遺物: 土器(18)	
写真 9 S9光触媒試験		表 37 土出土遺物: 土器(19)		表 37 土出土遺物: 土器(19)	
写真 10 S7.1~S7.2		表 38 土出土遺物: 土器(20)		表 38 土出土遺物: 土器(20)	
写真 11 S11~S12		表 39 土出土遺物: 土器(21)		表 39 土出土遺物: 土器(21)	
写真 12 S41~S42・SA1~SA3		表 40 土出土遺物: 土器(22)		表 40 土出土遺物: 土器(22)	
写真 13 SD1~6・SD1~6		表 41 土出土遺物: 土器(23)		表 41 土出土遺物: 土器(23)	
写真 14 SD7~10~11~12~13~14~15~16~17~18~19~21		表 42 土出土遺物: 土器(24)		表 42 土出土遺物: 土器(24)	
写真 15 SK5~7・8~8~12~14~14		表 43 土出土遺物: 土器(25)		表 43 土出土遺物: 土器(25)	

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯

岩田東A遺跡（以下、当遺跡と記載する。）は岐阜市岩田西地内に所在する（図1・2）。今回の発掘調査は、岐阜市を通過する156号岐阜東バイパス建設事業に伴い実施した。

156号岐阜東バイパスは、岐阜県羽島郡岐南町八剣から岐阜県関市山田までを結ぶ13.4kmの道路である。これまで、国道156号は通勤時に断続的な渋滞が発生していたが、平成17年4月1日に国道156号と並行していた名鉄美濃町線が廃止され、代替手段としてバスの増加や新規バス停が設置されるなど、国道への依存がさらに増大した。そこで、交通混雑の解消やバスの定時性の確保等のため、岐阜東バイパスの建設事業が計画された。

国土交通省中部地方整備局は、平成6年度から当遺跡を含む岐阜東バイパス3工区の事業を開始した。そして、道路建設区域内における埋蔵文化財の有無及び内容等を確認するため、試掘・確認調査を岐阜県教育委員会に依頼した。

当遺跡では、平成2～7年度に岐阜市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査において、須恵器、中世陶磁器などが採集されている。その後、平成19年度に岐阜県教育委員会社会教育文化課が試掘・確認調査を実施した。試掘調査坑は、岩田西遺跡と当遺跡付近の事業予定地内に、合計28箇所（TP1～28）を設定した（図3：試掘坑番号は試掘・確認調査時の名称を記載した）。そして、重機により表土以下を掘削し、必要に応じて人力により遺構検出及び遺構削除等を実施した。その結果、TP4・26において、中世の遺物を伴う土坑・溝・ピットなどの遺構を検出した。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、土師器皿、中近世陶磁器が出土した。また、遺跡範囲が修正された（平成19年12月27日付け社文第844号）。

これらの結果を踏まえて、平成18年12月20日に岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会を開催し、岩田東A遺跡2,148m<sup>2</sup>の本発掘調査が必要であると判断した。また、当遺跡の南西側に展開する岩田西遺跡の本発掘調査も同時に実施することとなった。

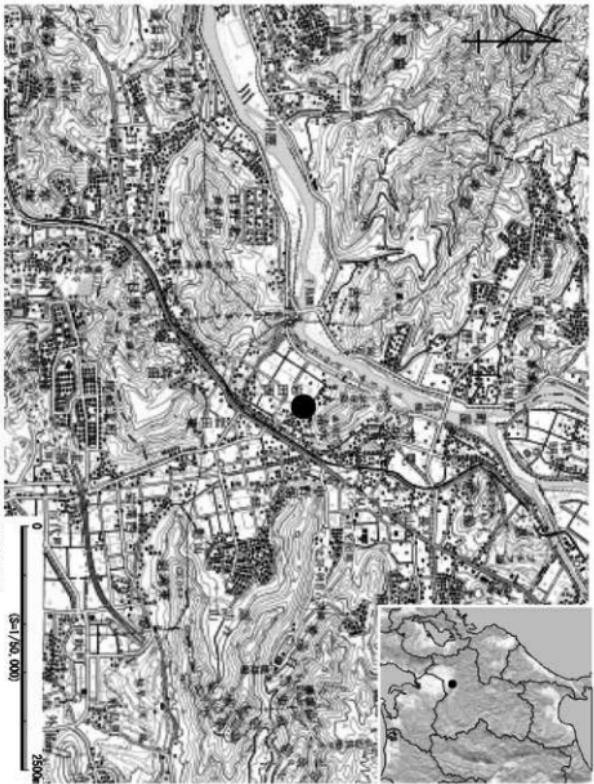
発掘調査は平成21年5月18日に文化財保護法第99条による埋蔵文化財発掘調査の報告（文財セ第17号）を岐阜県教育委員会に提出し、6月12日に岐阜県教育委員会により埋蔵文化財発掘調査の報告についての通知（社文第14号の9）を受けて、平成21年度に岐阜県文化財保護センターが実施した。



写真1 南調査区作業風景1



写真2 南調査区作業風景2



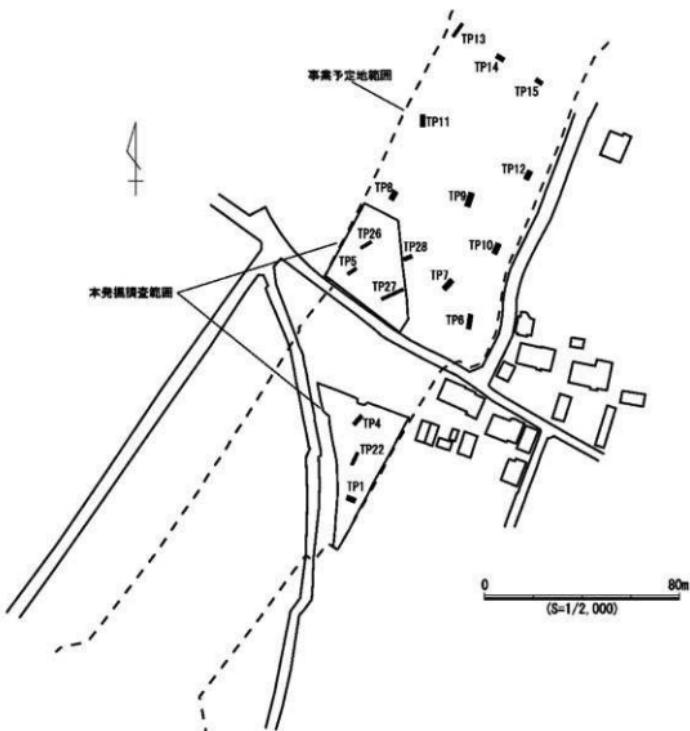
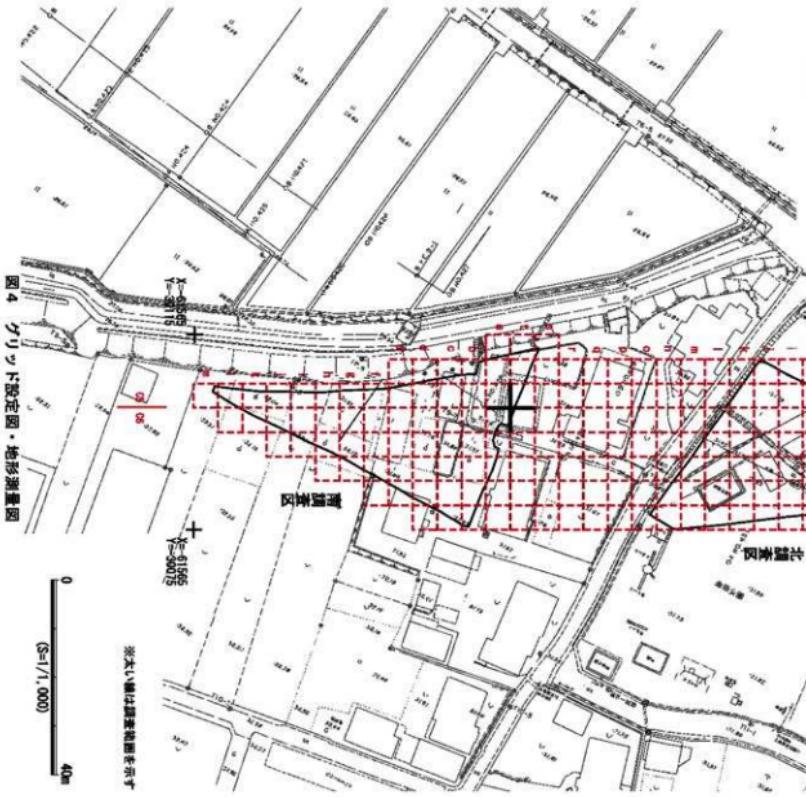
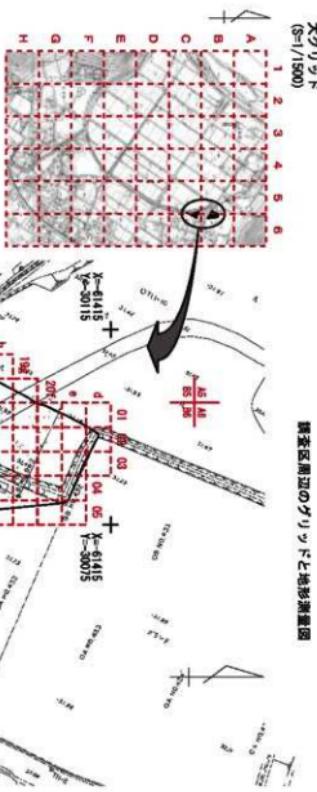


図3 試掘坑位置図

表1 岩田東A遺跡周辺試掘・確認調査結果

試掘坑	検出遺構	縦文 土器	%生土器 上部器	須恵器	灰陶 陶器	中近世 陶磁器	その他	合計	出土遺物内容
TP 1 上坑 3		0	0	0	0	0	0	0	
TP 2 土坑 2		0	0	0	0	2	10	12	山茶碗 1、土師器皿 1
TP 3 —		0	0	1	0	20	23	44	古瀬戸大壺 1、近世陶器 19
TP 4 溝 1 (16世紀代)		0	1	1	0	4	0	6	山茶碗 2、土師器皿 2
TP 5 溝 1、上坑 1		0	0	4	0	0	0	4	
TP 12 土坑 1		0	1	0	0	0	0	1	
TP 20 畦畔		0	0	0	0	5	0	5	山茶碗 1、土師器皿 4
TP 21 畦畔		0	0	0	0	7	2	9	山茶碗 3、土師器皿 3、近世陶器 1
TP 22 溝 1、土坑 1		0	1	0	0	0	0	1	
TP 25		0	1	0	0	0	1	2	
TP 26 溝 1、土坑 1 (14世紀後半)		0	0	0	0	7	0	7	山茶碗 7
TP 27 溝 2		0	0	0	0	0	5	5	
合計	土坑 9、溝 6、畦畔	0	4	6	0	45	41	96	

調査区周辺のグリッドと地形測量図



## 第2節 調査の方法と経過

### 1 発掘調査の方法と経過

当遺跡の発掘調査は、岩田西遺跡の発掘調査と併行して実施した。そして、両遺跡の調査を効率的に進めるために、人力掘削作業や景観撮影等の日程を調査の進捗状況に応じて調整した。また、調査区画は当遺跡と岩田西遺跡との関係を把握しやすくするために、両遺跡を包括して設定した。すなわち、世界測地系座標をもとに 100 m四方の大グリッドを設定し、北から南へBからD、西から東へ4から6とした。そして、大グリッド内に5 m

四方の小グリッドを設定し、北から南へaからt、西から東へ01から20とした。そのため、当遺跡の北端のグリッドは B6d02、南端のグリッドは C5m20となる。なお、本書においても、大グリッドと小グリッドを併用して表記する。

6月23日から重機による表土掘削作業を開始した。北調査区の現況は杉の植樹林であり、伐採された樹木の根株が残っている箇所もある。根株の間を縫うようにして重機での掘削を慎重に行った。

表土掘削後グリッド杭を打設し、7月9日から人力による表土掘削を開始した。遺物包含層掘削は、基本的にねじり鎌等の小型道具を用いて実施した。しかし、樹木等の伐根作業にはツルハシ等の大型道具を使用した。遺構検出後は速やかに遺構配置略図を作成し、遺構の性格に応じた土層観察用畦を設定して、遺構掘削を実施した。

出土遺物は、遺物包含層掘削時はグリッド毎に取り上げ、遺構検出後は出土座標を測定して取り上げた。また、遺構内にて遺物が集中して出土した場合や包含層掘削時に一個体が潰れたような状況で出土した場合は、可能な限り、遺物出土状況図を作成した。遺構は半割法又は四分割法を用いて掘削し、記録写真を残して土層断面図を作成した。そして、遺構の完掘後に、完掘状況の写真撮影及び図化作業を行った。

10月3日に現地説明会にて南調査区全面と北調査区の一部を公開し、242名の参加があった。11月4日に南調査区においてラジオコントロールヘリコプターによる景観撮影を実施し、その後、方形周溝墓の方丘部や井戸の断ち割り調査を行った。また、桜の木が移設された後に、重機による表土掘削作業、人力掘削作業を行った。北調査区では12月10日にラジオコントロールヘリコプターによる景観撮影を実施し、12月14日に発掘調査作業を終了した。

以下、発掘調査日誌から抜粋して、週ごとの調査経過を記述する。

第1週（6/23～6/26）南調査区表土掘削開始（6/23）南調査区表土掘削終了（6/26）

第2週（6/29～7/3）北調査区表土掘削開始（6/29）北調査区表土掘削終了（7/3）

第3週（7/9～7/10）南調査区遺物包含層掘削作業開始（7/9）

第4週（7/13～7/17）南調査区遺構掘削作業開始（7/15）

第5週（7/21～7/24）SZ1掘削

第6週（7/27～7/31）SZ1掘削



写真3 南調査区調査前風景

## 6 第1章 調査の経過

第 7 週（8/3～8/7）S Z 1 から弥生後期初頭の甕と  
台付壺が出上（8/5）

第 8 週（8/17～8/21）北調査区遺物包含層掘削作業  
開始（8/19）

第 9 週（8/24～8/29）宇野隆夫国際日本文化研究セ  
ンター教授現地指導（8/27）

第 10 週（8/31～9/4）S D 9 掘削

第 11 週（9/7～9/11）S K17 掘削

第 12 週（9/14～9/18）北調査区遺構掘削作業開始  
(9/18)

第 13 週（9/24～9/25）南調査区遺構掘削

第 14 週（9/28～10/3）現地説明会実施 参加者 242 名（10/3）

第 15 週（10/5～10/9）北調査区遺構掘削

第 16 週（10/13～10/16）岐阜市立岩小学校児童 38 名遺跡見学（10/14）

第 17 週（10/19～10/23）岐阜市立三輪中学校生徒 6 名職場体験（10/20・21）

第 18 週（10/26～10/30）岐阜市立岐北中学校生徒 4 名職場体験（10/27）

第 19 週（11/2～11/6）南調査区景観撮影実施（11/4）八賀晋三重大大学名誉教授現地指導（11/4）

第 20 週（11/9～11/13）S Z 1 方台部トレーンチ掘削調査実施（11/12）

第 21 週（11/16～11/20）桜の木移設作業及び表土掘削作業実施（11/20）

第 22 週（11/24～11/27）井戸（明治時代）断ち割り調査実施（11/24）南調査区発掘調査作業終了

第 23 週（11/30～12/4）岐阜市立藍川中学校生徒 20 名遺跡見学（12/3）

第 24 週（12/7～12/11）北調査区景観撮影実施（12/10）

第 25 週（12/14） 北調査区発掘調査作業終了（12/14）

## 2 整理作業の経過

出土遺物の洗浄・注記等の一次整理作業は、平成 21 年 10 月 14 日から平成 22 年 1 月 29 日まで実施した。また、出土遺物の接合、実測、トレース、写真撮影、挿図・表の作成、本文執筆等の二次整理作業は平成 22 年度に実施した。

## 3 調査体制

発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

センター所長 後藤満（平成 21 年度）、高橋照美（平成 22 年度）

総務課長 長屋忠司（平成 21・22 年度）

調査課長 小谷和彦（平成 21・22 年度）

調査担当チーフ 谷村和男（平成 21 年度）、春日井恒（平成 22 年度）

担当調査員 石井照久、北村昌弘、小林郁夫（平成 21 年度）、近藤正枝（平成 22 年度）

整理作業員 兼村清子、窪田和生、坂井田照子、清水直美、橋本法子、林浩美、藤下賀代子

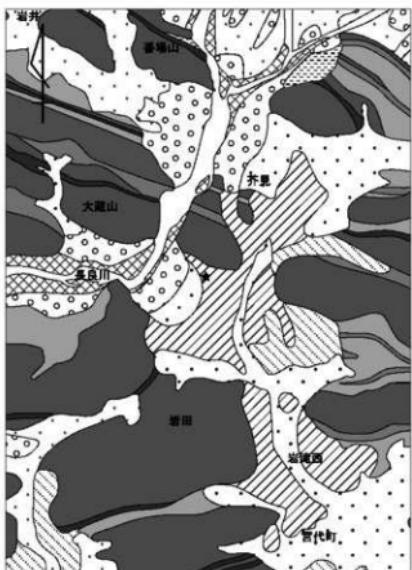


写真 4 現地説明会風景

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

長良川は大日岳(1,709m)の谷水を水源とし、美濃市・関市を経て濃尾平野に流れ出る。武芸川、津保川と合流し、岩地区の西側から金華山の北側に流れる。当遺跡は、長良川によって形成された低位段丘面上に位置する。この段丘面は長良川左岸に広く展開しており、遺跡もこの段丘面上に多く見られる。その土壤は多湿黒ボク土壤で、黒色又は黒褐色を呈する腐食含量に富む細粒質～微粒質土である。また、当遺跡は高さ約3mの段丘崖上にあり、当遺跡の南では段丘崖に沿って寺前川が流れている(図6)。この川は北に向かって流れているので「逆川」と呼ばれており、過去には台風等の洪水時に長良川の水が逆流し、寺前川の堤防が決壊して、段丘下の水田等が多く被害を受けた。段丘崖の下には畑地と水田が広がる。これらは、それぞれ長良川によって形成された自然堤防と後背湿地



地質調査所 1999 地質図 1/50,000 岐阜  
図5 遺跡周辺の地質概略図

地上に造成されており、水田部分は細粒灰色低地土壤で、概ね灰色を呈する腐食含量の比較的低い細粒～微粒質土である。

当遺跡の位置する岐阜市北部は美濃山地の南縁部に含まれ、地質はチャート・砂岩あるいは砂岩・粘板岩の互層からなる。山地の傾斜は中腹部以上では35～45度極急斜面が多く、中腹から山麓にかけても25度以内の急斜面である。山地斜面の勾配が大きいことから、山腹・山頂における遺跡分布が少ないのがこの地域の特徴である。当遺跡の北側には、標高162.9mの清水山が位置し、清水山の南側は北山(通称「八幡山」)と呼ばれている。清水山の大半はチャートから成り、磐座を御神体とし日子坐乃王と御子の八瓜入日子王を祭神とする伊波乃西神社と日子坐乃王の陵墓がある。また山麓の岩田古墳群の石室石材等にチャートが多く使用されている。

当遺跡の位置する地名岩田は岩多の置き換えで、「岩の場所」という意味になる。当遺跡南地区的ある宇羽場の羽場は「崖」の意味で、長良川の左岸から平地が続き、一段高くなった地形を意味している(図7)。

## 8 第2章 遺跡の環境

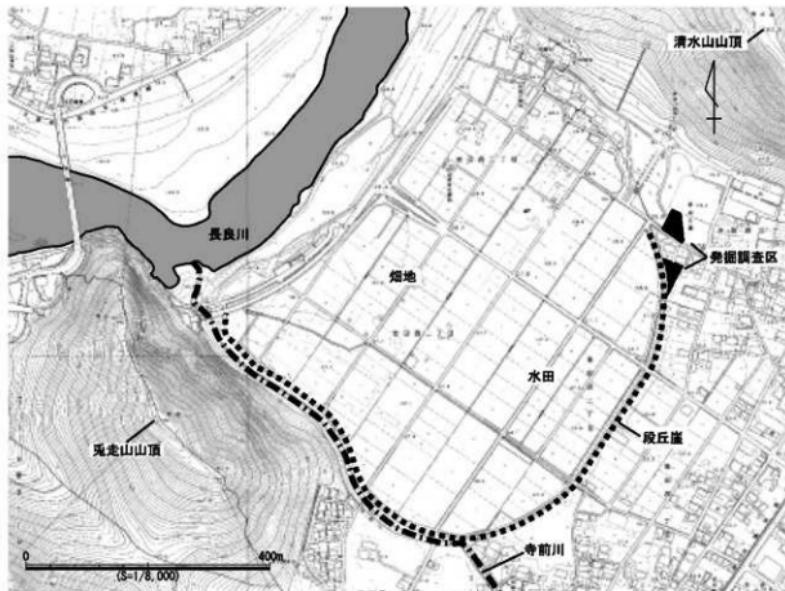


図6 発掘調査区周辺の地形



写真5 調査区周辺の地形

## 第2節 歴史的環境

当遺跡周辺には数多くの周知の埋蔵文化財包蔵地が登録されており、その中には発掘調査によって性格等が明らかとなった遺跡もある。本節では、それらの概要及び当遺跡との関連性が想定される神社の沿革等を中心に、時代順に記す。なお、図8は『改訂版岐阜県遺跡地図』(岐阜県教育委員会 2007)を基に作成し、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2、図8と一致する。

旧石器時代 岩滝A遺跡（28）では、昭和53年の発掘調査によりナイフ形石器や有舌尖頭器などが出土した。また、寺田遺跡（47）、日野遺跡（49）では、昭和60・61年、平成5年の発掘調査等により後期旧石器時代から縄文時代草創期の礫群や配石、土坑等を検出し、ナイフ形石器や角錐状石器などが多数出土した。

縄文時代・弥生時代 芥見町屋遺跡（14）では、昭和47年の発掘調査により弥生時代後期の堅穴住居跡5軒を検出し、1号住居跡からは鉢、器台、高坏、壺、甕など、残存状況の良好な一括資料が出土した。岩田東A遺跡（1）では、昭和2年に採集された遺物に縄文土器（中期後半～晩期）が數点・石鎌・打製石斧・弥生土器（中期）・石庖丁がある。（財）岐阜市教育文化振興事業団による平成20年度の発掘調査で弥生時代中期の堅穴住居跡や弥生時代後期頃の方形周溝墓4基などを検出した（平成20年度現地公開資料による）。また、住居内から石庖丁が見つかっている（平成21年度記者発表資料より）。岩滝A遺跡（28）では、縄文中期後半から後期の土器数点と石鎌19点、打製石斧、石鎌などが出土した。また、弥生時代後期の隅丸方形を呈する堅穴住居跡を検出した。寺田遺跡（47）では、昭和60・61年度の岐阜市教育委員会の調査で、弥生時代の掘立柱建物跡23棟、土坑20基、溝状遺構6条を検出している。建物跡の1棟は棟持柱を有する。出土土器は貝田町式の新しい時期から高藏式までである。日野遺跡（49）では、昭和60・61年度の岐阜市教育委員会の調査で、弥生時代の掘立柱建物跡4棟、土坑31基を検出し、貝田町式～欠山もしくは元屋敷式までの土器が出土している。雨池遺跡（45）からは弥生土器（後期）が数点採集されている。

古墳時代 七反田番場山古墳群（7）は、平成15年に7・10・11号墳の発掘調査を実施した。その結果、7号墳は直径約13.8mの円墳、10・11号墳は墳形、規模ともに不明であった。7号墳の内部主体は両袖式横穴式石室で、石室規模は全長6.0m、玄室長3.2m、奥壁幅1.3mであり、須恵器や土師器が出土した。また、11号墳の内部主体は木棺直葬で、須恵器や土師器、鐵鎌等が出土した。大藏山古墳（12）は、大正14年に発掘調査を実施した。円墳で墳丘規模は不明であるものの、横穴式石室内部に長さ90cmの砂岩製長持型石棺があり、人骨が残存していた。蓑笠山古墳群（17）は2基の円墳から成り、1号墳は直径12m、高さ2.4m、2号墳は直径8m、高さ1.8mである。内部主体は不明であるものの、1号墳から須恵器が出土した。岩田古墳群（18）は、『岐阜市史史料編考古・文化財』では7基の円墳から成るとされている。そのうちの1号墳（智照院古墳）は昭和53年に部分発掘調査が実施された。墳丘は直径約16m、高さ約2.5mで、内部主体は片袖式横穴式石室である。石室規模は全長7.9m、玄室長4.9m、奥壁幅1.2m、石室最大幅1.9mで、須恵器、金環、銀環等が出土した。また、『岐阜市史史料編考古・文化財』の岩田古墳群6号墳は中屋敷古墳に該当し、須恵器高坏が採集されている。朝倉古墳群（23）は4基の古墳から成り、大正年間に発掘調査が実施された。古墳の

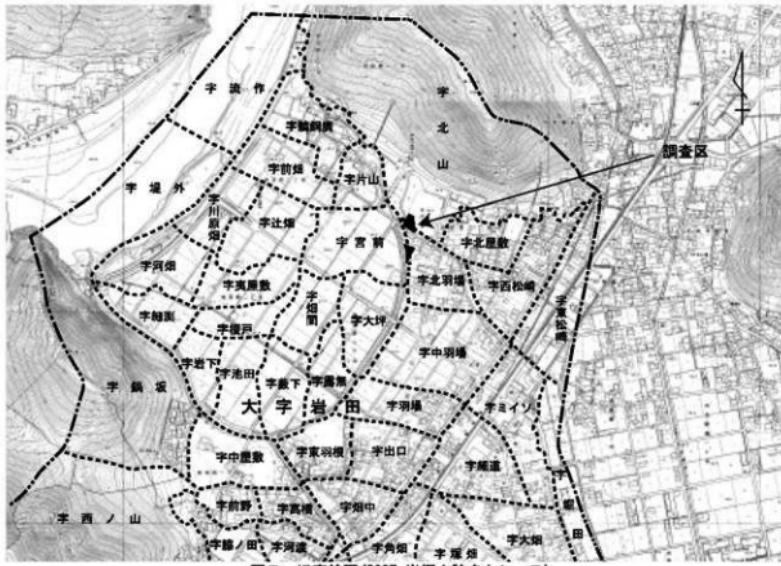


図7 旧字絵図(2007 岩郷土誌をトレース)

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	岩田東口遺跡	散布地	古代・中世
2	加野番場山古墳群	古墳	古墳
3	溝口番場山古墳群	古墳	古墳
4	北長塚古墳群	古墳	古墳
5	北長塚遺跡	散布地	縄文
6	石原番場山古墳群	古墳	古墳
7	七反田番場山古墳群	古墳	古墳
8	七反田番場山2号古墳	古墳	古墳
9	七反田番場山1号古墳	古墳	古墳
10	加野西畠遺跡	散布地	古代・中世
11	加野南遺跡	散布地	古代・中世
12	大蔵山古墳	古墳	古墳
13	長良古津遺跡	散布地	古代・中世
14	笄見町屋遺跡	散布地	弥生
15	大船山古墳群	古墳	古墳
16	芥見長山遺跡	集落跡	古代
17	篭笠山古墳群	古墳	古墳
18	岩田古墳群	古墳	古墳
19	岩田西遺跡	散布地	古代・中世
20	中屋敷遺跡	集落跡	古墳～近世
21	中風敷古墳	古墳	古墳
22	老森古窯跡群	生産遺跡	古代
23	朝倉古墳群	古墳	古墳
24	朝倉古窯跡群	生産遺跡	古代
25	朝倉遺跡	散布地	縄文～古代
26	岩田東口遺跡	散布地	旧石器

番号	遺跡名	種別	時代
27	岩石古墳群	古墳	古墳
28	岩尾A遺跡	散布地	旧石器～中世
29	岩尾西B遺跡	散布地	旧石器～中世
30	岩施西C遺跡	散布地	旧石器～中世
31	岩施西D遺跡	散布地	旧石器～中世
32	北洞遺跡	散布地	弥生～近世
33	宮代遺跡	散布地	旧石器～近世
34	南洞古墳群	古墳	古墳
35	尾崎大平古窯跡群	生産遺跡	古代
36	南洞古窯跡群	生産遺跡	古代
37	奥洞窯跡群	生産遺跡	古代
38	岩田7号古墳	古墳	古墳
39	岩田坂古窯跡群	生産遺跡	古代
40	岩田坂古墳群	古墳	古墳
41	尾崎古墳群	古墳	古墳
42	親音寺古墳群	古墳	古墳
43	桐野遺跡	散布地	旧石器～近世
44	雨池東遺跡	散布地	旧石器
45	雨池遺跡	散布地	弥生
46	山手古墳群	古墳	古墳
47	守田遺跡	集落跡	旧石器～弥生
48	守田森遺跡	散布地	旧石器
49	日野遺跡	集落跡	旧石器～弥生
50	日野北石神遺跡	散布地	縄文
51	日野古窯跡群	生産遺跡	古代
52	船伏山古墳群	古墳	古墳

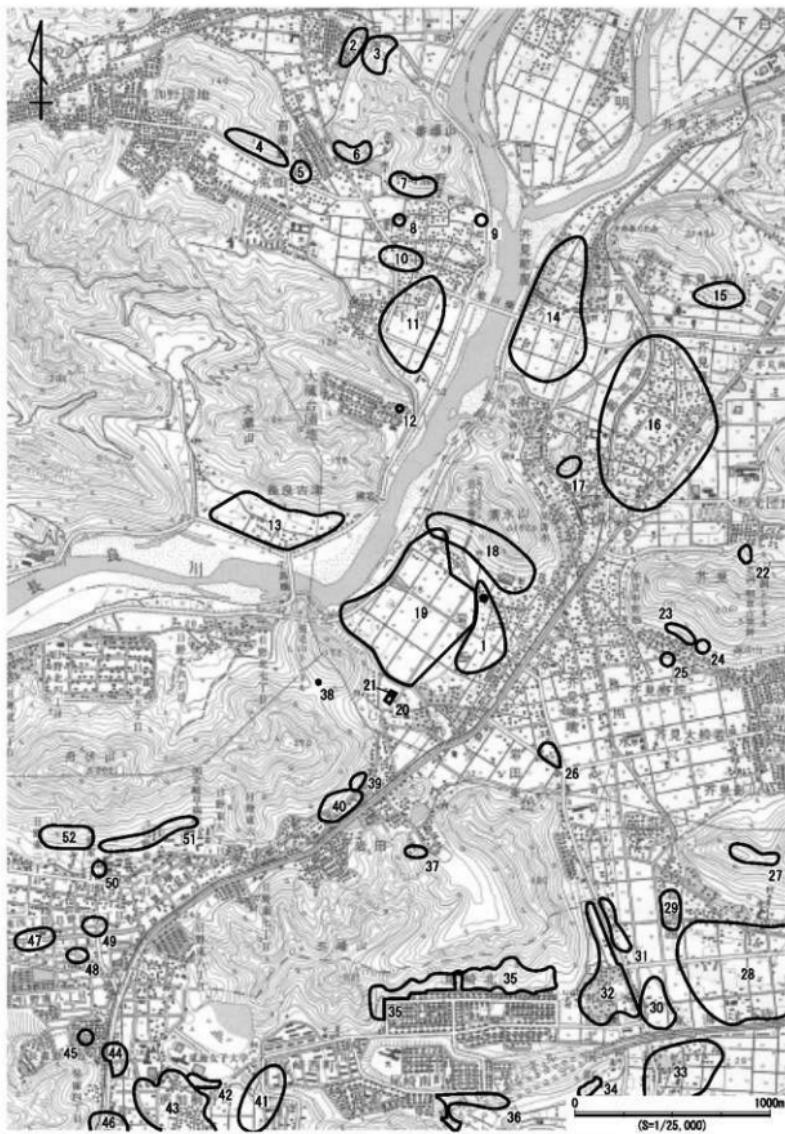


図8 周辺遺跡位置図（国土地理院発行 1:25,000 地形図「岐阜」）

規模はいずれも7～11mで、内部主体は横穴式石室である。遺物は、1号墳から金環、直刀、須恵器、2号墳から須恵器、鉄片、3号墳から管玉、須恵器、4号墳から須恵器が出上している。雨池遺跡(45)では、土師器の台付壺の部片が採集されている。

奈良・平安時代 芥見長山遺跡(16)では、昭和55年の発掘調査により堅穴住居跡12軒、掘立柱建物跡3棟、土坑43基、溝2条などを検出した。その時期は概ね8世紀中葉から9世紀初頭と考えられており、なかでも三彩の出土は注目できる。また、平成15年の試掘調査でも、古代には埋没していたと考えられる堅穴住居跡2軒を検出した。

老洞古窯跡群(22)は、昭和53年に1号窯全体と1～3号窯灰原の発掘調査を実施した。1号窯は全長9.3mの須恵器窯であり、その灰原から「美濃」、「美濃國」刻印須恵器が出土し、全国的に注目された。日野古窯跡群(51)は5基の窯の存在が知られており、1～4号窯は灰釉陶器窯、5号窯は瓦窯で丸瓦と平瓦が採集されている。奥洞古窯跡群(37)、岩田坂古窯跡群(39)は、いずれも灰釉陶器窯である。

岩田西遺跡(19)では、平成21年度の岐阜市教育委員会の発掘調査で平安時代の人工的な水路跡と奈良時代の低地などから「美濃國」と刻印された須恵器(8世紀)が2点出土している。須恵器を長良川から各地に運び出す物流拠点が近くにあったと推測されている<sup>1)</sup>。

また、岩田古墳群(18)の範囲内には伊波乃西神社が位置する。伊波乃西神社は、927(延長5)年に奏進された『延喜式』に各務郡七座のうちの一つとして、また天慶年間から天暦・天徳年間(938～960年)に成立したと推定されている『美濃國神名帳』に各務郡座二十三社のうちの一つとして記載されている。

鎌倉時代以降 芥見長山遺跡(16)では、平成10年の試掘調査により戰国時代の溝3条や方形堅穴1基を検出した。また、岩田西遺跡(19)は、平成20年度の発掘調査により室町時代の水田区画を広域にわたって検出し、擬漢式鏡や双魚文をもつ青磁等が出土した。なお、中屋敷遺跡(20)からは、中近世の掘立柱建物跡4棟、16～17世紀初頭頃に築造された地下式坑3基が検出されている。また、中屋敷遺跡の南側に位置する墓地内には15～16世紀頃の五輪塔数基が、岩田古墳群(18)の範囲内に位置する林陽寺の墓地内には15～16世紀頃の宝篋印塔と五輪塔数基が存在している。日野遺跡(49)では、昭和61・62年度の岐阜市教育委員会の発掘調査で中世の土坑5基、掘立柱建物跡1棟を検出している。

近代 岩地域は幕領旗本室賀氏所領各務郡岩田村と高富藩所領各務郡岩瀬村の2村が、明治30年4月1日に稻葉郡岩村となり、昭和25年12月10日に岐阜市へ合併している。

注1) 嘉老年間(717～723年)の駅伝制で定められた駅路のうち、岐阜市内を通過するのは東山道である。その道筋の全容は定かでないものの、長良古津遺跡(13)付近から岩田西遺跡(19)付近で長良川を渡河したとする説がある。

## 第3章 調査の成果

### 第1節 基本層序と遺構確認面

当遺跡は長良川の河岸段丘上に位置し、基盤となる面は段丘堆積層である。また、明治時代の地籍図では、当遺跡北調査区は林、南調査区は畠として記載されている。北調査区には木の切り株が多く残り、北調査区の更に北には池があり、池の水を段丘下に流すための溝があったことである。また北調査区には神社への道が通り、道沿いには消防小屋があったようである。北調査区と南調査区の間は宅地による搅乱を受け、発掘調査の対象外となっている。

南調査区に平坦面があるが、西側の段丘崖付近で地山が掘削され、大きく西へ傾斜する。近代にこの傾斜を埋め立てており、この土を外して中世の溝跡を検出した。中世の溝跡は埋め立て前に搅乱を受けている。中世の時代には平坦面が現在より南西方向にさらに広がっていたようである。

以下、基本層序のⅠ層からⅢ層までの詳細及び遺構確認面について記載する。

#### I層 10YR4/2 灰黄褐色土～10YR3/2 黒褐色土 表土（耕作土、造成土）

現代の表土や畑耕作土、山林造成土などをまとめてⅠ層とした。調査区全面において認められ、層厚は北地区で約0.7m、南地区では約0.5mである。弥生時代から近代までの遺物を含む。

#### II層 10YR3/3 暗褐色土 遺物包含層

江戸時代以降に堆積した土と推定される。調査区全面において認められ、層厚は北地区で約0.30～0.50m、南地区で約0.20～0.30mである。弥生時代から近代までの遺物を含み、Ⅱ層除去後に、弥生時代、中世、近世の遺構を確認した。

#### III層 10YR3/3 暗褐色土 地山、無遺物層

層厚は約0.50m以上である。Ⅲ層上面（Ⅱ層除去後）が遺構確認面であり、弥生時代の方形周溝墓や中世以降の溝跡はⅢ層上面に構築されている。なお、Ⅲ層中に遺物は含まれない。



写真6 南調査区西側段丘崖削平



写真7 南調査区東壁土層1



写真8 南調査区東壁土層2



写真9 北調査区西壁土層

14 第3章 調査の成果

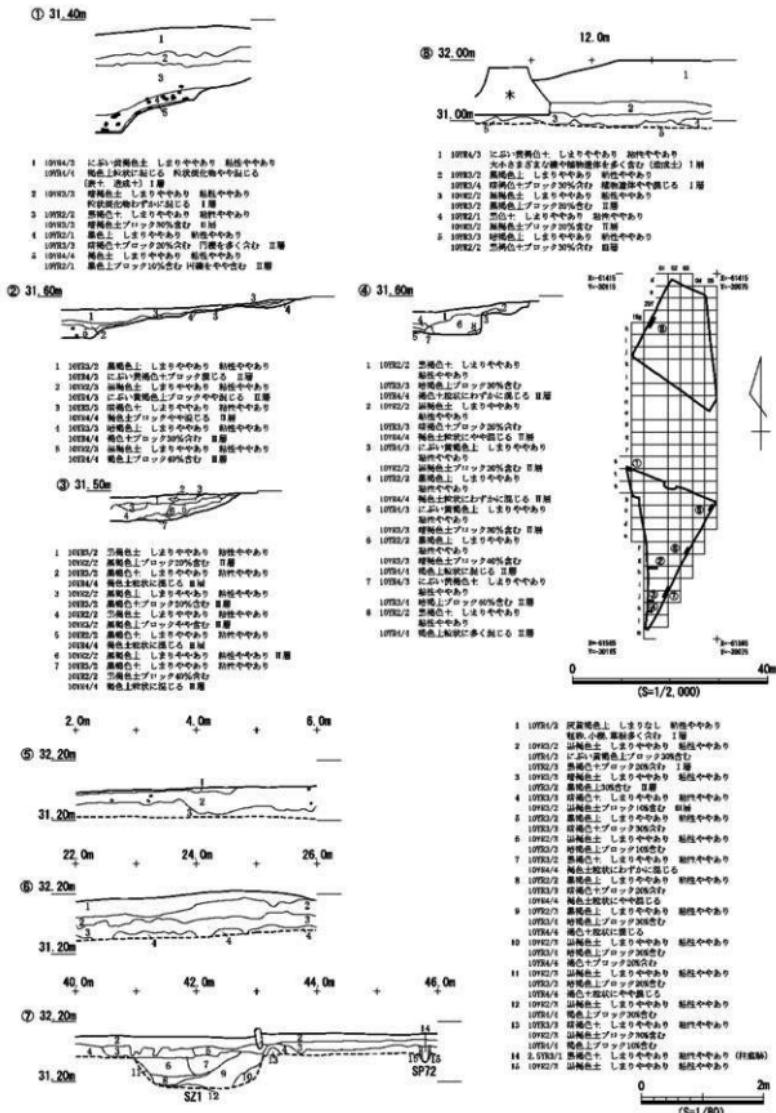


図9 調査区壁面土層図

## 第2節 遺構概要

今回の調査では、弥生時代中期と後期、安土・桃山時代、江戸時代後期の遺構を検出した。遺構の多くは南調査区で検出した。そのうち、弥生時代の方形周溝墓（S Z 1・S Z 2）は南調査区の中央と南側に位置する。南調査区中央では鎌倉～室町時代の掘立柱建物跡（S H 1・2）や区画溝（S D 1～7）や安土・桃山時代の区画溝（S D 8～12）や櫛跡（S A 1・2）などを検出した。また、江戸時代後期の溝や土坑などを北調査区と南調査区の北側から検出した。

遺構の種類と検出数は、表3のとおりである。区画溝の内側からは、単独の柱穴跡（S P、以下、括弧内のアルファベットは遺構略号を示す。）が確認されているが、遺構内の堆積土中で柱痕跡を確認したものが7基、遺構底面にて柱当たりの痕跡を確認したものが13基ある。このなかには掘立柱建物跡や櫛跡の柱穴跡（P）となる遺構もある。しかし、発掘調査時から整理等作業にかけて、掘立柱建物跡2棟、櫛跡2列の他に、同一規模の柱穴跡のまとまりや並びを確認できなかったため、残りのよい遺構を単独の柱穴跡として報告する（図30・42）。

なお、本報告書において、遺構の挿図や写真は、方形周溝墓、溝跡など、遺跡の性格を理解する上で必要なものを中心に掲載した。しかし、時期や性格が不明の土坑などは、図10の遺構分類模式図に基づき、遺構観察表（表9～14）に分類名を記載するのみとした。

表3 検出遺構一覧表

遺構の種類	略号	検出 遺構数	挿図 掲載数
掘立柱建物跡	S H	2	2
土坑	S K	122	16
溝	S D	19	19
単独の柱穴跡	S P	229	30
方形周溝墓	S Z	2	2
掘立柱建物跡の柱穴跡	P	8	8
櫛跡	S A	3	3
合計		385	80

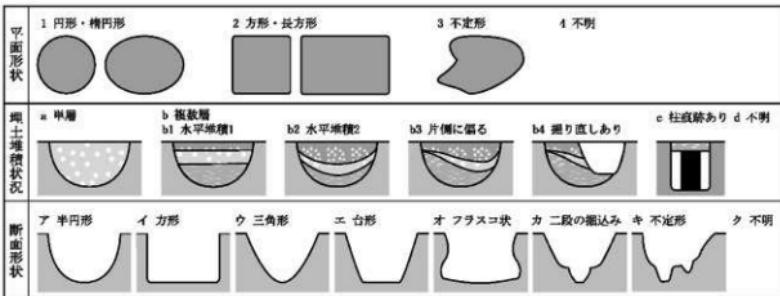


図10 遺構分類模式図

16 第3章 調査の成果

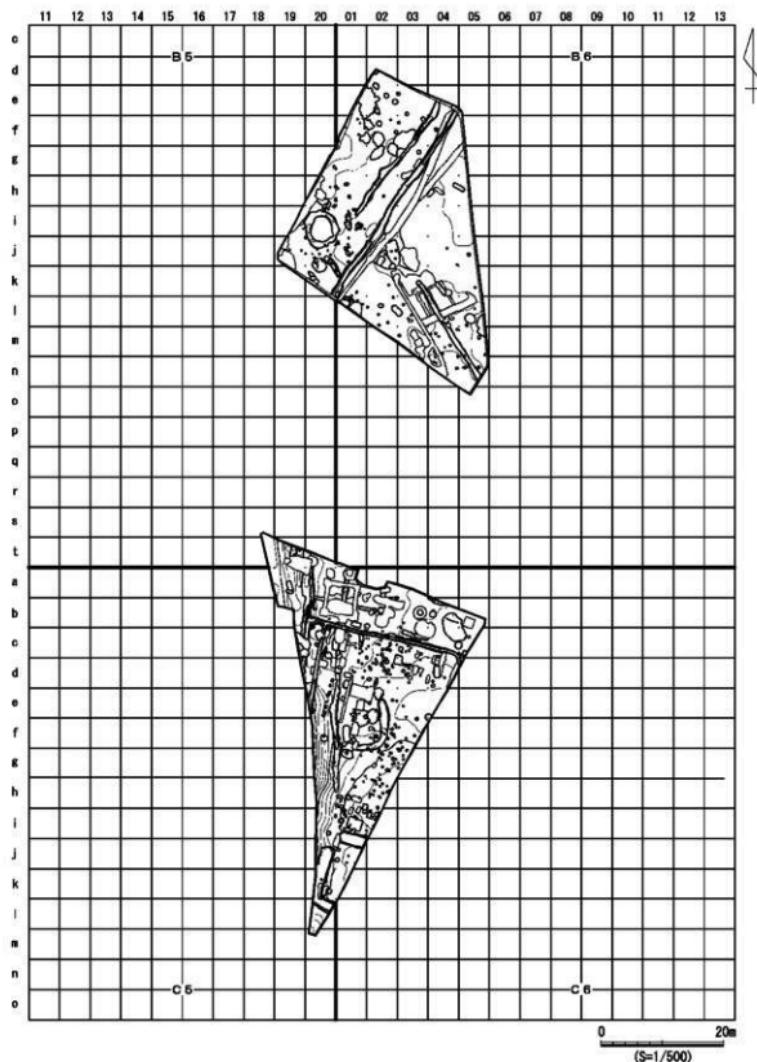


図11 調査区全体図

## 第3節 遺物概要

### 1 出土遺物数と掲載遺物数

出土遺物は、接合前の破片数で合計 5,250 点ある（表4）。そのうち、中世陶磁器が 17.7%、近世陶磁器は 42.1% である。近世陶磁器が全体の出土遺物数に対する割合が最も多く、次いで近世以降の瓦・弥生土器・中世土師器（土師器皿、鍋等）などが多い。また、その他の種別として須恵器や灰釉陶器などが出土しているものの、全体の出土遺物数に対する割合はいずれも 6% 以下である。なお、接合率（表4の b/a）の高い種別は近世陶磁器であり、次いで弥生土器などである。

掲載遺物数は合計 398 点であり、接合後破片数の 9% である。その抽出方法は、遺構出土遺物のうち、遺構の性格や時期等の検討する上で必要なものや、遺物包含層出土遺物のうち、遺跡の性格を端的に示すものや分類別の代表的なものを中心を選択している。

表4 出土遺物点数等一覧表

種別	接合前 破片数 (a)	接合後 破片数 (b)	重量(g)	(b)の全体 に対する割 合(%)	b/a	掲載 点数 (c)	c/b
圓文土器	3	3	213.6	0.1	1.00	0	0.00
弥生土器	320	267	5,122.7	6.2	0.83	44	0.16
土師器	150	115	1,096.0	2.7	0.77	2	0.02
須恵器	267	242	6,002.6	5.6	0.91	12	0.06
灰釉陶器	89	87	2,900.5	2.0	0.98	12	0.14
中世陶磁器	807	766	5,895.1	17.7	0.95	29	0.04
近世陶磁器	2,432	1,816	143,200.4	42.1	0.75	196	0.11
中世土師器	300	258	1,420.7	6.0	0.86	10	0.04
近世土師器	104	85	1,599.9	2.0	0.82	7	0.08
近世以降の瓦	609	515	154,628.1	11.9	0.85	54	0.10
石器・石製品	57	57	9,485.6	1.3	1.00	13	0.23
金属製品	65	63	497.1	1.5	0.97	10	0.16
その他(土製品等)	47	44	894.0	1.0	0.91	9	0.20
合計	5,250	4,318	332,986.3	100.0	0.82	398	0.09

### 2 時期区分

本報告書における時期区分は一般的に使用されている時代呼称を用い、その年代総に対応する土器様式等は既存の研究に従った（表5）。また、本報告書における中世はおよそ平安時代後半から安土・桃山時代、近世はおよそ江戸時代に対応する。なお、出土した遺物について、以下の方々から土器様式名、産地、時期などの指導を得た。しかし、本書における記載内容の責任は編集者にある。

須恵器：渡邊博人（各務原市役所）

土師器皿：井川祥子（岐阜市教育委員会）

中近世陶磁器：藤澤良祐（愛知学院大学）

石器・石製品：長屋幸二（岐阜県博物館）

### 3 遺物概要

ここでは種別ごとの所属時期、分布、接合関係などについて記す。

#### (1) 縄文土器

出土点数は3点と少なく、しかも大半は細片である。そのうち、時期の推定できる資料は無い。

#### (2) 弓生土器

出土遺物の所属時期は、弥生時代中期～後期である。その出土位置は調査区全体に広がっており、なかでも方形周溝墓周辺及び北調査区南側にまとまっている。遺物の接合は、1号方形周溝墓の周溝内及びその周辺において確認できたのみである。

#### (3) 土師器

古代の長胴甕が数点出土している。北調査区北端からの出土である。

#### (4) 須恵器

出土遺物の所属時期は、7世紀後半のものがほとんどで9世紀初頭のものまである。その出土位置は北調査区中央と南調査区北側である。特に北調査区からの出土が多く南調査区出土のものは小破片でこすれて丸くなっているものが多く攢乱を受けている。北調査区からは甕・瓶類・平瓶・横瓶が出土し、特に甕は二次焼成を受けているか色が赤く、はざっている。これらの甕は接合でないくらいの破片で、打ち欠いている可能性が高い。出土遺物の生産地は美濃須衛窯と猿投窯がある。

#### (5) 灰釉陶器

出土点数は87点と少なく、しかも大半は細片である。その出土位置は調査区全体に散在している。出土遺物の生産地は猿投窯で、高台形態から推定できる遺物の所属時期は、猿投編年の折戸53号窯式から東山72号窯式併行期である。

#### (6) 中近世陶磁器・土師器

出土遺物の所属時期は、鎌倉時代から江戸時代まで中世は出土数が少ないもののほぼ連続しており、特に江戸時代の遺物が多い。その出土位置は北調査区東側と南調査区北側に多くみられる。特にゴミ捨て穴と思われる遺構から多く出土している。土師器皿は鎌倉時代のものが2点出土しているが、ほとんどは16世紀後半以降のものである。

#### (7) 近世以降の瓦

出土遺物の大半は、江戸時代末期から明治時代の陶磁器とともに出土している。

- ・瓦の部分名稱及び計測位置は図12のとおりである。

#### (8) 石器・石製品

出土遺物の所属時期は、縄文時代と弥生時代、江戸時代に分かれる。前者は有舌尖頭器、石鏃、磨製石斧、粗製刀器などで、後者は砥石、石硯、石臼などで江戸時代の陶磁器と分布を同じくする。砥石の石材同定は実施していない。なお、石器・石製品の器種及び石材は表6のとおりである。

#### (9) 金属製品

出土遺物の所属時期は江戸時代以降である。出土遺物63点の内訳は、錢貨5点、煙管4点、櫛1点、刀子1点、装飾具1点、鎧1点、円管状鉄製品3点、不明46点であり、錢貨・煙管の出土が多い。

表5 編年対応表

西暦

時代呼称

土器様式・型式

当選跡の様相

西暦	時代呼称	土器様式・型式	当選跡の様相
200		弥生土器・土師器 朝日	
100			
B.C. 0 A.D.	弥生時代	貝田町 高麗	
100			
200	中期		
八王子占宮			
山中I			
山中II			
200	後期		
燧窯I			
燧窯II			
300	前期		
煙窯III			
400	古墳時代	猿投窯他 美濃須衛窯 松河戸I 松河戸II 宇田I 宇田II 儀長	
500	中期	I期 H-11 H-48 城山I-2 H-1 H-61 +	
600	後期	II期 H-44 H-50 H-1 IV期窯1小窯 H-25 H-32 0-10 IV期窯3小窯	
700	終末期		
800	秦良時代		
900		V期窯1小窯 V期窯2小窯 K-90 0-53 H-72 白代寺	
1000	平安時代	美濃窯 光ヶ丘-1 大原-2 鹿島II-1 丸石-2 明和-27 西坂-1	
1100			
1200	鎌倉時代	常滑窯 久戸上野2 井辻窯2 吉野窯Y-1 益田窯2 益田窯1 白土窯1 羽根1 大根大根4 大谷窯14 大根窯1 鳥之巣3 尾山2	
1300	(南北朝時代)	9型式	
1400	室町時代	10型式	
1500		11型式	
1600	安土・桃山時代	12型式	
1700			
1800	江戸時代		
1900			

※中里豊著の表5に加筆

表5の参考文献

- 武松純一・石川日出志 2003「総説 弥生早期から中期の土器」『考古資料大観1 弥生・古墳時代 土器I』小学館
- 石黒立人 2003「中部地方の土器」『考古資料大観1 弥生・古墳時代 土器I』小学館
- 赤塚次郎 2002「総説 土器様式の偏差と古墳文化」『考古資料大観2 弥生・古墳時代 土器II』小学館
- 早野浩二 2002「東海・中部地方の土器」『考古資料大観3 弥生・古墳時代 土器III』小学館
- 齋藤孝正 1995「猿投・美濃・美濃須衛窯編年と他窯編年対比表」『須恵器集成図録 第3巻 東日本編I』
- 多治見市教育委員会 1997『大針台4・5号窯発掘調査報告書』
- 多治見市教育委員会 2003『松阪8~11号窯発掘調査報告書』
- 中野晴久 1995「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館
- 愛知県史編纂委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 濑戸系』

表6 石器・石製品一覧表

石材 器種	チャート	めのう	下呂石	轍灰岩	瀧原 流紋岩	粘板岩	安山岩	頁岩	砂岩	花崗岩	ホルン フェルス か	石材不明	総計
有舌尖頭器	1												1
石鏃	2												2
スクレイバー	1	1			1								2
粗製刃器													1
R.F	1												1
石核	1												1
フレイク	7		2	1	1								11
打製石斧						1	1						2
磨製石斧								1					1
敲石								1					1
砥石				1		1	1	2	2			2	9
石礫							2						2
石臼										1			1
石壠												21	21
石製品か											1		1
総計	13	1	2	3	2	4	3	2	2	1	1	23	57

近世以降の瓦

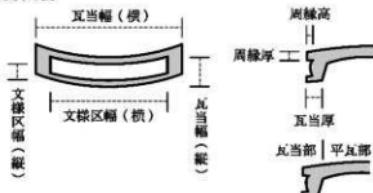


図12 瓦の部分名称・計測位置

## 第4節 弥生時代の遺構と遺物

### 1 1号方形周溝墓（S Z 1）（遺構図：図13～15、遺物図：図16）

低位段丘の平坦面にあるが、西溝は段丘崖の傾斜地になる。西溝は近世以降に搅乱を受けている。東の調査区外に続いていると思われる。S Z 1が構築された場所の標高は約31.6mで、墳丘上からは長良川や段丘崖下の低地が一望できる。

S Z 1周辺は明治時代に畑として使用されており、耕作に伴うものと思われる土坑がある。西側の溝は深さが深いところで約0.48mである。溝の底部はやや丸みがある。壁面は緩やかに立ち上がっており、方台部側の方がわずかに直立気味である。土層断面からは方台部からの土の流れ込みがうかがえる。方台部において、主体部の痕跡を確認するためトレンチ掘削を行ったが、何も確認できなかった。出土遺物は近世以降の搅乱から2点、他に小破片が2点出土している。

北側の溝は東西に伸びる溝で西の端は収束していくよう、南側の溝はL字型をしている。北東・南東・南西角は調査区外であるため調査していないが、方形周溝墓の形状は角がしっかりした正方形で、北西隅が切れる一隅切削型になる可能性が高い。溝内から赤彩のある台付壺、甕が出土し、高坏は溝上部の搅乱から出土している。甕は溝の底部よりもやや高い位置に正位で置かれており、意図的に埋められたものと思われる。甕の口縁部は胴部からやや離れて甕周辺と台付壺周辺とに出土している。台付壺は口縁部が欠損しており、壺・甕ともに口縁部を故意に打ち欠いている可能性が高い。

出土遺物は、溝内部からと西の搅乱から弥生土器42点、石器3点が出土しその内13点を掲載した。1～5は貝田町式併行の土器で弥生時代中期中葉のものである。6～11は弥生時代後期のもので、特に7～9は弥生時代後期初頭の土器と考える。<sup>11)</sup> 7の高坏は盤状高坏に形状が似ており後期のものと考える。8の台付壺は重厚で形や作りは中期末であるが赤彩があることから後期のものと考える。9の甕は近江系のもので後期初頭のものと考える。胴部外面下部と内面下部には煤が付着しており、煮炊きに使用したものを埋納している。12は石鐵で繩文時代のものと思われる。13は粘板岩製の粗製刃器で弥生時代のものと思われる。

本遺構の所属時期は、高坏・台付壺・近江系の甕の残存状況出土状況から、遺構の時期はこれらの土器の年代になると考えられ、弥生時代後期初頭と推定される。

### 2 2号方形周溝墓（S Z 2）（遺構図：図17、遺物図：図19）

低位段丘の平坦面があり、中世・近世の遺構により搅乱を受けL字形の1辺（東南辺）の溝以外は残っていない。東辺の北端は収束している。南辺の西端は少しずつ浅くなり近世の遺構の搅乱を受け分からなくなる。遺構確認面の高さが西に向かって全体に低くなることから近世以降の削平をうけているものと思われる。溝の深さは東辺で約0.08m、南辺で約0.13mととても浅い。残存していた遺構埋土は単層で、溝の底部はやや丸みを持つ。形状はS Z 1に比べ角が丸い方形である。S Z 2が構築された場所の標高は約31.4mで、墳丘上からは長良川や段丘崖下の低地が一望できる。

出土遺物は、弥生土器15点であり、周溝から出土した土器は1点で、北や西の溝があったと思われる所から多く出土している。14・15・17は周溝より内面の台部上搅乱から出土している。14・15は甕、17は細頸壺である。中期中葉貝田町式併行の土器である。20は唯一周溝内部からの出土で中期後葉高

蔵式併行の土器である。18・21・22は北溝にあたる位置にある搅乱から出土しており18は細頸壺、それ以外は壺で、中期後葉高藏式併行の土器である。同じく北溝にあたる搅乱から出土している23は三河からの搬入品で古井式併行の土器である。16・19は西溝にあたる位置にある中世の溝から出土しており、16は高杯、19は壺で中期後葉高藏式併行の土器である。S Z 2のやや南のピットからは28・29の中期中葉貝田町式併行の壺が出土している。

本遺構の所属時期は、弥生土器の年代、周溝の形状から弥生時代中期後葉高藏式併行期と推定される。

### 3 潟状遺構

今回の調査において、南調査区の方形周溝墓以外の遺構で、弥生時代の遺物のみが出土した遺構は北調査区に少しある。それらの遺構から出土した遺物は14点と少なく、すべての遺構の所属時期が弥生時代とは断定できないが、南調査区の方形周溝墓と南調査区北側以外に弥生土器が出土するのは北地区南側である。そのため弥生時代の遺構である可能性が高い。

#### S D18（遺構図：図18、遺物図：図19）

北地区南西にある。壁面は緩やかに立ち上がる。2段の掘り込みがある。出土遺物は弥生土器の破片が14点出土した。24は中期中葉以前の弥生土器で壺である。25・26は中期中葉貝田町式併行の土器で25が壺、26が壺である。27は中期の壺と思われる。

本遺構の所属時期は、出土土器から中期中葉貝田町式併行期と推定される。

#### S D19（遺構図：図18、遺物図：図19）

北地区南西にある。形状がドーナツ形で、溝の深さが浅く約8cmである。遺構の形状から弥生時代の遺構と推定した。

### 4 土坑

#### S K19（遺構図：図18、遺物図：図19）

北地区南東にある。壁面は緩やかに立ち上がる。出土遺物は31の弥生土器で、中期前半朝日～貝田町式併行の壺である。

本遺構の所属時期は、出土土器から中期前半朝日～貝田町式併行期と推定される。

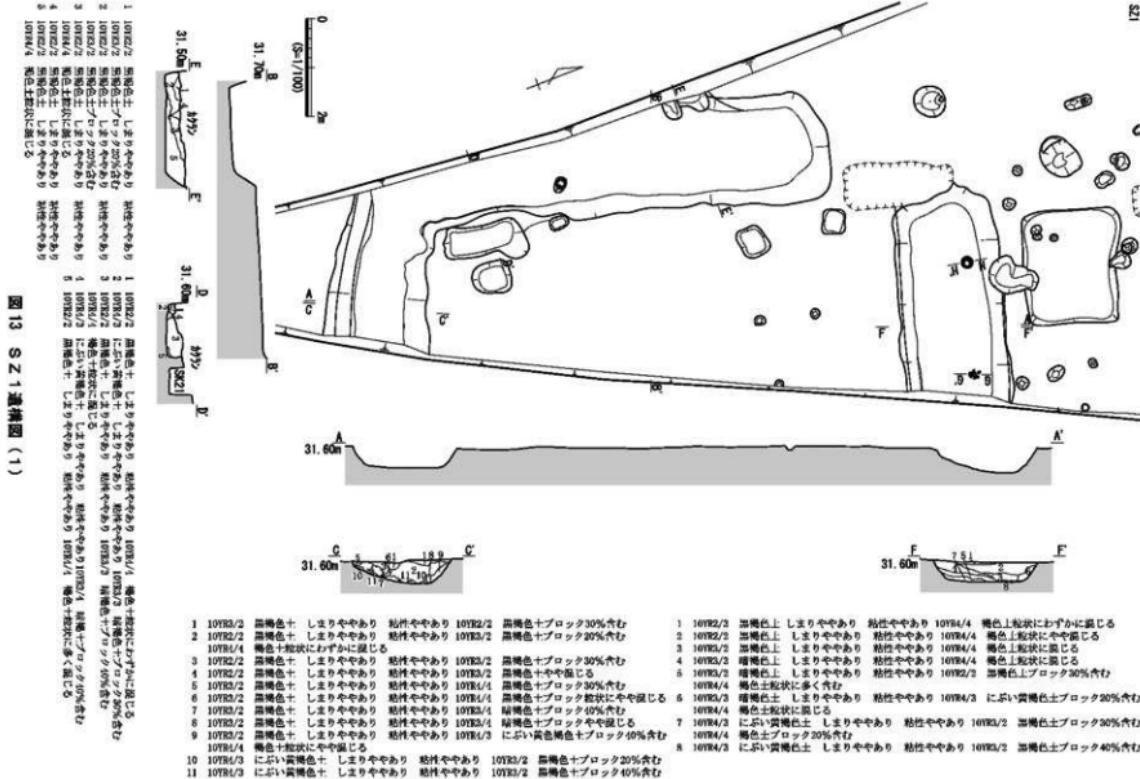
### その他の遺構出土弥生土器

30は中世の溝から出土している中期後葉高藏式併行の壺であるが、南調査区北側からは他にも中期の土器が出土している（第3章第7節に掲載）。

注1）「7の高杯は尾張には無く在地的なものと考えられる。口縁部の作りや脚部との接合を見ると後期のものと考えられる。」

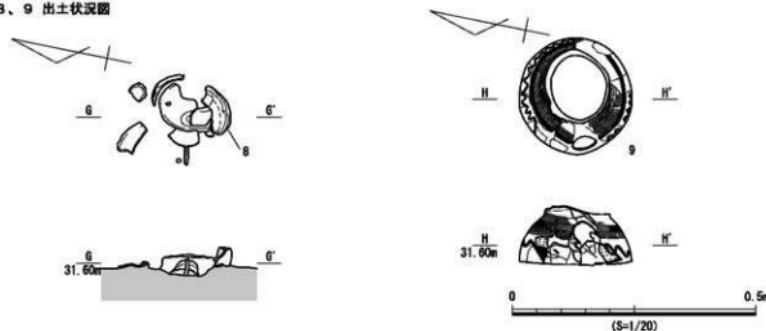
8の台付壺は脚部の作りが中期的であるが水影があることから後期と考える。」と名古屋市博物館村木誠氏から御指導いただいた。

「7の高杯は中期から後期の中間的なものなので後期初頭から後期前半と考える。9の壺は近江系（湖南）に起源を持ち、搬入品というよりは製作技術を持った者がこの地で作ったものと考える。」と愛知県埋蔵文化財センター石黒立人氏から御指導いただいた。



24 第3章 調査の成果

8、9 出土状況図



10 出土状況図

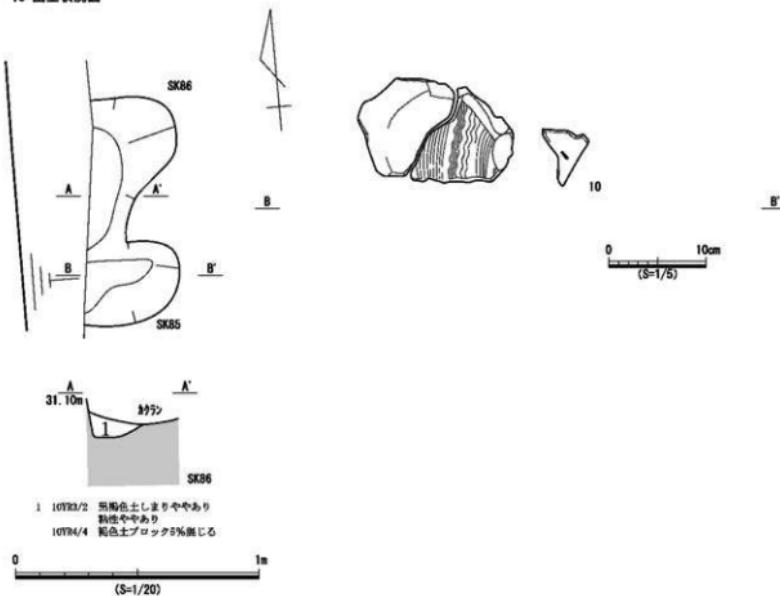


図14 SZ1 遺構図(2)

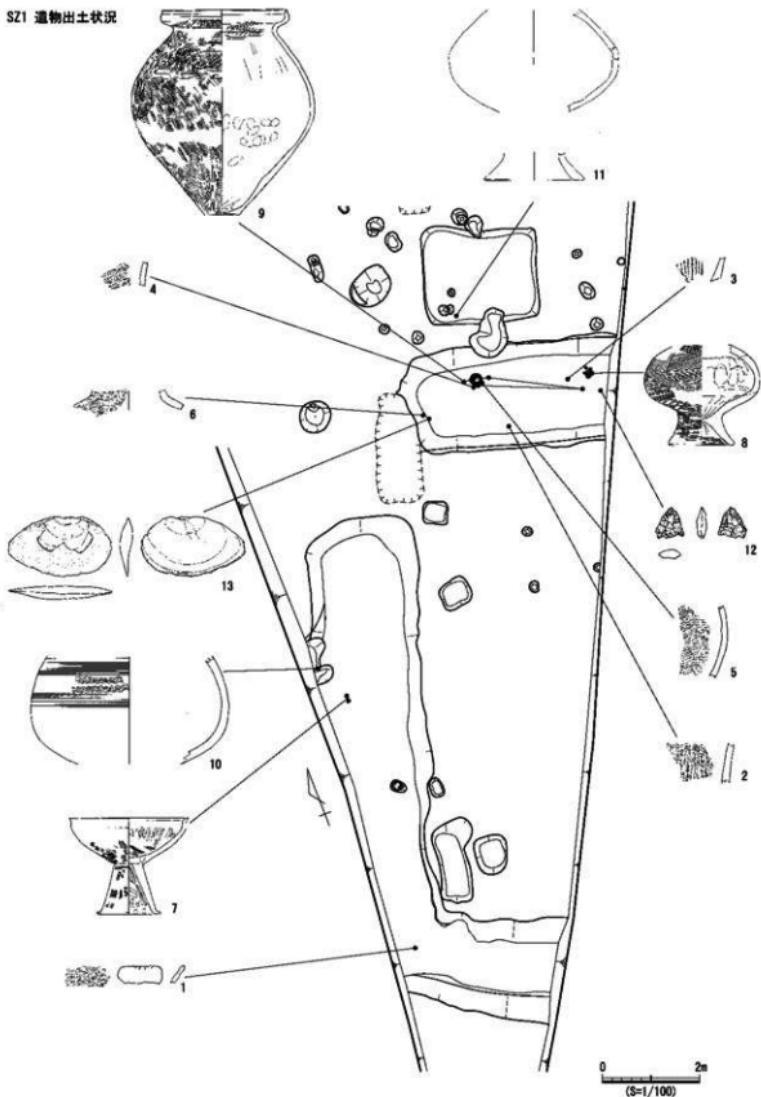


図 15 SZ1 遺構図 (3)

SZ 1

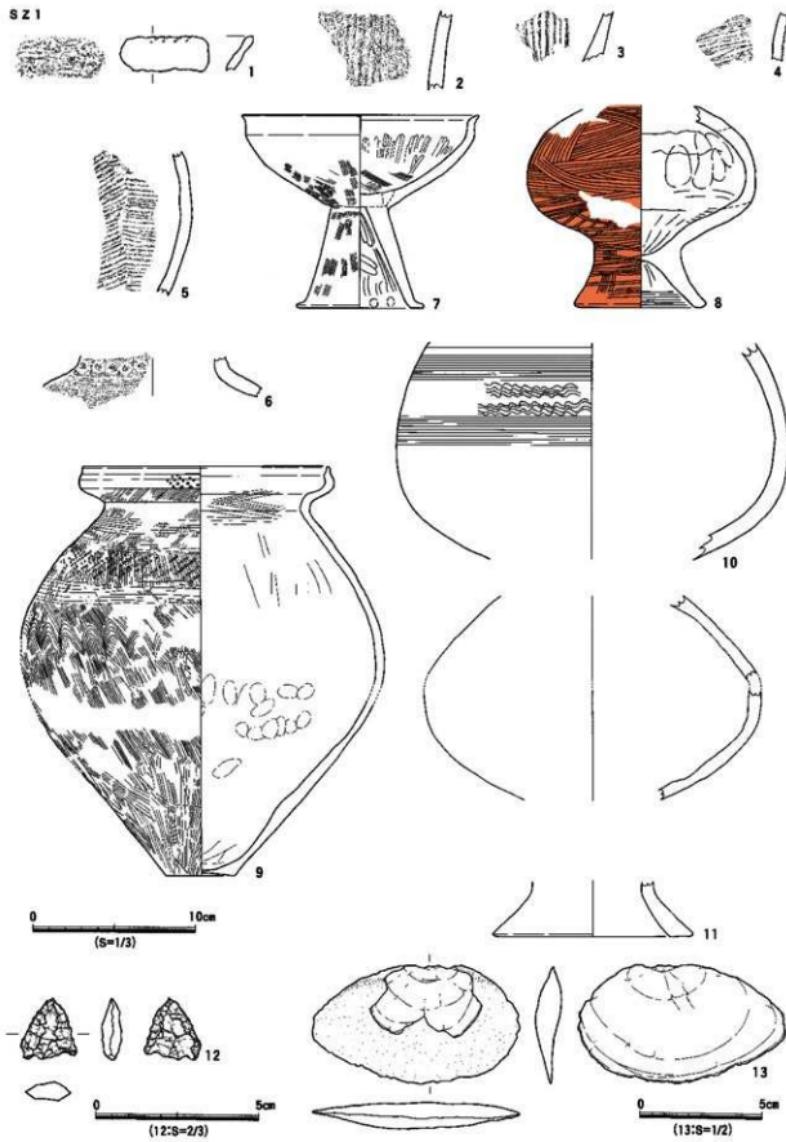
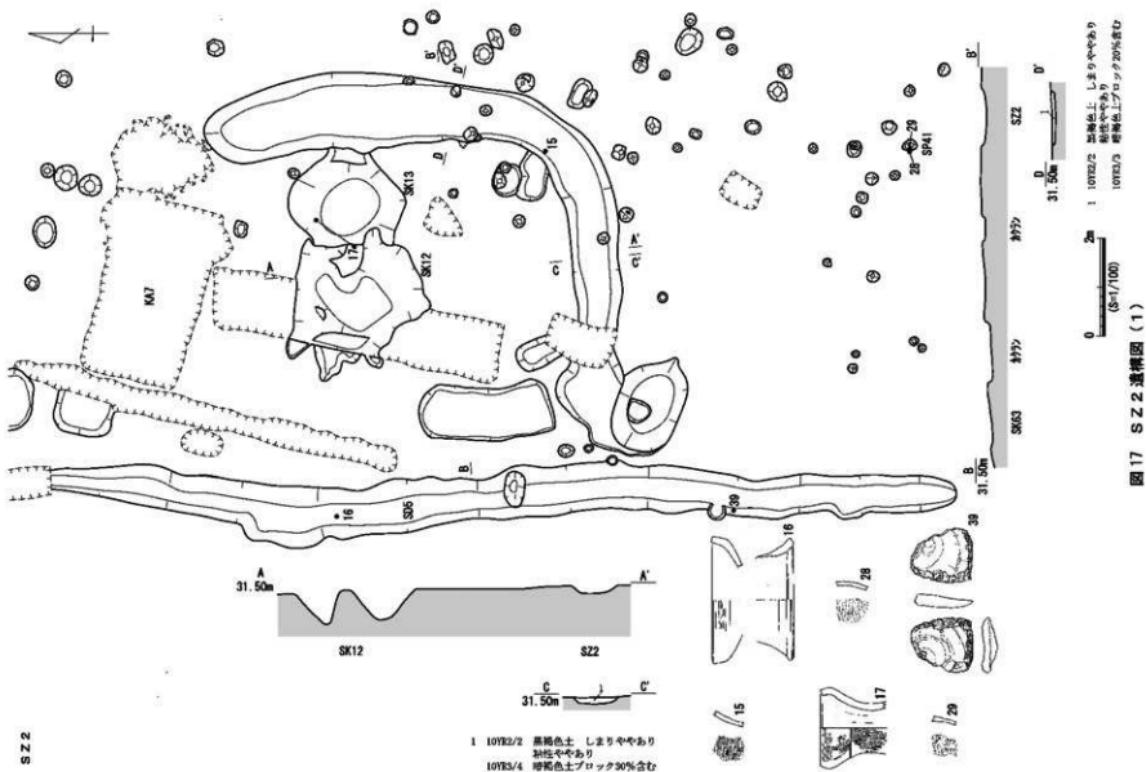


図16 SZ 1出土遺物



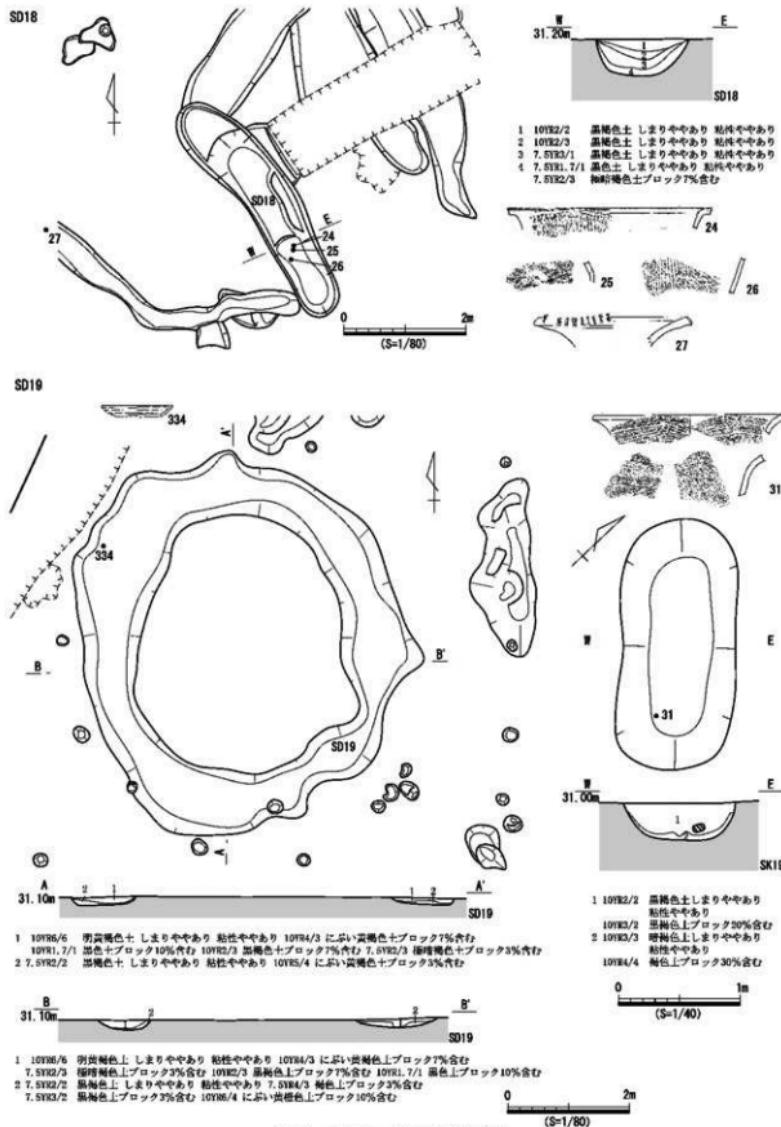


図18 SD18・19, SK19 造構

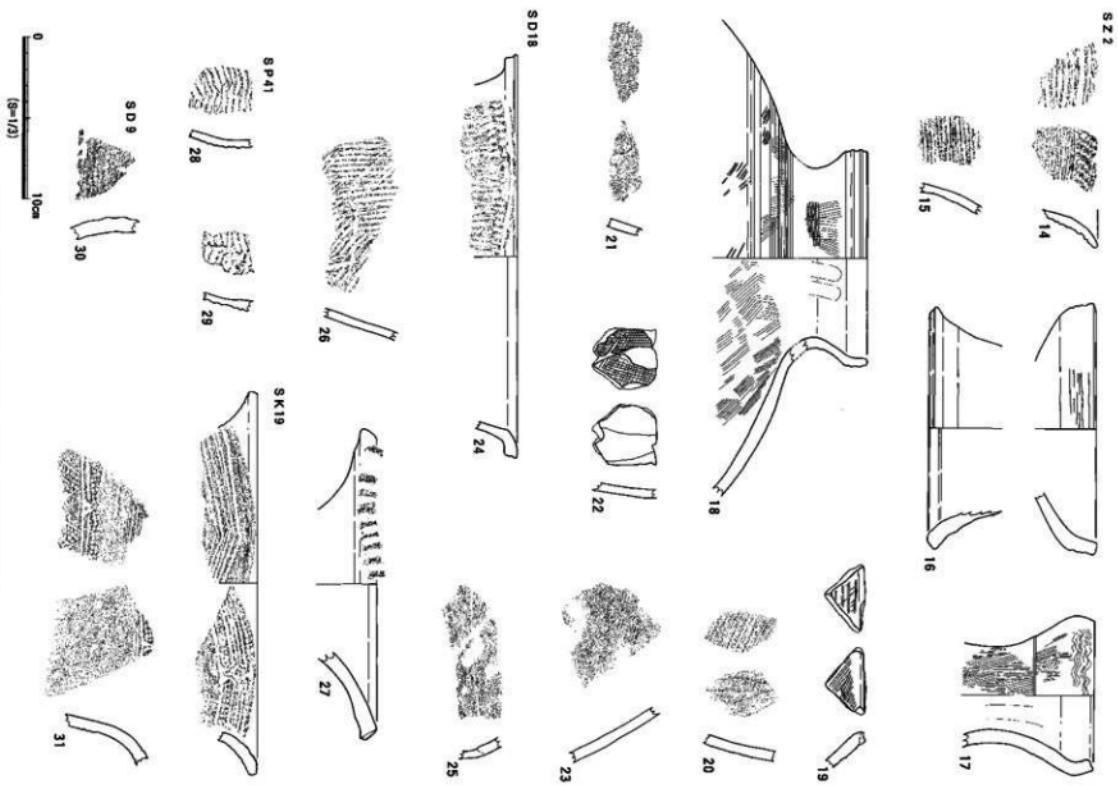


図19 SZ2, SD18, SP41, SK19, SD9 出土遺物

## 第5節 中世後期の遺構と遺物

中世後期の遺構は大きく2時期に分けられる。16～17世紀の土師器皿を伴うSD9と同じ時期のものと、それ以前のものである。SD9と軸を同じくするものを安土・桃山時代、SD1と軸を同じくするものを鎌倉～室町時代とした。室町時代の溝はほぼ真北方向を軸とし、南北方向に長い。一方安土・桃山時代の溝はコの字形に屈曲し25m四方に区画している。更に溝の内側を2列の枠跡で区画している。鎌倉時代～安土・桃山時代の遺物は区画内の包含層から小破片であるが出土しており（第3章第7節339～352）、掘立柱建物跡2棟以外にも深い柱穴を多数検出している（図30）。南調査区から出土している中世の遺物は小破片が多いことから、近世以降の削平を受けているものと考える。

### 1 挖立柱建物跡

掘立柱建物跡は2棟検出した。いずれも西にある南北方向の区画溝よりも東側にあり区画内にあるものと思われる。2棟は近い場所で検出されているため、建て替えられている可能性を考えられる。

#### S H 1（遺構図：図20）

桁行1間、梁行1間の、南北方向に主軸をもつ掘立柱建物跡であり、規模は柱穴の心間で桁行2.7m、梁行1.95m、床面積5.27m<sup>2</sup>である。この建物を構成する柱穴群は4基で、いずれも柱掘形は円形で、規模の平均は長軸0.35m、深さ0.47mである。柱筋は北辺がわずかにずれるものの、他の辺はそろっている。なお、柱穴内に根石、支え石などはなかった。

出土遺物は、中世土師器皿が1点、近世陶磁器が1点で、掲載遺物は無い。主軸が平行することからSD5と同時期と考え、SD9よりも古いと判断し鎌倉～室町時代と考える。

#### S H 2（遺構図：図21、遺物図：図29）

桁行1間、梁行1間の、南西から北東方向へと主軸をもつ掘立柱建物跡であり、規模は柱穴の心間で桁行2.85m、梁行2.1m、床面積5.99m<sup>2</sup>である。この建物を構成する柱穴群は4基あり、P1は楕円形であるがほとんどの柱掘形は円形で、規模の平均は長軸0.33m、深さ0.43mである。柱筋は北辺がわずかにずれるものの、それ以外はきれいにそろっている。なお、柱穴内に根石、支え石などはなかった。

出土遺物は山茶碗1点、中世陶器が1点で、掲載した32は山茶碗で明和1号窯式期である。本遺構の所属時期は、出土土器の年代から13～14世紀頃と推定される。

### 2 棚跡

#### S A 1（遺構図：図22）

本遺構はⅢ層上面、SD9の東側で検出している。区画溝であるSD9と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物はない。本遺構の時期は、SD9と同じく16～17世紀頃と推定される。

#### S A 2（遺構図：図23）

本遺構はⅢ層上面、SD9の東側で検出している。区画溝であるSD9にほぼ直交している。SA1と同様に区画溝SD9の内側にあることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物はない。本遺構の時期は、SD9と同じく16～17世紀頃と推定される。

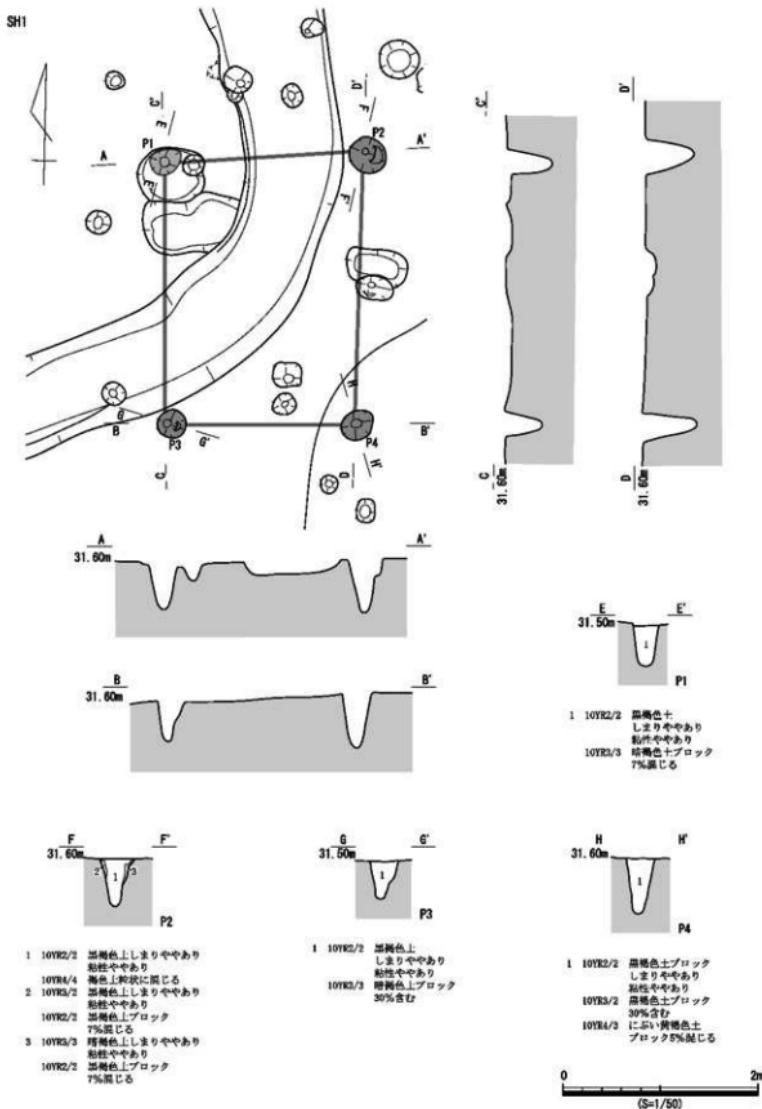


図20 SH1 遺構図

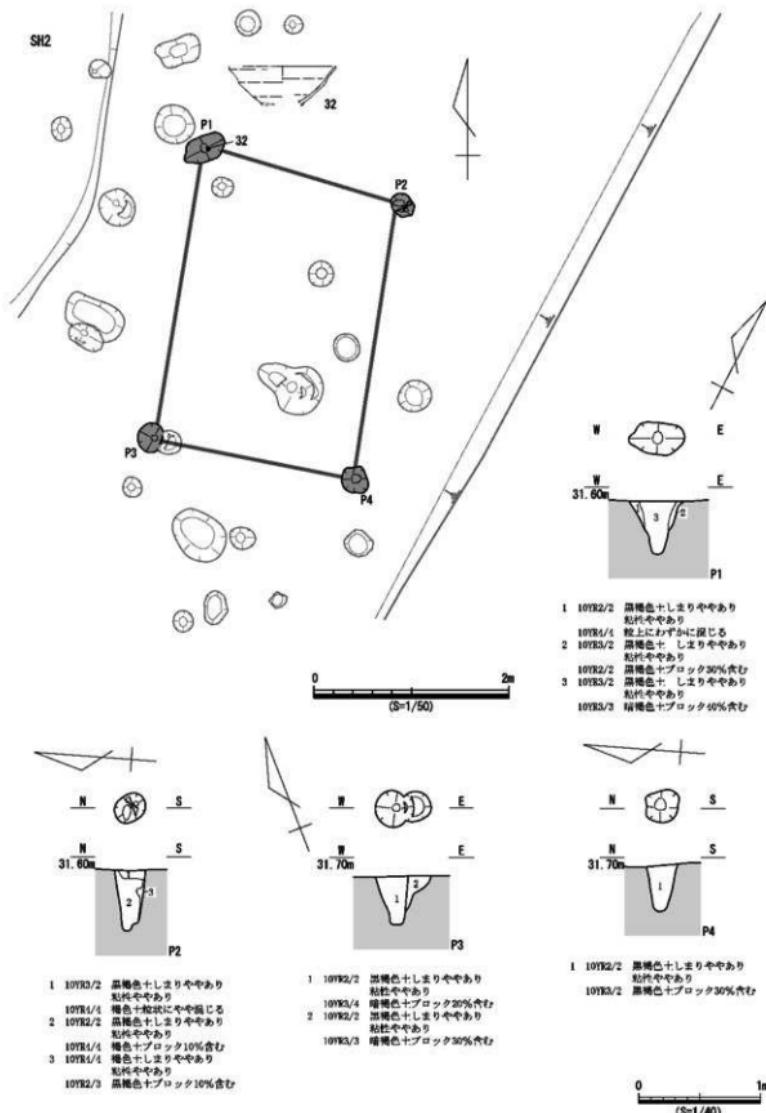


図 21 SH2 遺構図

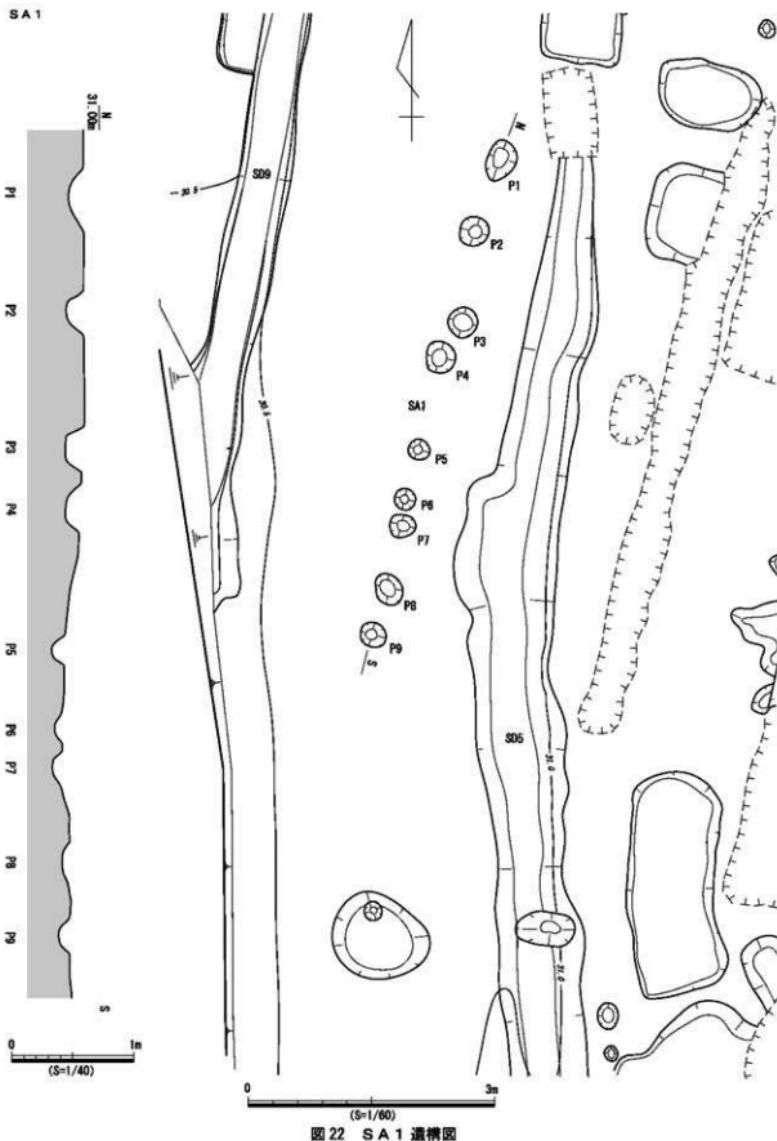
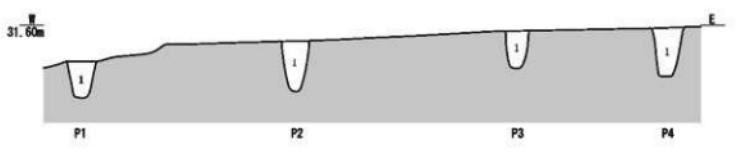
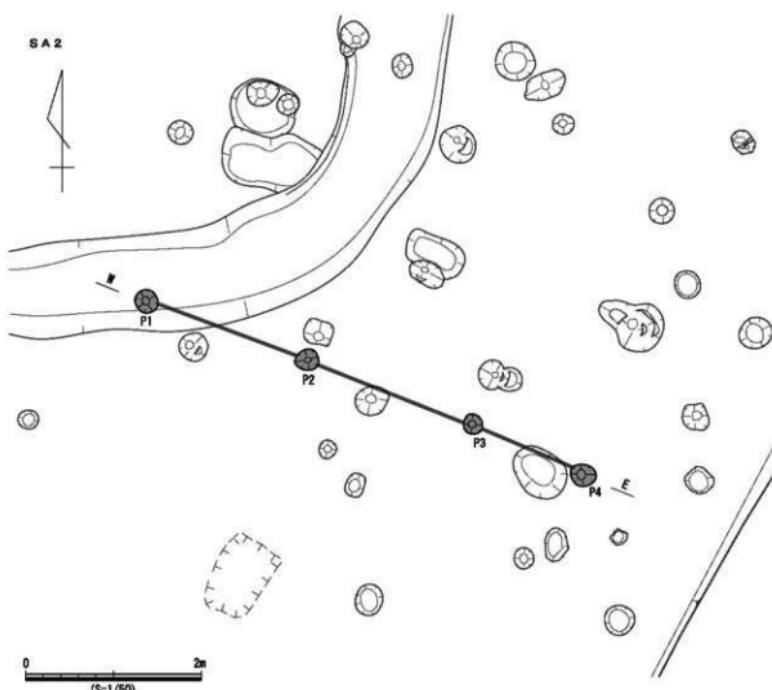


図22 S A 1 遺構図



1 10TR2/2 黒褐色土  
しまりややあり  
粘性ややあり  
10TR4/3 に広い黄褐色土  
ブロック10%含む

1 10VR2/3 黄褐色土  
しまりややあり  
粘性ややあり  
10VR4/3 に広い黄褐色土  
粒状に含む

1 10TR2/2 黒褐色土  
しまりややあり  
粘性ややあり  
10TR3/4 塗褐色土上  
ブロック30%含む

1 10TR2/2 黒褐色土上  
しまりややあり  
粘性ややあり  
10TR3/2 塗褐色土上  
ブロック40%含む

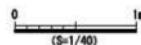


図 23 SA 2 造構図

### 3 溝跡

#### SD 1 (遺構図: 図 24・25)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。また、南東端で SD 9 に切られている。区画溝である SD 9 とは遺構の長軸方位が異なる。出土遺物は、土師器 1 点、須恵器 3 点、山茶碗 2 点である。本遺構の時期は SD 5 と同様に 13~14 世紀頃と推定される。

#### SD 2 (遺構図: 図 24・25)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。また、南端は搅乱によって切られている。区画溝である SD 1 と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物は須恵器 1 点、山茶碗 2 点である。本遺構の時期は、SD 1 と同じく 13~14 世紀頃と推定される。

#### SD 3 (遺構図: 図 24・25)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し西側がやや深くなり、直線的に延びている。また、北と南端は搅乱によって切られている。南に断面の形状が同じで同一線上に SD 4・5 が存在していることから、これらの溝は一連の遺構であると考えられる。また区画溝である SD 1 と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物はない。本遺構の時期は、SD 1 と同じく 13~14 世紀頃と推定される。

#### SD 4 (遺構図: 図 24・25)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し西側がやや深くなり、直線的に延びている。また、北と南端は搅乱によって切られている。北と南に断面の形状が同じで同一線上に SD 3・5 が存在していることから、これらの溝は一連の遺構であると考えられる。また区画溝である SD 1 と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物はない。本遺構の時期は、SD 1 と同じく 13~14 世紀頃と推定される。

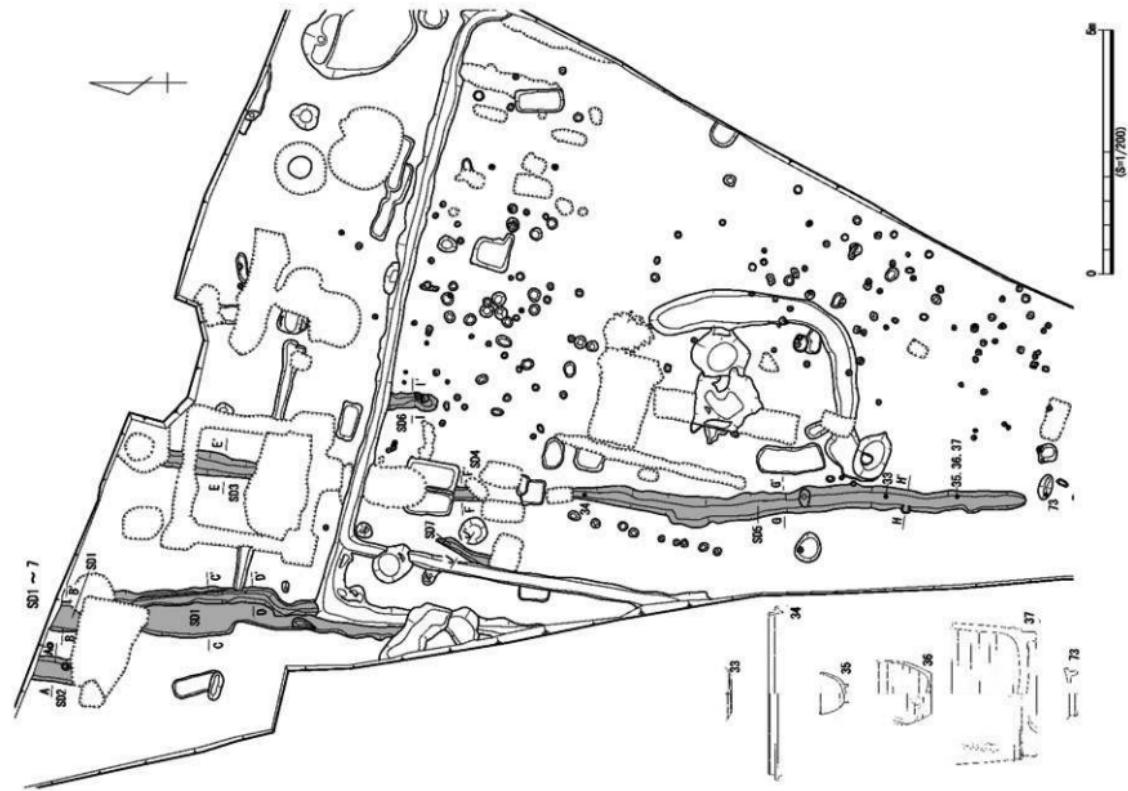
#### SD 5 (遺構図: 図 24・25、遺物図: 図 29)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し西側がやや深くなり、直線的に延びている。また、北端は搅乱によって切られているが収束するものと思われる。北に断面の形状が同じで同一線上に SD 3・4 が存在していることから、これらの溝は一連の遺構であると考えられる。また区画溝である SD 1 と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物は弥生土器が 4 点、山茶碗が 8 点、中世土師器皿が 2 点、近世陶磁器が 6 点である。その内から 33~39 を掲載した。33 の山茶碗が明和 1 号窯式期のものがあるので、本遺構の時期は、SD 1 と同じく 13~14 世紀頃と推定される。

#### SD 6 (遺構図: 図 24・25)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。また、北端を SD 9 (I H210) によって切られている。区画溝である SD 1 と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物はない。本遺構の時期は、SD 1 と同じく 13~14 世紀頃と推定される。

図24 SD1～7 連構図(1)



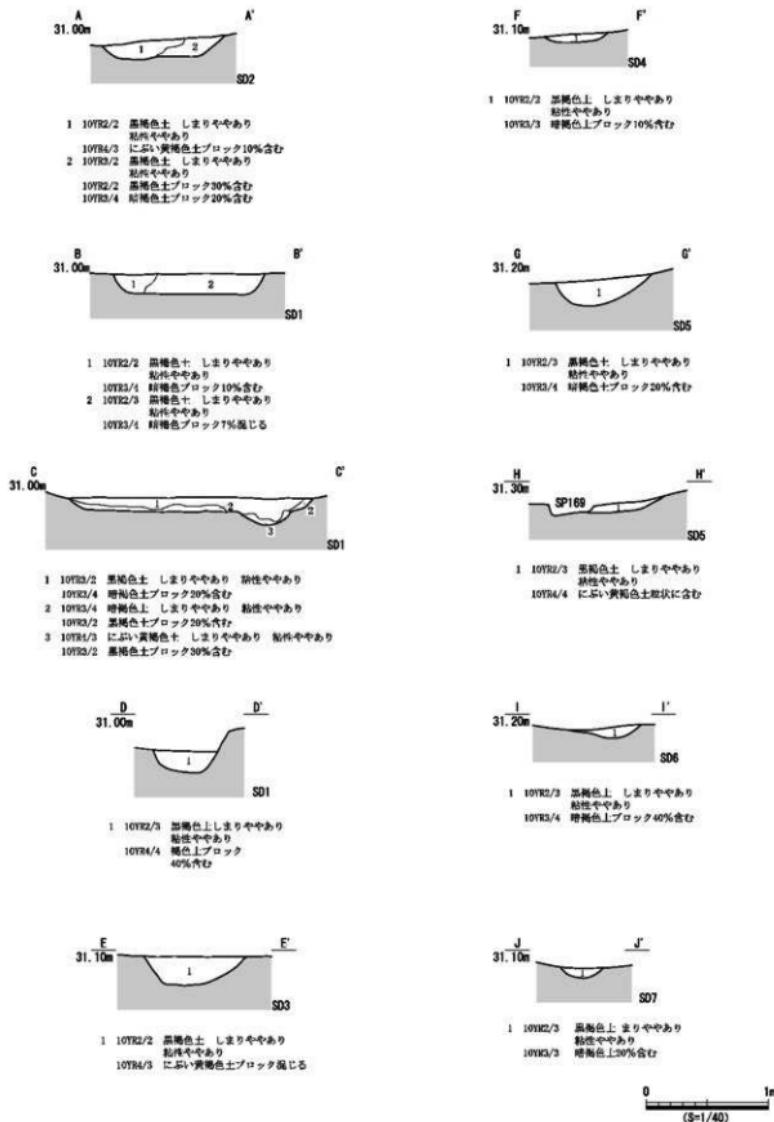
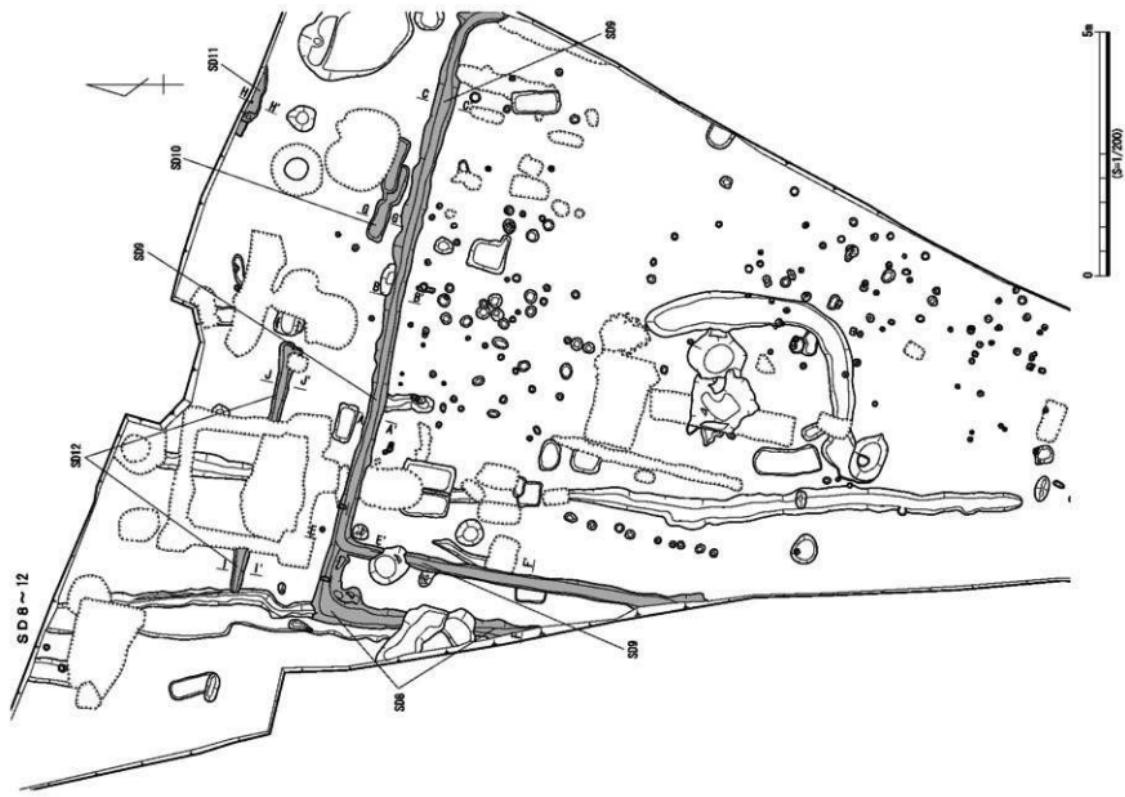


図25 SD 1~7 遺構図(2)

図 26 SD 8～12 透析図 (1)



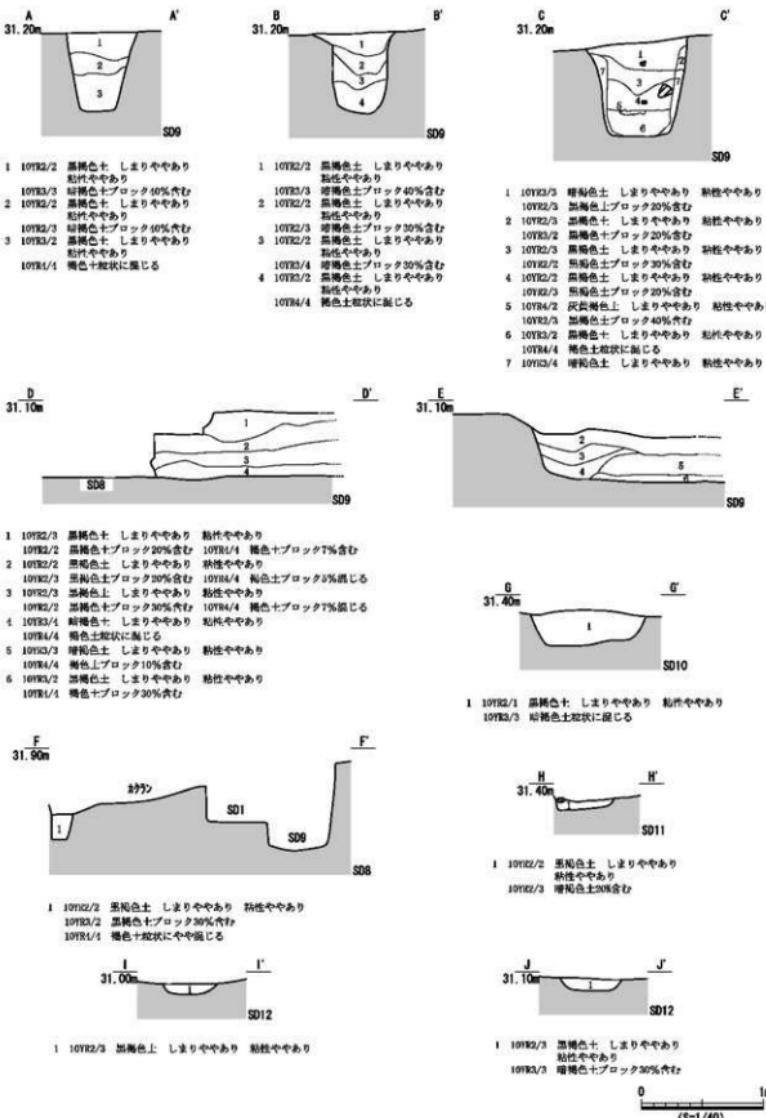


図27 SD8～12遺構図(2)

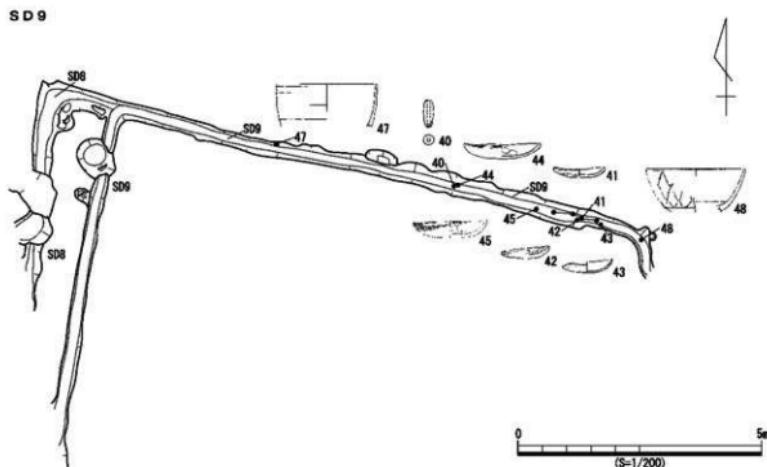


図 28 SD 9 遺構図

**SD 7 (遺構図: 図 24・25)**

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で最も古い遺構である。掘形は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。また、南端はSD 9によって切られているためSD 9より古い時期のものと思われる。

**SD 8 (遺構図: 図 26・27)**

本遺構はⅢ層上面で検出している。掘形は深い方形状を呈し、直線的に延びている。また、東端は平面の形状を見るとSD 9によって切られているためSD 9より古い時期のものと思われるが、断面を見るとほぼ同時期のものである可能性が高い。本遺構の時期は、16~17世紀頃と推定される。

**SD 9 (遺構図: 図 26・27・28、遺物図: 図 29)**

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では中世後期の中で1番新しい遺構である。掘形は深い方形状を呈し、直線的に延びている。東西の長さは25mで東端と西端が直角に屈曲する。底部はほぼ平らで、一部からは礫が検出された。溝の底部から完形の土師器皿(45)が出土している。出土遺物は弥生土器3点、土師器6点、須恵器2点、灰釉陶器5点、山茶碗54点、土師器皿が63点、近世陶磁器14点、近世土師器2点、土製品3点である。本遺構の時期は、土師器皿の時期から16~17世紀頃と推定される。

**SD 10~12 (遺構図: 図 26・27)**

本遺構はⅢ層上面で検出している。掘形は浅い皿状を呈し、直線的に延びている。区画構であるSD 9と並行していることから、これらは一連の遺構と思われる。出土遺物はSD 10から山茶碗が3点、SD 12から山茶碗が2点出土している。遺構の時期は、SD 9と同じく16~17世紀頃と推定される。

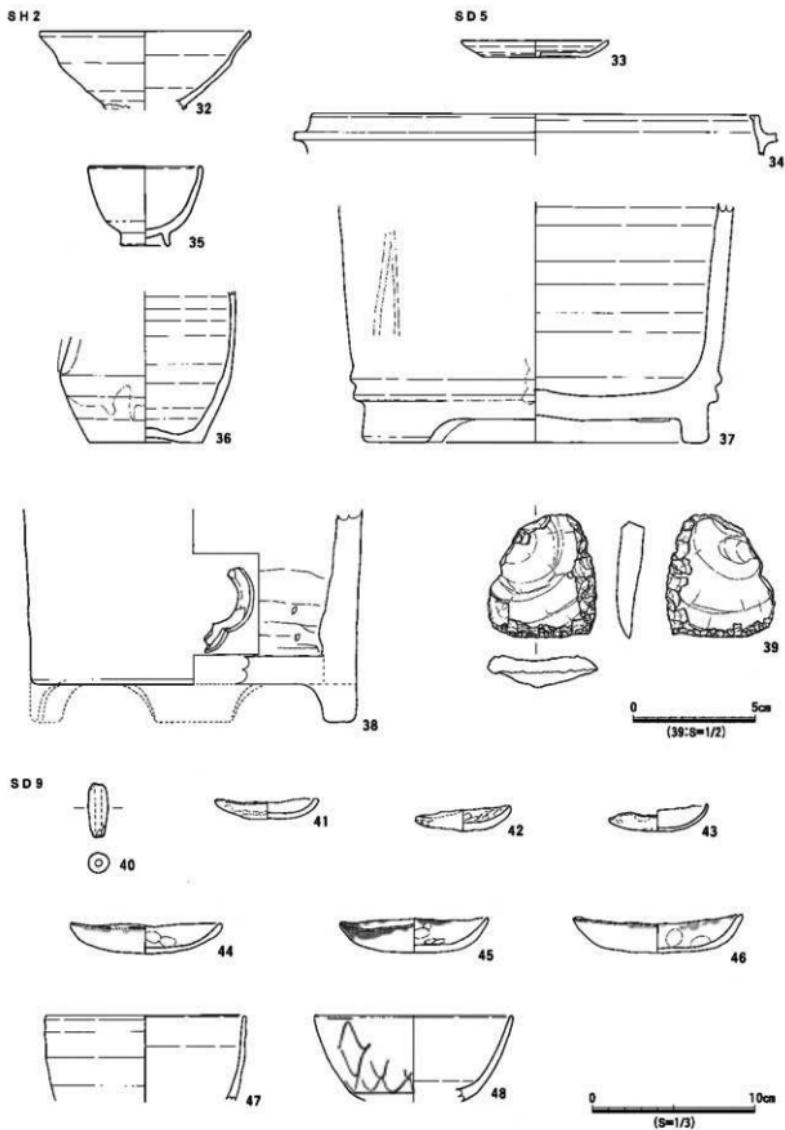


図29 SH 2, SD 5・9出土遺物

SP1~18

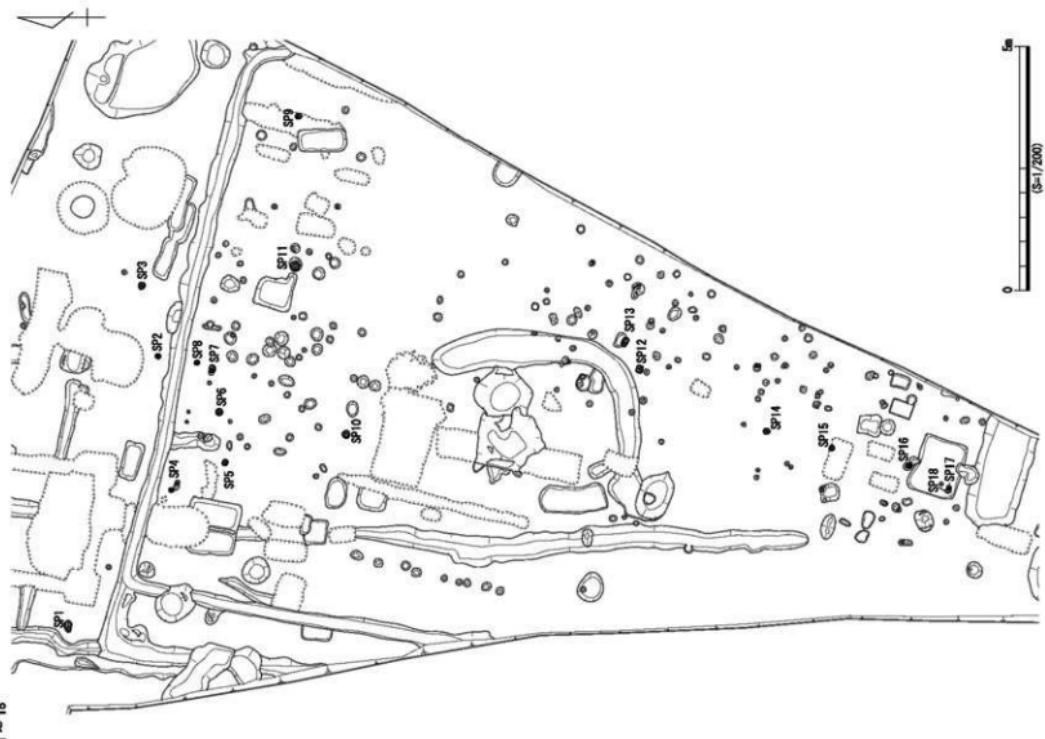


図30 SP1~18遺構図(1)

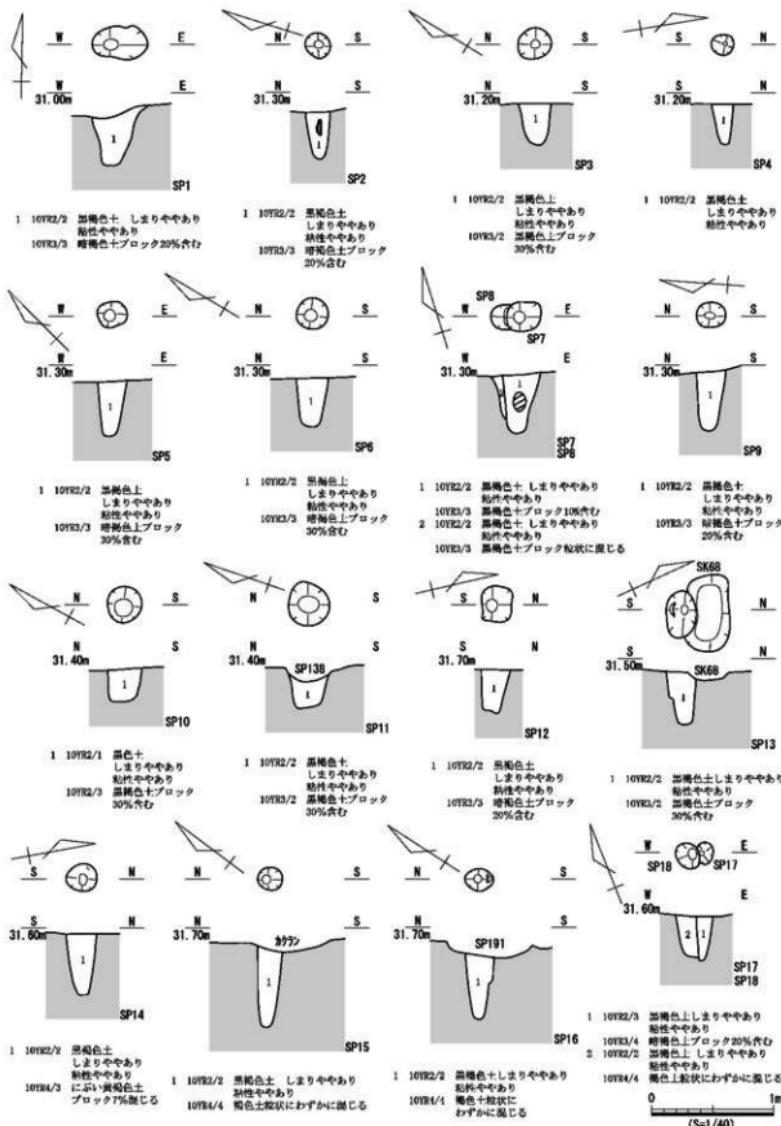


図31 S P 1 ~ 18 遺構図 (2)

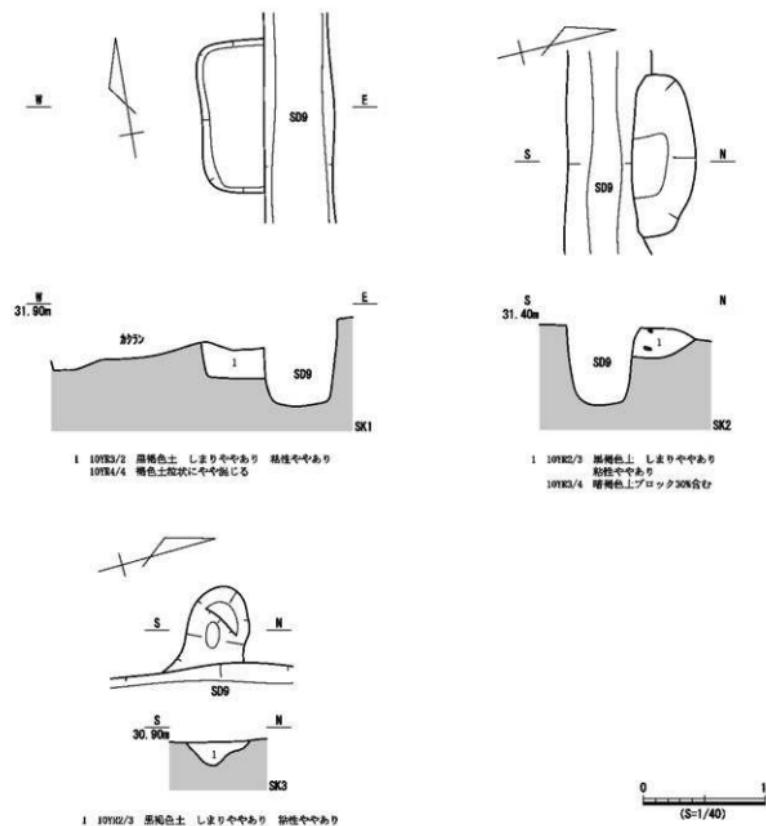


図 32 SK 1~3 遺構図

#### 4 土坑・柱穴跡

##### SK 1~3 (遺構図: 図 32)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。SK 1 の掘形の形状は方形を呈し底面はほぼ平坦である。SK 2 から山茶碗が 1 点出土し、SK 1・3 からは出土遺物は無い。SD 9 に切られており遺構の時期は 16 世紀以前と推定する。

##### SP 1~18 (遺構図: 図 30・31)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。柱穴下端が 20cm 前後で深さが 40cm 前後のものである。SD 9 の内側で検出されたものが多く、出土遺物は無いが遺構の時期は鎌倉時代～安土・桃山時代と推定する。

## 第6節 近世以降の遺構と遺物

近世以降の遺構は江戸時代後期～末期と明治時代のものがある。江戸時代と明治時代の遺構は位置が重なっているものが多い。明治時代の遺構は攘乱として掲載している。攘乱からも江戸時代後期～末期の残りの良い遺物が出土している。江戸時代の遺物は特に南調査区の北側から多く出土している。そのため、攘乱出土の遺物は出土位置がある程度特定できるため、攘乱毎に出土遺物を掲載している。江戸時代後期～末期の遺物は本遺跡の中で最も残りが良い。

### 1 檻跡

#### S A 3 (遺構図: 図 33)

本遺構はⅢ層上面、北調査区で検出している。SD17よりもやや古い時期のものと考える。出土遺物は無い。中世の檻跡や溝跡とは軸が異なるため江戸時代の遺構と考える。

### 2 溝跡

#### S D 13 (遺構図: 図 34、遺物図: 図 44)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係ではSD15に切られている。断面が浅い三角形状を呈し、直線的に延びている。約3m離れてSD14と平行する。SD13と14の間にはSP22とSP23が2本の構のほぼ中央にある。出土遺物は、須恵器が8点、灰釉陶器が1点である。53～56を掲載した。53・54は7世紀後葉～8世紀前葉の須恵器で53は四耳壺、54は円面鏡の脚部である。55は灰釉陶器の段皿でH-72号窯式期、56は山茶碗で明和1号窯式期のものである。本遺構の時期はSD14とほぼ同じと考えて近世と推定する。

#### S D 14 (遺構図: 図 34、遺物図: 図 44)

本遺構はⅢ層上面で検出し掘形は浅い皿状を呈し西側がやや深くなり、直線的に延びている。約3m離れてSD13と平行する。南端は収束するものと思われる。埋土上部に風倒木の埋土が混入している。出土遺物は、土師器が1点、須恵器が5点、灰釉陶器が1点、山茶碗が2点、土師器皿が2点である。57～59を掲載した。57は7世紀後葉の須恵器で平瓶である。58は灰釉陶器の碗でO-53号窯式期、59は山茶碗で寒洞1号窯式期のものである。この構の軸が中世の構の軸とは異なること、SD15に切られていることから、本遺構の時期は近世と推定する。

#### S D 15 (遺構図: 図 35、遺物図: 図 44)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係ではSD13を切っている遺構である。掘形は深い三角形状を呈し、直線的に延びている。北の同一線上にSD13が存在するが、深さと形状が異なる。これらの構は一連の遺構である可能性も考えられる。出土遺物は須恵器が1点、山茶碗が1点である。60は7世紀代の須恵器で甕である。本遺構の時期は、SD13より新しく近世～近代と推定される。

#### S D 16 (遺構図: 図 35)

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では近代の攘乱に切られている遺構である。断面は浅い三角形状を呈し、曲線的に延びている。西端は攘乱によって切られているためSD15との関係は不明である。出土遺物山茶碗が1点である。本遺構の時期は、SD15と同じく近世～近代と推定される。

S A 3

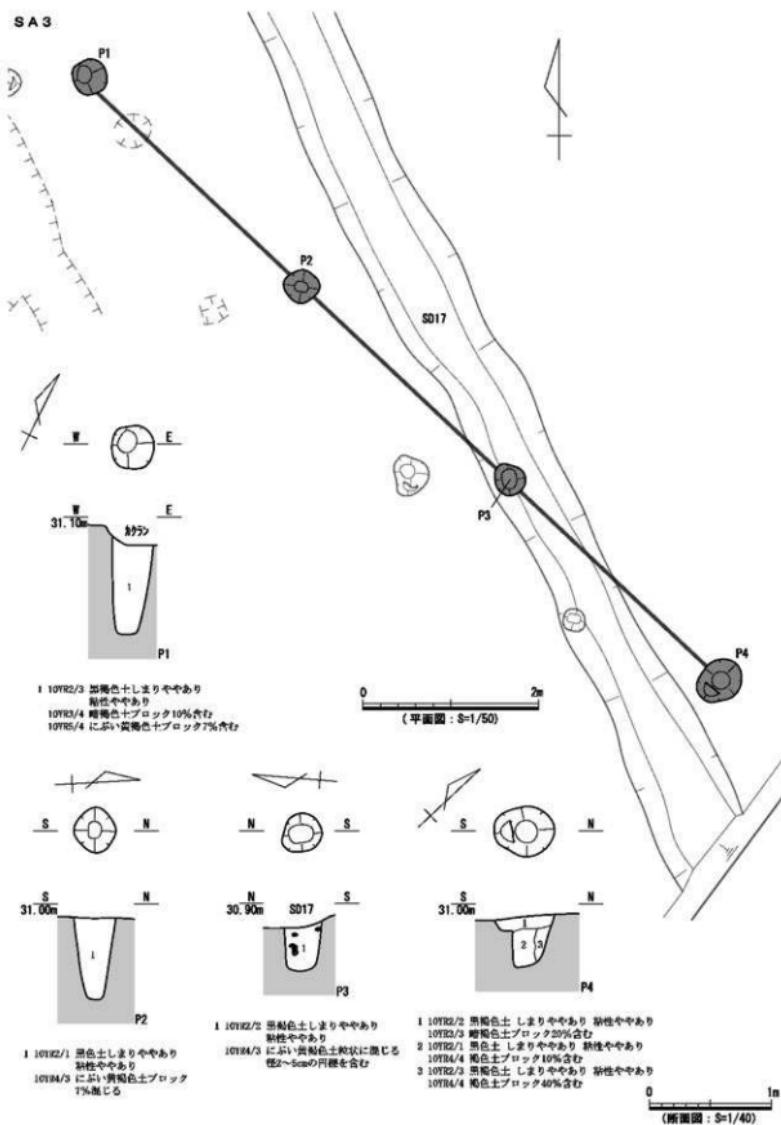


図33 S A 3 造構図

SD13・SD14

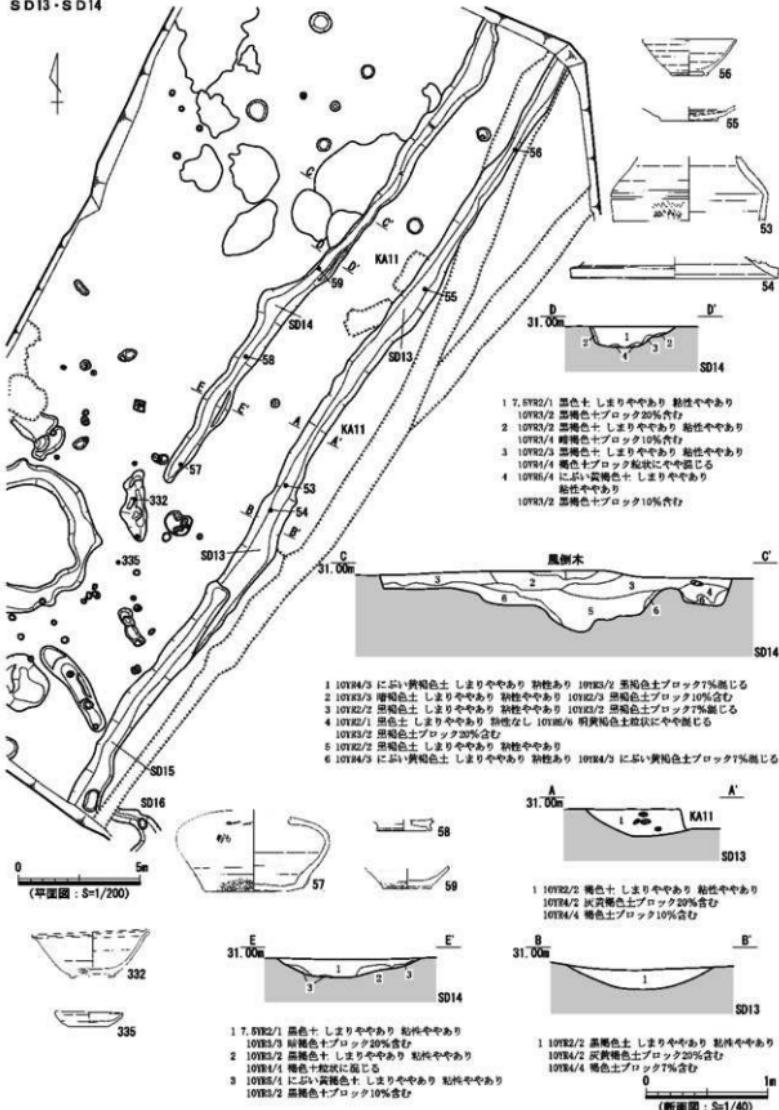


図34 SD13・14 遺構図

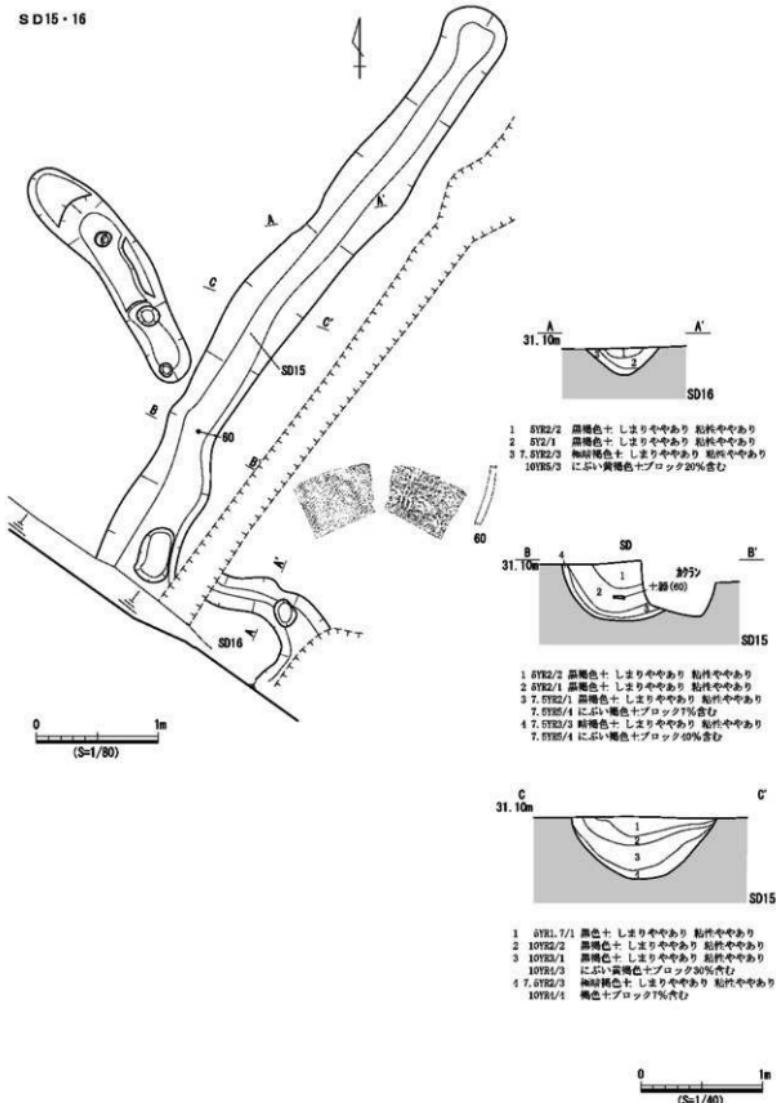


図 35 SD 15・16 造構図

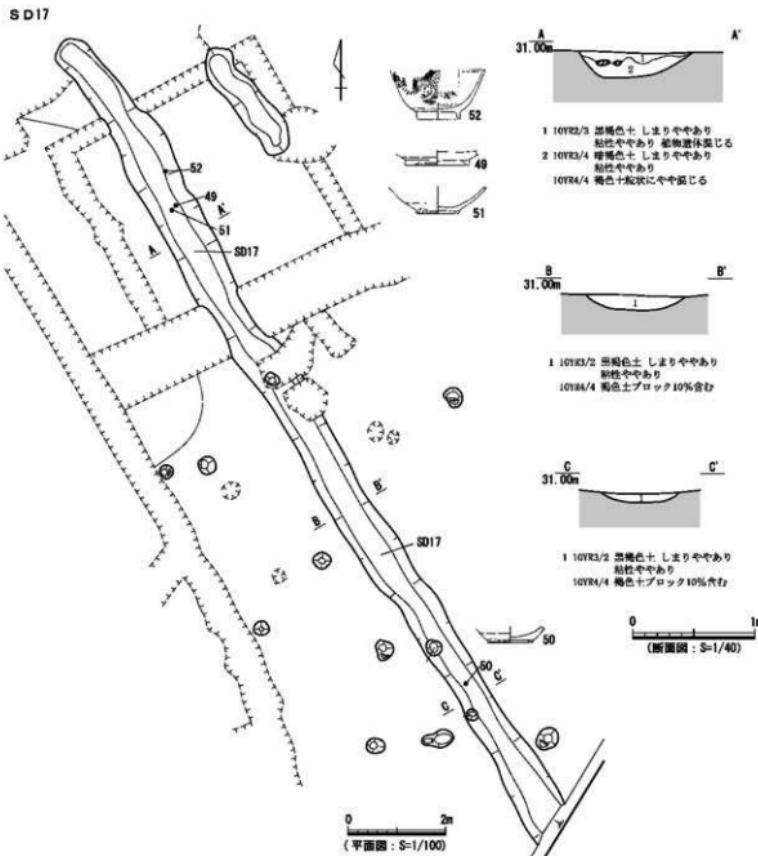


図 36 SD17 遺構図

## SD17（遺構図：図 36、遺物図：図 44）

本遺構はⅢ層上面で検出し、周辺遺構との重複関係では S A 3 より新しい遺構である。掘形は浅い三角形状を呈し西側がやや深くなり、直線的に延びている。また、北端は収束するものと思われる。現在の神社への道と方向が同じである。出土遺物は土師器が 7 点、山茶碗が 3 点、近世陶磁器が 14 点である。その内から 49～52 を掲載した。49～51 は山茶碗で 12～13 世紀のものである。52 は江戸時代末期登録の染付碗で、本遺構の時期は江戸時代末期～近代と推定される。

### 3 土坑・柱穴跡

#### S K 4 (遺構図: 図 37)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。断面の形状は台形を呈し底面はほぼ平坦である。出土遺物は無いが残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 5 (遺構図: 図 37、遺物図: 図 44)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。断面の形状は台形を呈し底面はほぼ平坦である。出土遺物は弥生土器が1点、山茶碗5点、土師器皿5点、近世陶磁器44点、近世以降の瓦35点、近世土師器1点、金属製品36点、土製品3点で、61~69を掲載した。61は江戸時代初期の陶器、62~64は江戸時代後期の陶器、65~66は江戸時代後期の陶器の加工円盤、67~69は江戸時代末期の陶器である。遺構の残存状況の良さと出土遺物から本遺構の時期を江戸時代末期と推定する。

#### S K 6 (遺構図: 図 37、遺物図: 図 44)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。断面の形状は台形を呈し底面はほぼ平坦である。出土遺物は中世陶磁器1点、近世陶磁器2点、近世以降の瓦1点で、火鉢(70)を掲載した。出土遺物から本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 7 (遺構図: 図 37、遺物図: 図 44)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。断面の形状は台形を呈し底面はほぼ平坦である。出土遺物は山茶碗1点、近世土師器1点、金属製品1点が出土している。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 8 (遺構図: 図 37)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。断面の形状は三角形を呈し、埋土内上部に石が入る。出土遺物は須恵器が2点、灰釉陶器が1点、山茶碗が1点、土師器皿1点、土製品1点である。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 9 (遺構図: 図 38)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。掘形の形状は方形で断面の形状は方形のものが2つ上部でつながっている。出土遺物は弥生土器2点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗5点、近世土師器1点である。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 10 (遺構図: 図 38)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。底部はほぼ平らである。出土遺物は無いが、遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 11 (遺構図: 図 38)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。掘形の形状は不定形で断面の形状は台形である。出土遺物は灰釉陶器1点、山茶碗3点、土師器皿1点である。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### S K 12 (遺構図: 図 39)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。掘形の形状は不定形で断面は緩やかに傾斜し、底部は方形に平らになっている。S K 13に切られている。出土遺物は山茶碗の小破片が1点のみである。遺

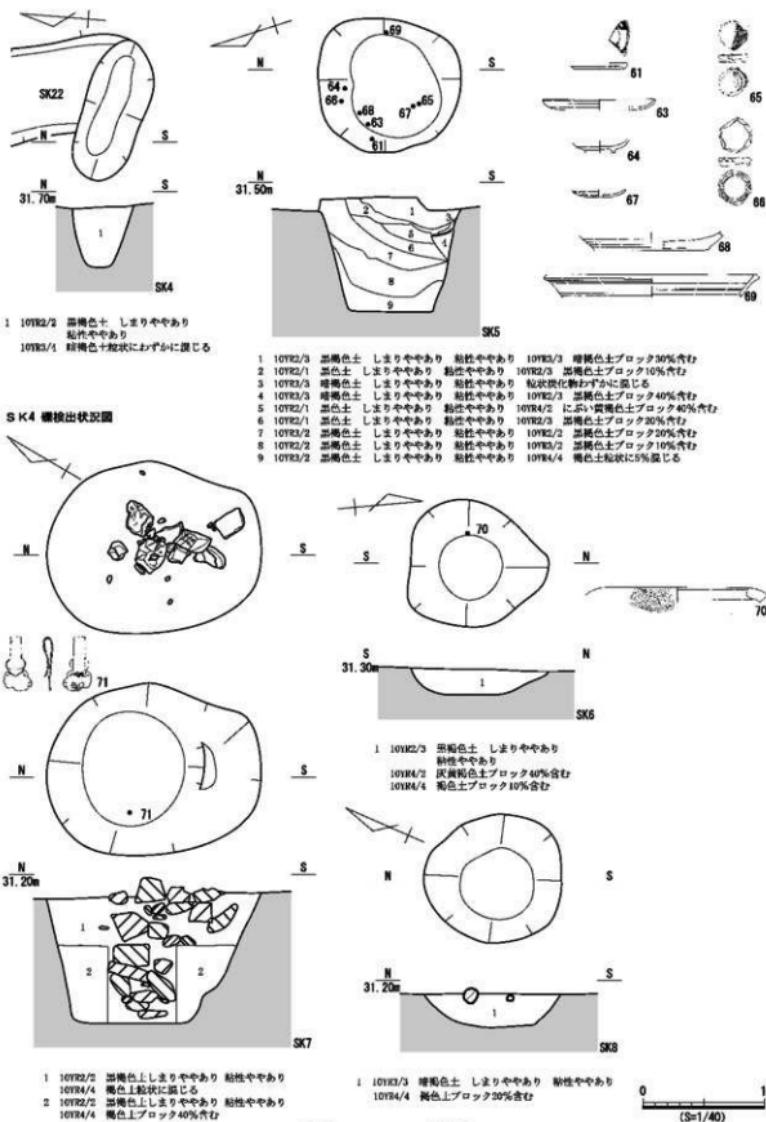
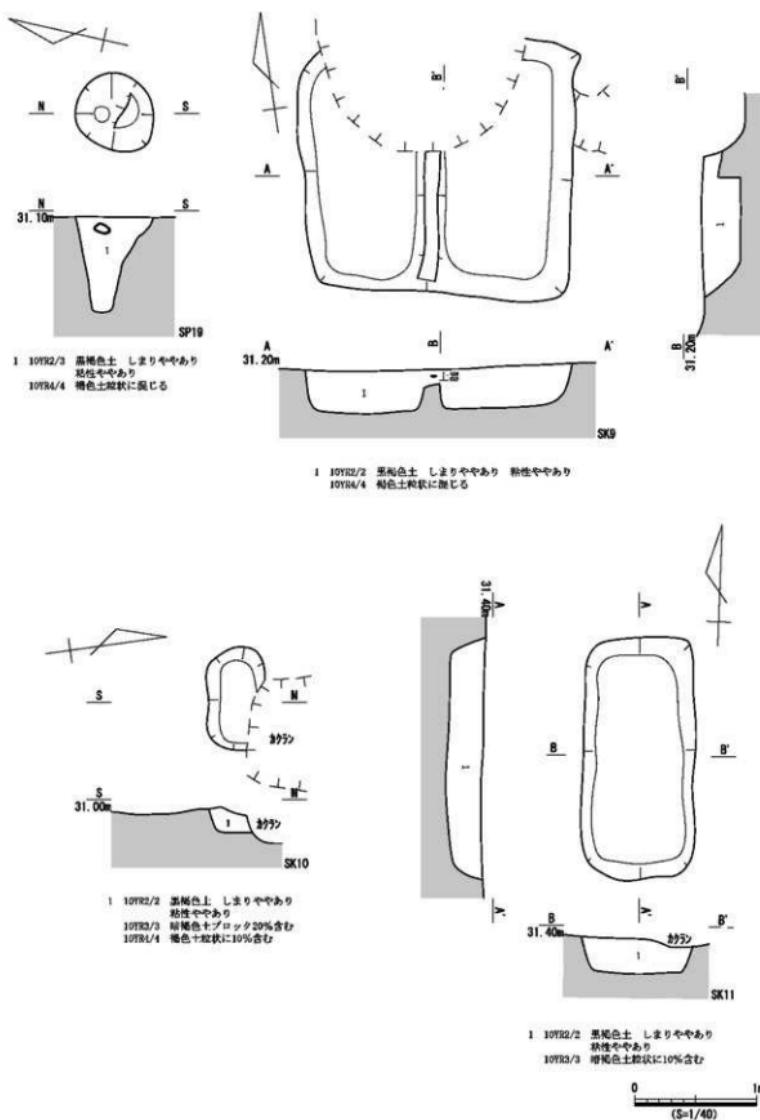


図37 SK4～8 遺構図



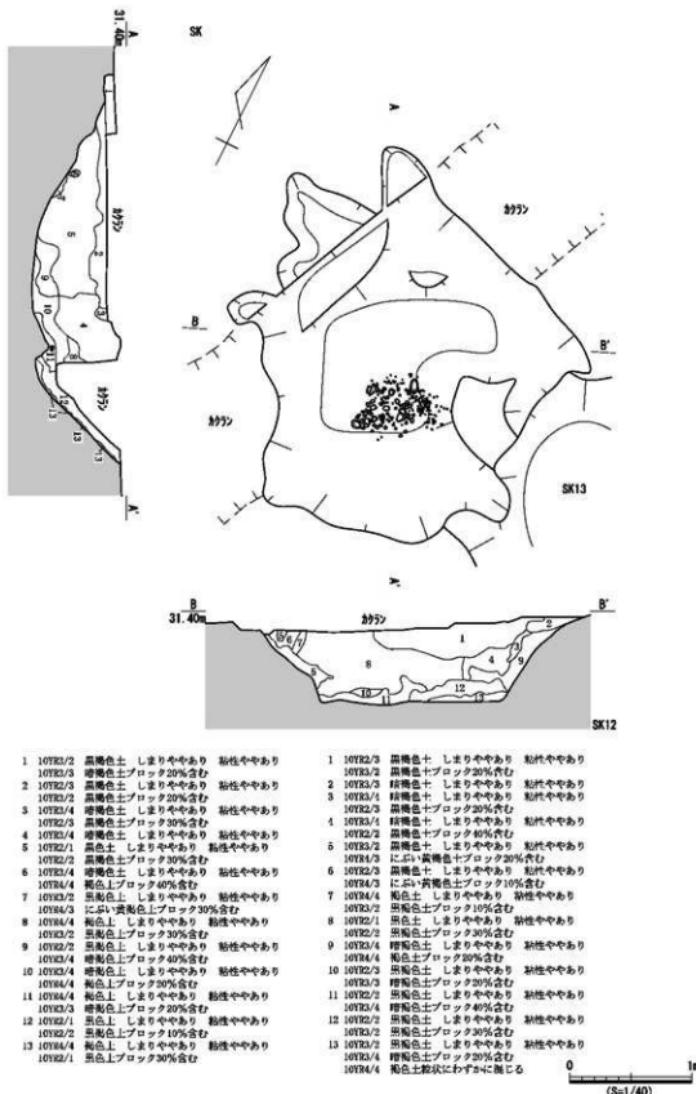


図39 SK12 遺構図

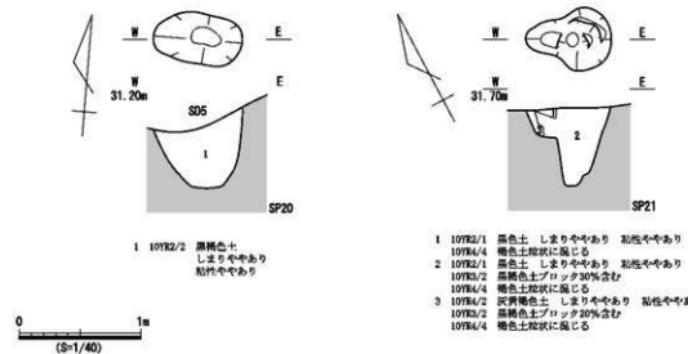
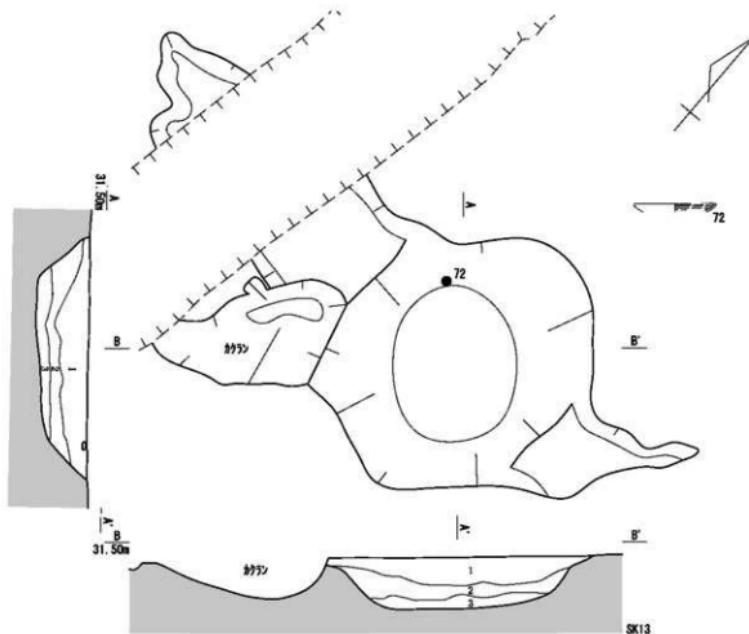


図 40 SK13、SP20・21 造構図

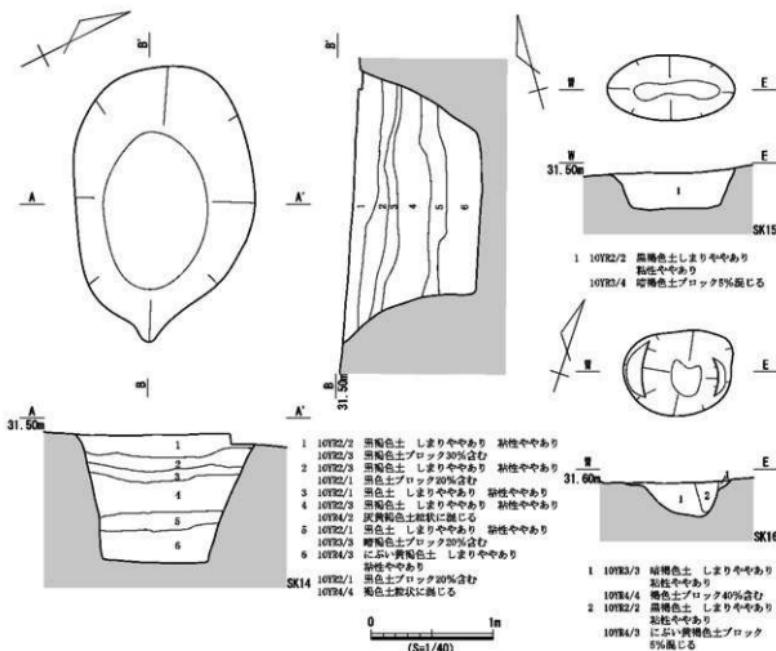


図41 SK14～16 遺構図

構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### SK13 (遺構図: 図40、遺物図: 図44)

本遺構は、III層上面において検出している。掘形の形状は方形で断面の形状は台形である。出土遺物は土師器9点、山茶碗16点、中世陶器1点、土師器皿2点でその内の72を掲載した。72は大窯の第1段階か第2段階の灯明皿である。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### SK14 (遺構図: 図41)

本遺構は、III層上面において検出している。掘形の形状は楕円形で断面の形状は台形、深さは1mある。土層の堆積はほぼ平行である。出土遺物は弥生土器が2点である。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

#### SK15・16 (遺構図: 図41、遺物図: 図44)

本遺構は、III層上面において検出している。掘形の形状は楕円形で断面の形状はSK15が台形、SK16が三角形である。遺構の残存状況の良さから本遺構の時期を江戸時代と推定する。

SP22~30

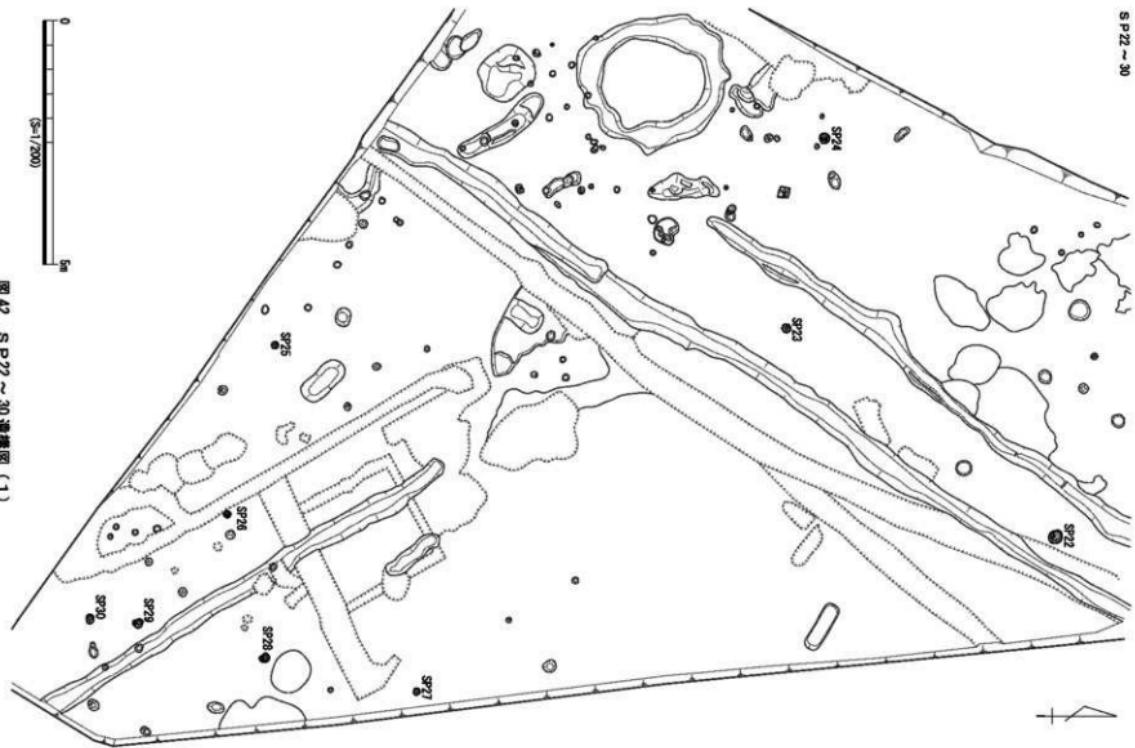


図42 SP22~30連続図(1)

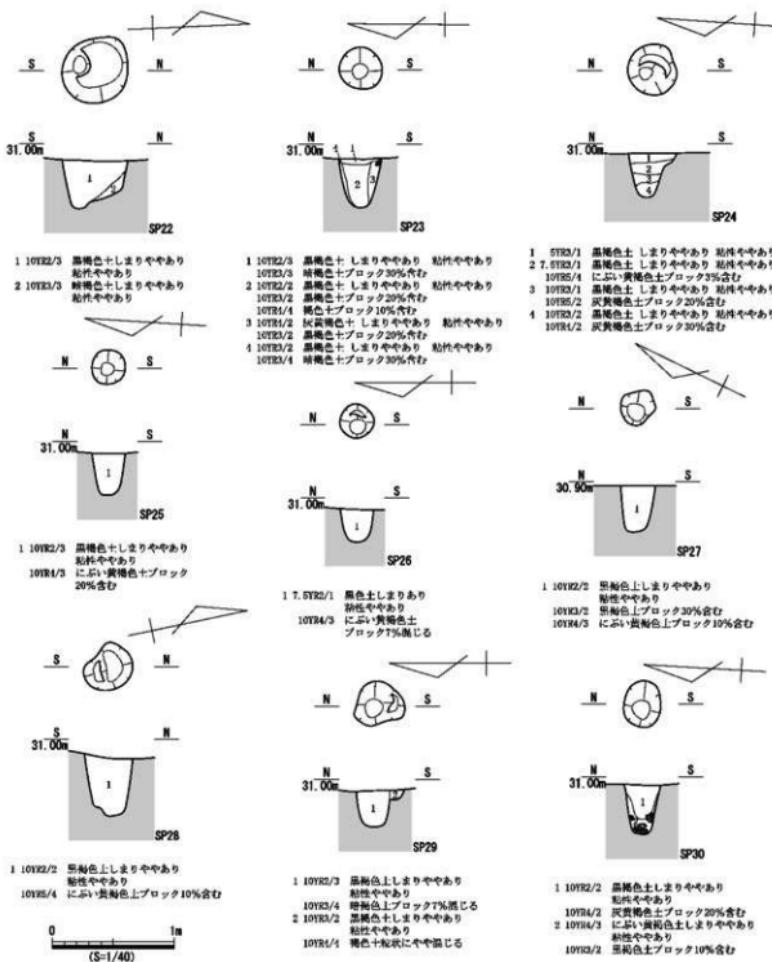


図43 SP22～30 遺構図(2)

SP19(遺構図:図38)、SP20・21(遺構図:図40)、SP22～30(遺構図:図42・43)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。SP19は柱穴下端が15cm前後で深さが79cmある。出土遺物は山茶碗が2点、土師器皿が1点である。SP20・21からは出土遺物が無い。SP22～30の中には柱穴下端が20cm前後で深さが40cm前後のものがある。出土遺物はSP22・23・27から土師器が出土している。これらの遺構は残存状況がよいため、本遺構の時期を江戸時代と推定する。

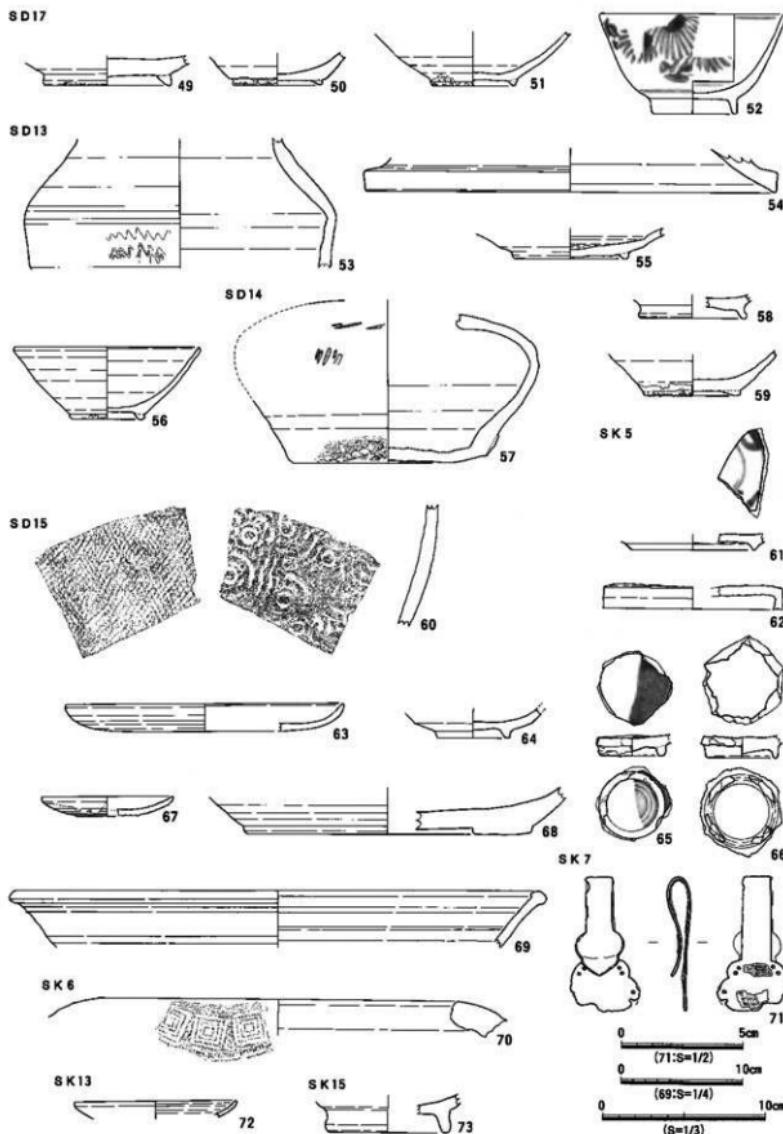


図44 SD 13~15・17, SK 5~7・13・15 出土遺物

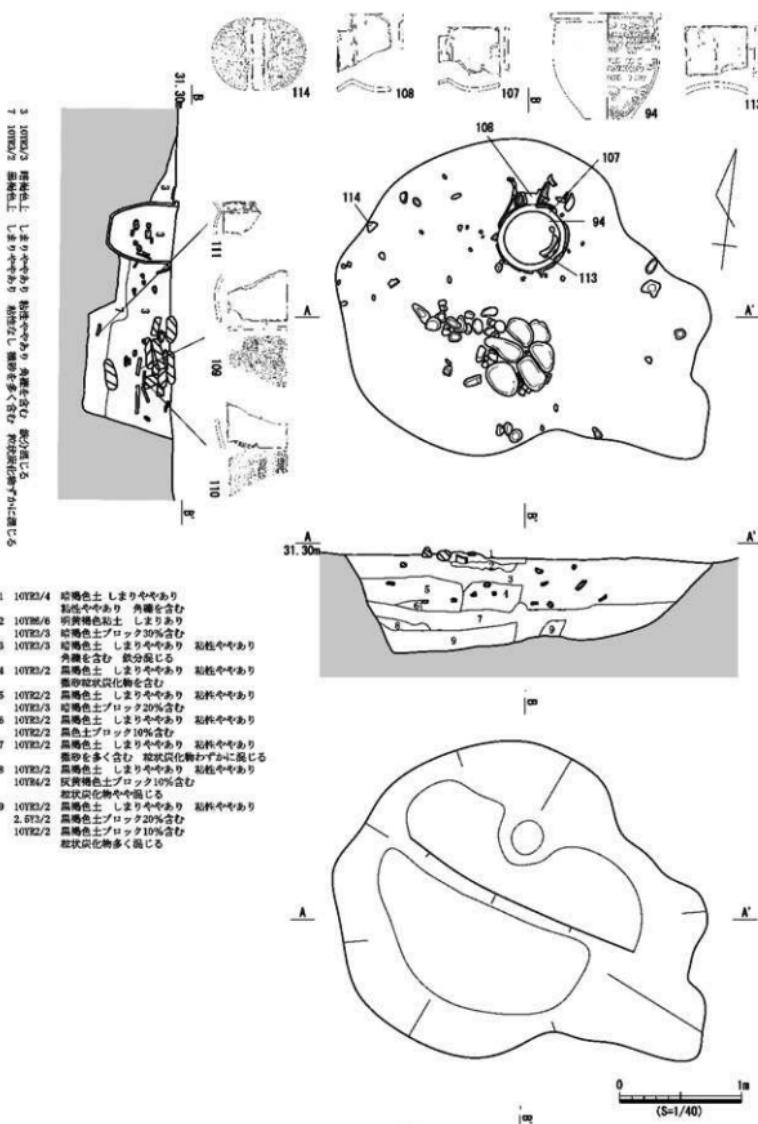


図45 SK17 遺構図(1)

## SK17 遺物出土状況

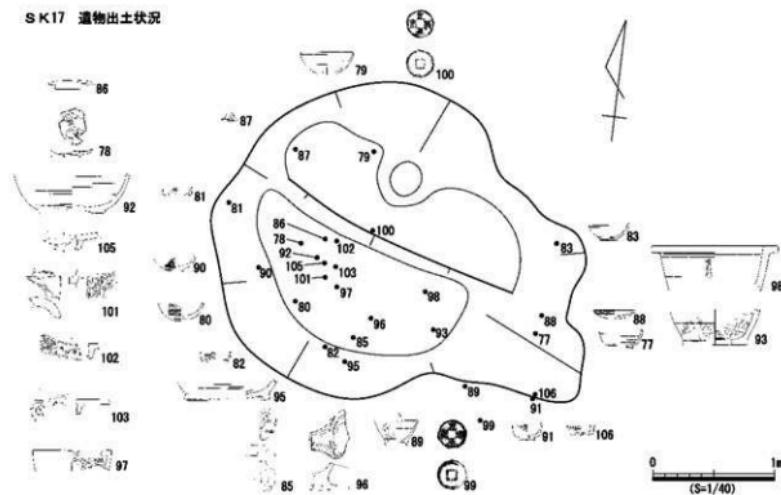


図 46 SK17 遺構図(2)

## SK17・18 (遺構図: 図 45~48、遺物図: 図 49~57)

本遺構は、Ⅲ層上面において検出している。SK17・18は土層断面より、ほぼ同時期に一度に埋められていると考えた。掘形の形状は不定形で断面の形状は南北方向が2段の掘り込み、東西方向は緩やかに傾斜し西側がやや深い三角形である。北端に口径約50cmの常滑の壺が埋められており、壺の周囲には瓦片を入れて壺を固定している。壺の内部の埋土には少穢が混じり、一度に埋められているようである。土坑の北側はやや浅く底部が平らで、壺はその底部に据えられている。底部平坦面には鋪のような道具痕がある。壺の南には上部に石組みがある。石組みの下の土坑底部には灰白色の粘土が堆積し、臭いがあった。また、壺内の土を掘り出す時にも強い臭いがあった。SK17・18はトイレ遺構の可能性を考えたが、醸造遺構の可能性も考えられる。北調査区から248・254の墨書き器が出土していることからも醸造遺構の可能性があると考える。

SK17から出土した遺物は538点で、弥生土器6点、山茶碗18点、中世陶磁器2点、土師器皿7点、近世陶磁器302点、瓦器11点、近世土師器7点、瓦170点、石臼1点、寛永通寶2点等で74~114を掲載した。江戸時代後期~末期の陶磁器が多く、完形の常滑の壺は19世紀のものと思われる。SK18から出土した遺物は335点で、山茶碗14点、土師器皿4点、近世陶磁器159点、瓦器11点、近世土師器5点、近世以降の瓦132点で115~162を掲載した。ほとんどが江戸時代後期~末期の陶磁器である。SK17・18からは灯明皿・湯呑・練鉢などの陶器、火鉢・十能などの瓦器、常滑の焜炉・焜炉の目皿などが多く出土している。近世陶磁器の肥前のものがSK17から18点、SK18から14点出土しており、91湯呑、118鉢、132仏飯具、134小杯、135鉢を掲載した。76は古瀬戸の梅瓶で14世紀のものである。出土遺物から本遺構の時期を江戸時代末期~明治時代と推定する。

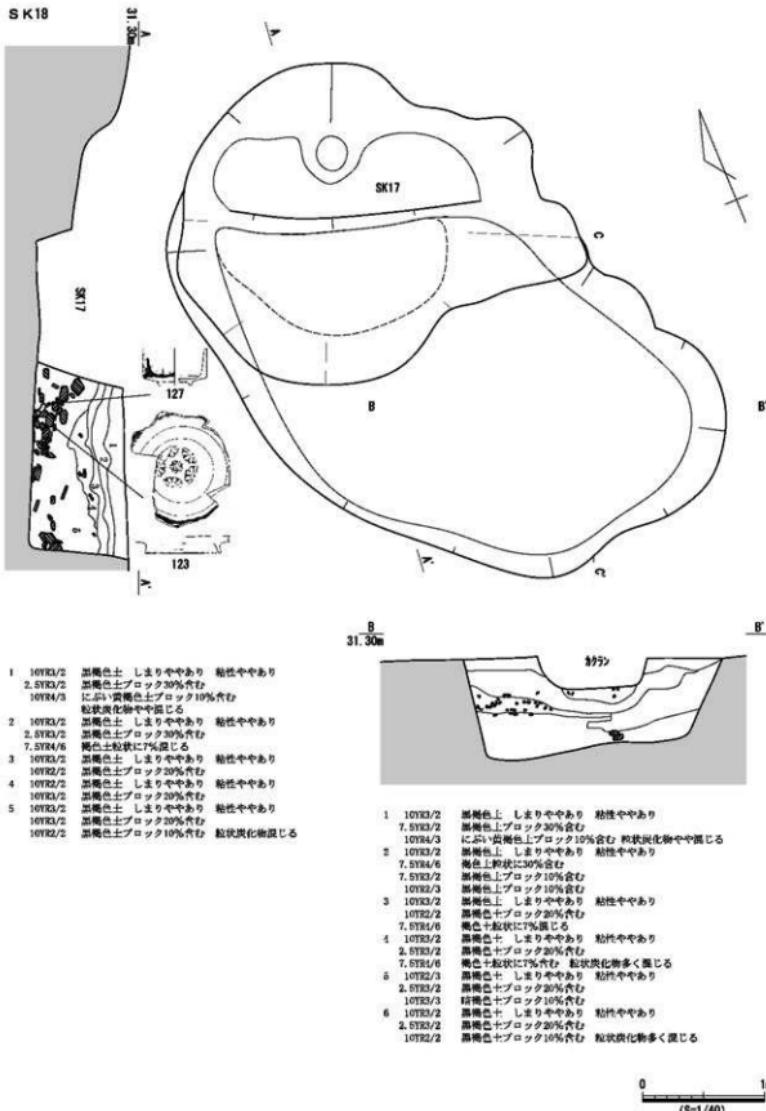


図47 SK18 遺構図(1)

## SK18 遺物出土状況

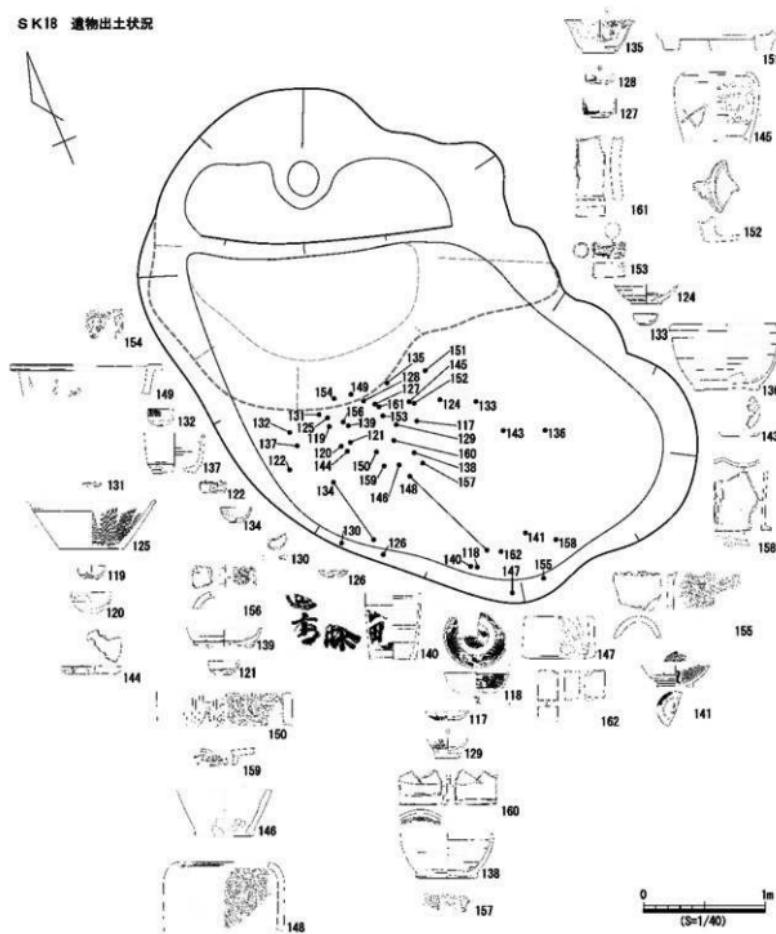


図48 SK18遺構図(2)

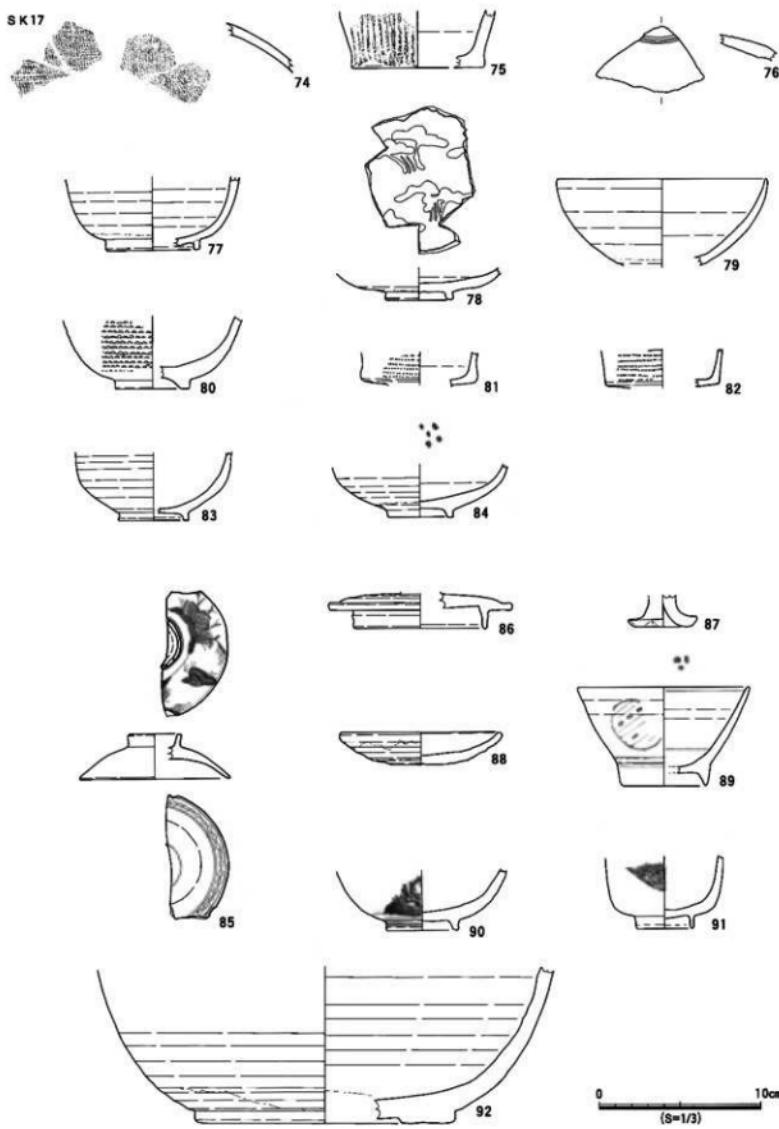


図49 SK 17 出土遺物（1）

SK17

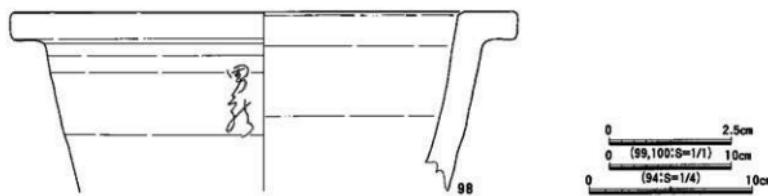
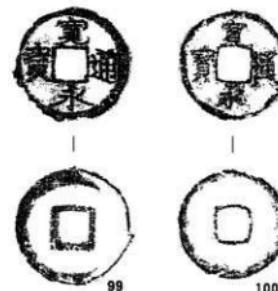
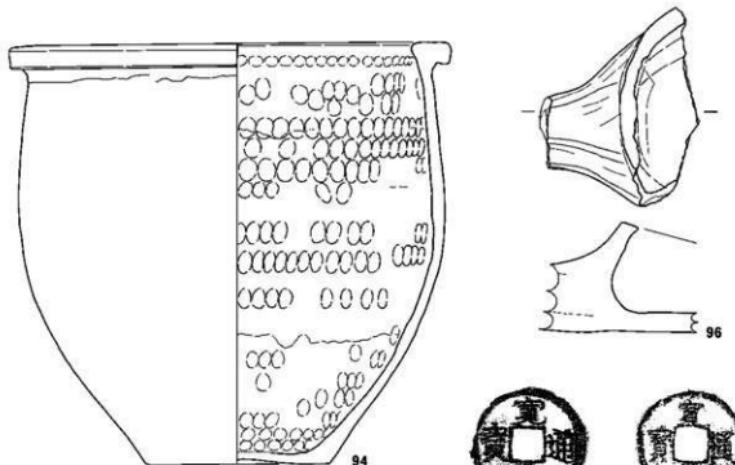
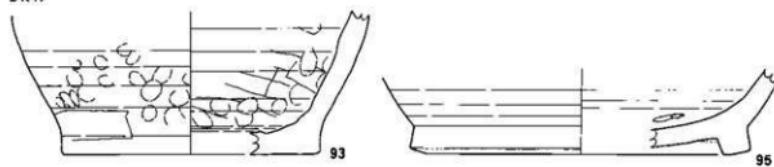


図50 SK17 出土遺物 (2)

SK17

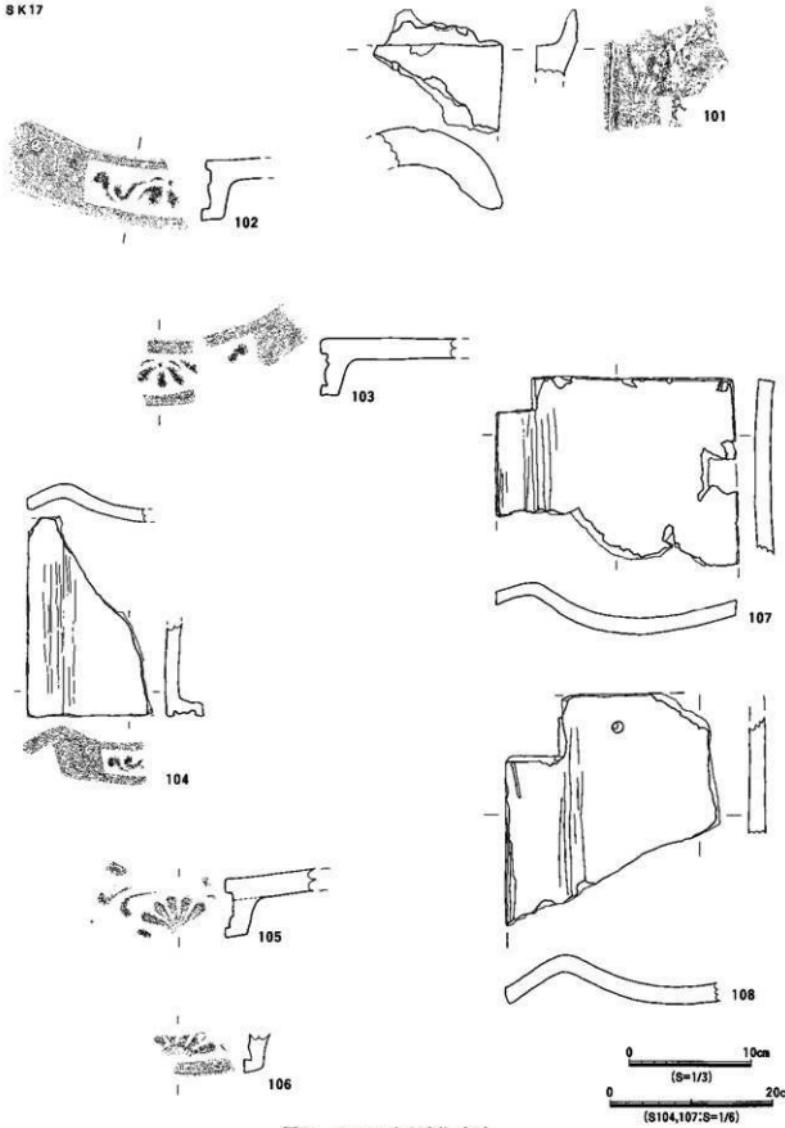


図51 SK17出土遺物（3）

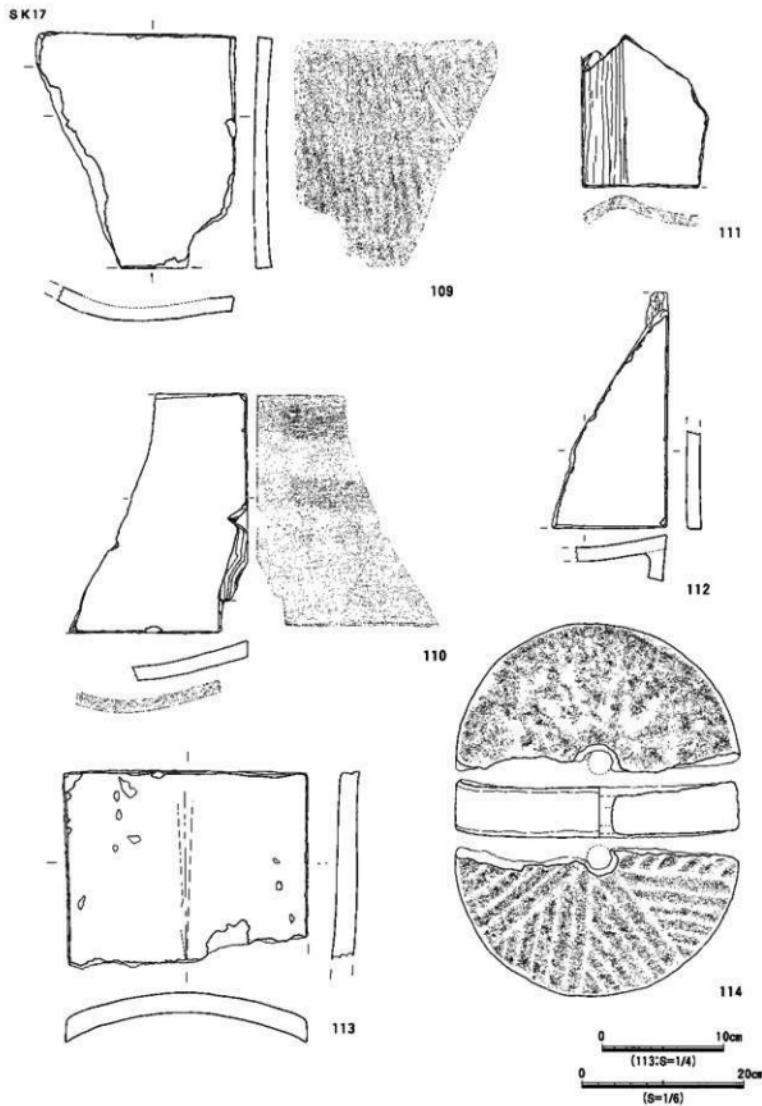


図52 SK 17 出土遺物 (4)

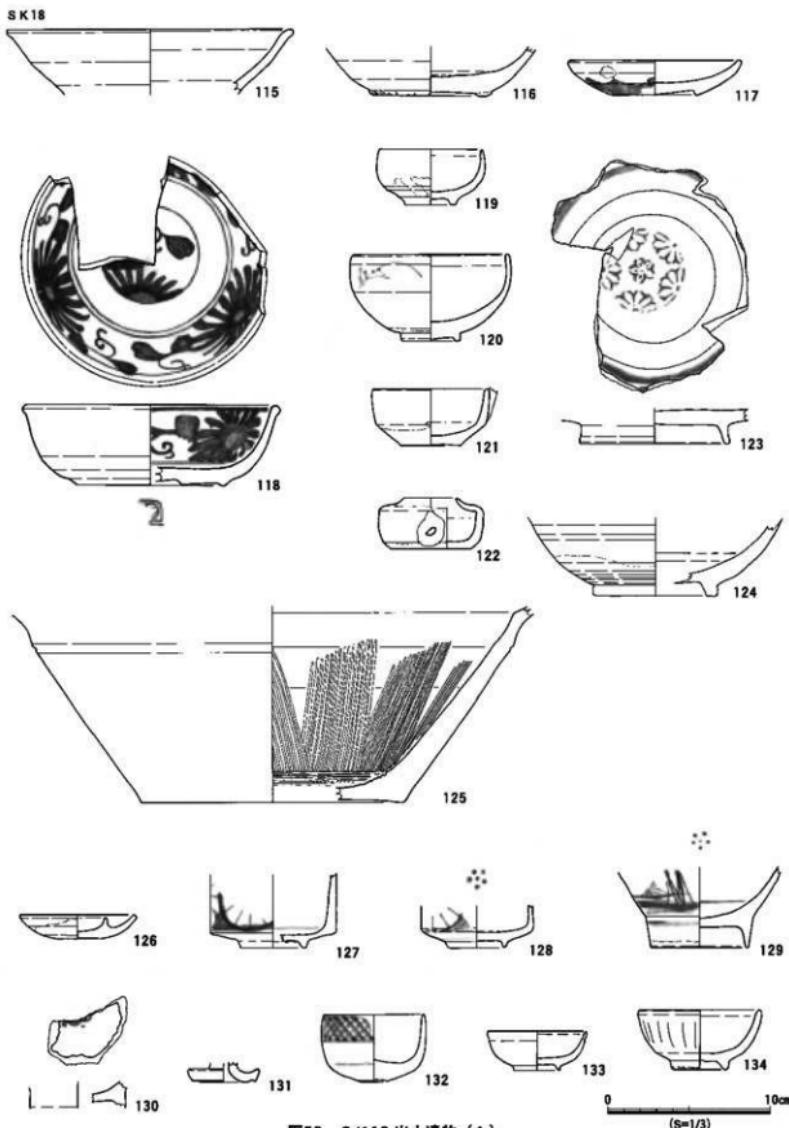


図53 SK 18 出土物 (1)

SK18

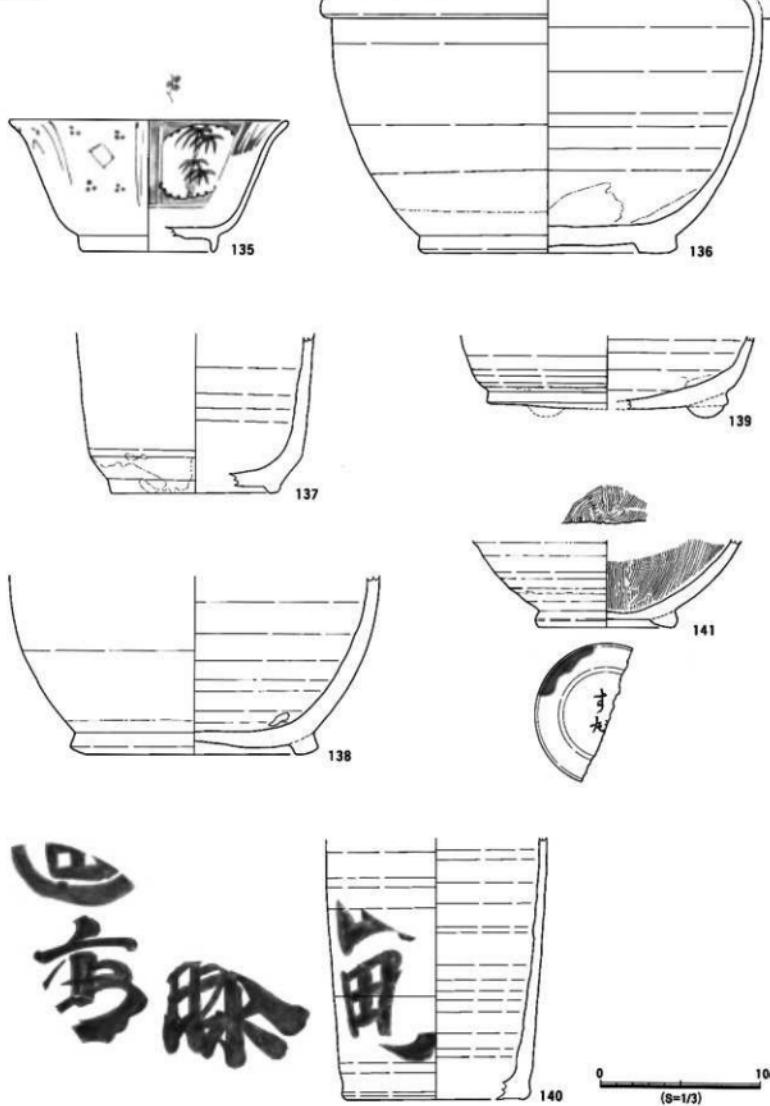


図54 SK18 出土遺物 (2)

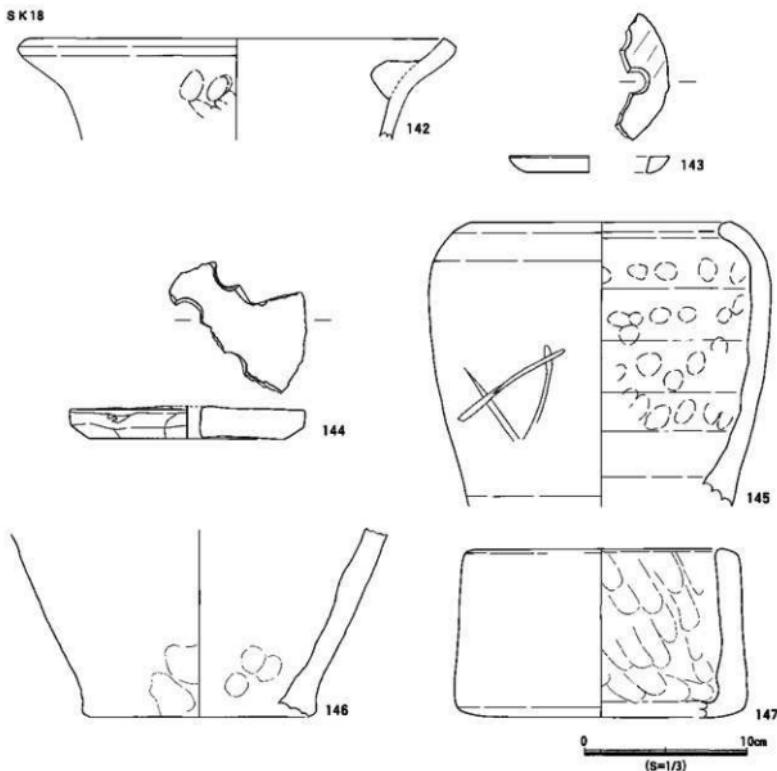


図55 SK 18出土遺物 (3)

SK18

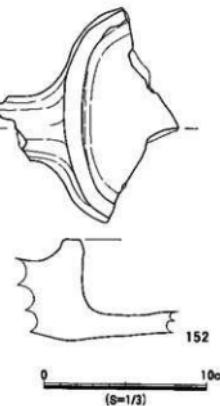
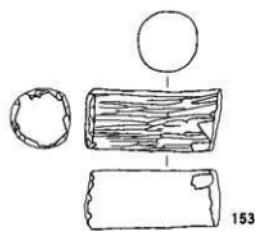
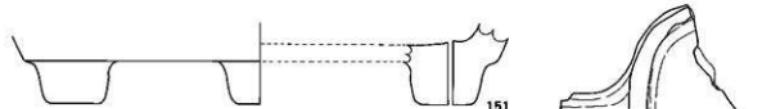
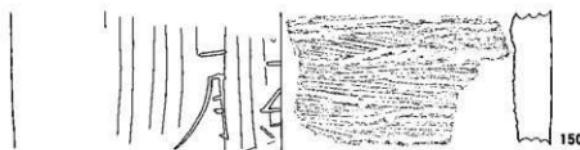
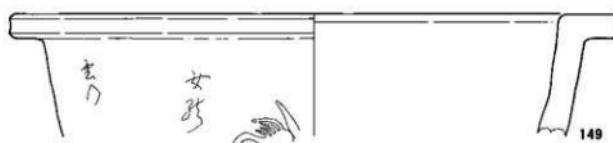
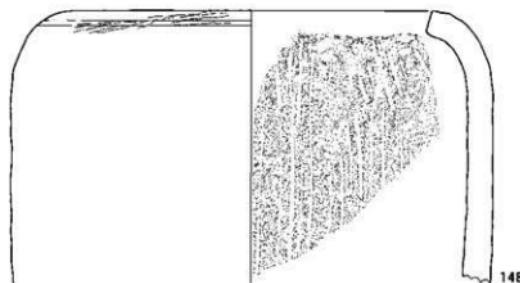


図56 SK18 出土遺物 (4)

0 10cm  
(S=1/3)

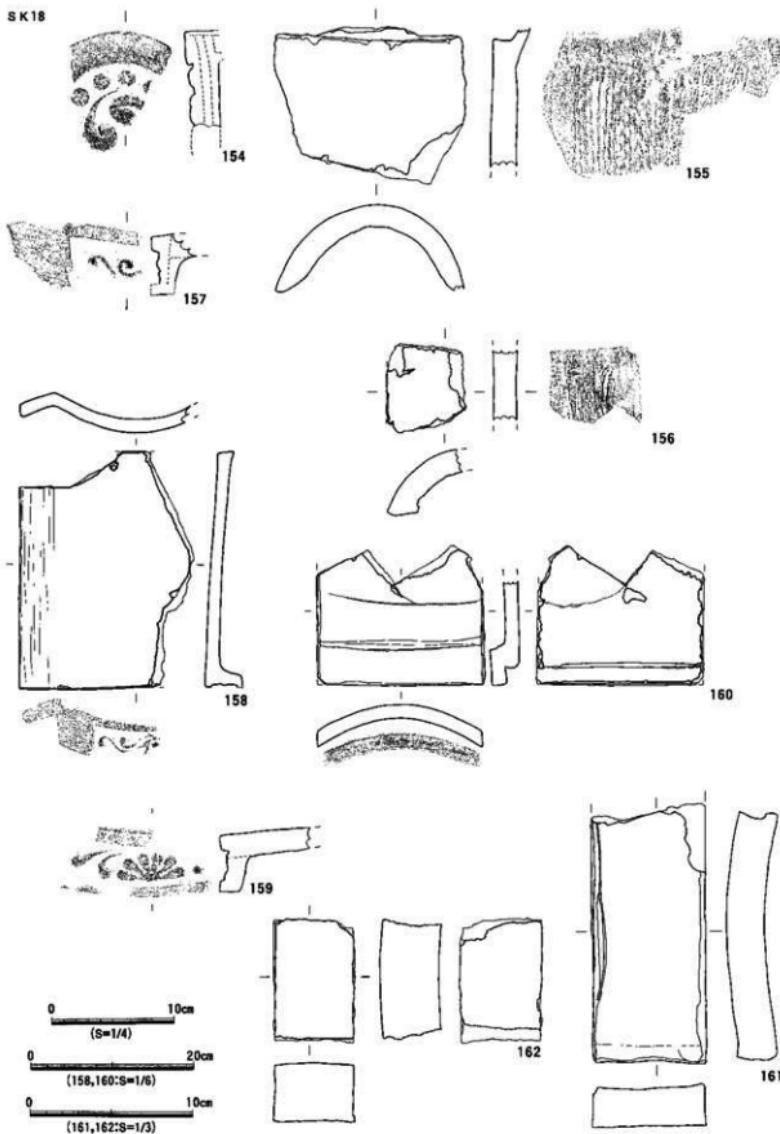


図57 SK18 出土遺物（5）

#### 4 撲乱からの出土遺物

##### KA 1~7 (遺構図: 図 58、遺物図: 図 59~65)

KA 1~7 は南調査区で検出している。KA 1~6 は南調査区北端にあり、周辺には江戸時代末期～明治時代の S KA17・18 がある。KA 7 は南調査区のほぼ中央に位置する。

KA 1 からは近世陶磁器が 2 点、近世以降の瓦が 1 点、明治時代以降の陶磁器 1 点等が出土している。163・164 を掲載した。163 は江戸時代の陶器片で底部外面に墨書きがある。

KA 2 からは土鉢 1 点、近世陶磁器 44 点、近世以降の瓦 6 点、常滑 11 点、煙管 1 点、明治時代以降の陶磁器 37 点等が出土している。165~176 を掲載した。

165 は土鉢、166~171 は江戸時代後期から末期の陶器で壺、広東茶碗、練鉢、擂鉢である。172 は常滑の壺、173 は常滑の焜炉か移動式壺のようなものと思われる。

KA 3 からは近世陶磁器 36 点、近世以降の瓦 2 点、常滑 11 点、明治以降の陶磁器 78 点、砥石 1 点等が出土している。182 は明治時代の徳利で、釉薬で文字が書いてあり、地名の芭見とも読め、口屋と店の名が書いてあるようである。

KA 4 からは山茶碗 14 点、土鉢 7 点、土錘 2 点、土人形 1 点、近世陶磁器 157 点、明治時代以降の陶磁器 185 点、常滑 32 点、焙烙鍋がほぼ完形で 1 点、近世以降の瓦 10 点、砥石 2 点、煙管 1 点等が出土している。185~222 を掲載した。188 は安土・桃山時代の志野の鉢である。近世の陶磁器の中には肥前のものが 18 点、出土しており、189・190 紅小皿、191 湯呑、192 丸碗、193 鉢である。江戸時代末期の陶磁器が多く、199~204 灯明皿、207・208 小瓶、209 は完形の徳利、210 はほぼ完形の擂鉢で、遺物の残りが良く灯明皿が多く出土している。

KA 5 からは土鉢が 3 点、近世陶磁器 29 点、明治時代以降の陶磁器 10 点等が出土している。223~226 を掲載した。224 は江戸時代末期の灯明皿、225 は火入である。

KA 6 からは灰釉陶器 1 点、土師器皿 1 点、近世土師器 1 点が出土している。227 は灰釉陶器の段皿で H-72 号窯式期のものである。

KA 7 からは弥生土器 17 点、山茶碗 9 点、土師器皿 2 点、近世陶磁器 3 点、常滑 2 点、焙烙鍋 1 点等が出土している。228 は江戸時代前期の反皿、229 は焙烙鍋で江戸時代のものと思われる。

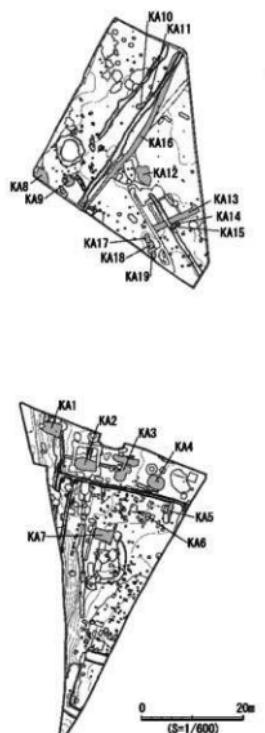


図 58 KA 1~19 遺構図

## KA 8～19（遺構図：図 58、遺物図：図 65～72）

KA 8～19 は北調査区で検出している。KA 8・9 は南西端にあり、KA 10・11 は SD13 近く、KA 12・16 はほぼ中央、KA 13～15、17～19 は南東端に位置する。KA 16 は北調査区の北にあったという池から、池の水を段丘下に流すための溝である可能性が高い。

KA 8 からは近世陶磁器 8 点、明治時代以降の陶磁器 1 点、常滑 1 点、近世以降の瓦 2 点等が出土している。230 は反胴で江戸時代末期のものである。

KA 9 からは須恵器 1 点が出土している。232 は 7 世紀末～8 世紀代の須恵器で無台坏である。

KA 10 からは近世陶磁器 4 点、明治時代以降の陶磁器 1 点、常滑 2 点、近世以降の瓦 10 点等が出土している。233 は常滑の蚊遣りで江戸時代のものと思われる。

KA 11 からは須恵器 3 点、近世陶磁器 21 点、明治時代以降の陶磁器 76 点、瓦器 2 点、常滑 8 点、近世以降の瓦 32 点、近世土師器 2 点等が出土している。江戸時代末期のものがほとんどで 235～247 を掲載している。練鉢が多い（236～238）。240 は常滑の蚊遣りで江戸時代のものと思われる。

KA 12 からは近世陶磁器 10 点、明治時代以降の陶磁器 32 点、常滑 4 点、瓦器 1 点、近世以降の瓦 12 点等が出土している。江戸時代末期のものがほとんどで 248～252 を掲載している。248 は江戸時代末期の片口鉢で体部下部外面にタマリ口と口ワタの墨書が、底部外面にやね冠にカの墨書がある。

KA 13 からは須恵器 2 点、近世陶磁器 4 点、常滑 9 点、明治時代以降の陶磁器 6 点等が出土している。253 は 9 世紀前葉の須恵器の摘み蓋である。254 は江戸時代末期の片口鉢で体部下部外面にイワタの墨書が、底部外面にやね冠にカの墨書がある。

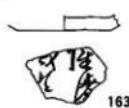
KA 14 からは近世陶磁器が 18 点、常滑 4 点が出土している。255・256 は江戸時代の肥前の磁器皿である。257・258 は明治時代の磁器であるが、257 は底部内面に 258 は底部外面に「最上醤油美濃糀葉郡岩村矢島醸造」と文字がある。岩郷土誌の資料 6 に、昭和初期～昭和 20 年に飛騨街道沿いに矢島商店（味噌、たまり製造）とある。248・254 にあるような、やね冠にカでヤマカという記号も入っている。

KA 12 出土の 248、KA 13 出土の 254、KA 14 出土の 257・258 から、岩田には江戸時代末期から昭和まで続くタマリの醸造所があったようである。

KA 15 からは近世陶磁器が 4 点、明治時代以降の陶磁器 42 点が出土している。261 は江戸時代後期の御皿である。

KA 16 からは須恵器が 6 点、近世陶磁器 12 点、近世以降の瓦 3 点、近世土師器 4 点、明治時代以降の陶磁器 73 点等が出土している。262 は 7 世紀後葉の平瓶、263 は江戸時代後期の御皿、264 は江戸時代の磁器で台、265 は江戸時代末期の練鉢、266 は熔炉鍋である。

KA1



163

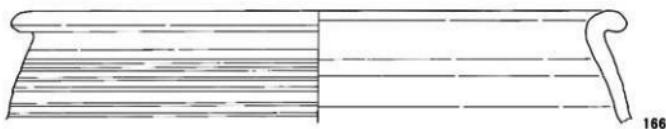


164

KA2



165



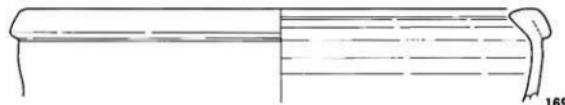
166



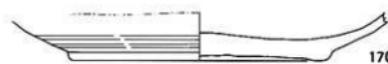
167



168



169



170

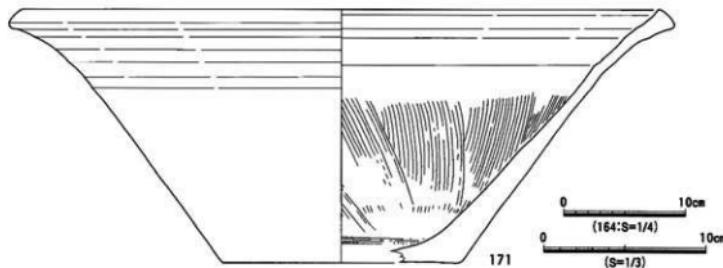
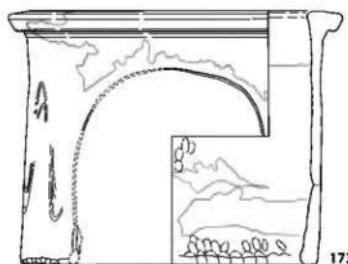
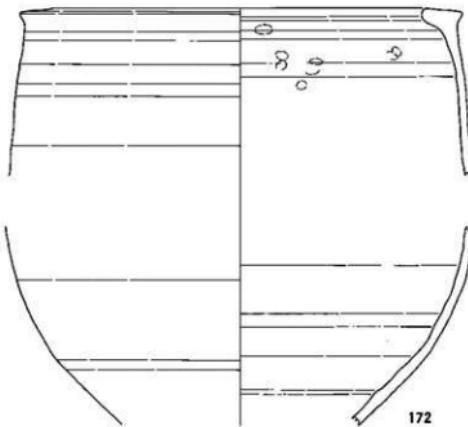
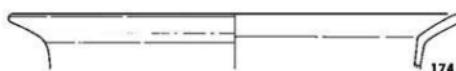


図59 KA1・KA2(1) 出土遺物

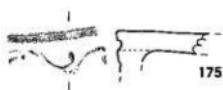
K A 2



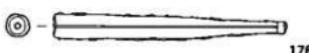
0 20cm  
(172, 173: S=1/6)



0 10cm  
(174: S=1/3)



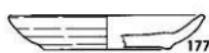
0 10cm  
(175: S=1/4)



0 5cm  
(176: S=1/2)

図60 K A 2 (2) 出土遺物

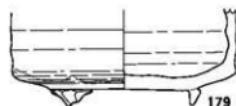
KA 3



177



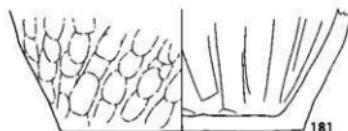
178



179



180

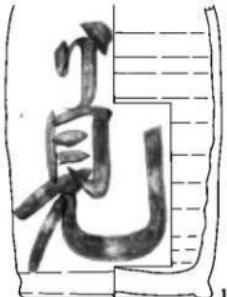


181



183

0 10cm  
(183:S=1/4)



182

0 10cm  
(S=1/3)



184



0 5cm  
(184:S=1/2)

図61 KA 3 出土遺物

KA 4

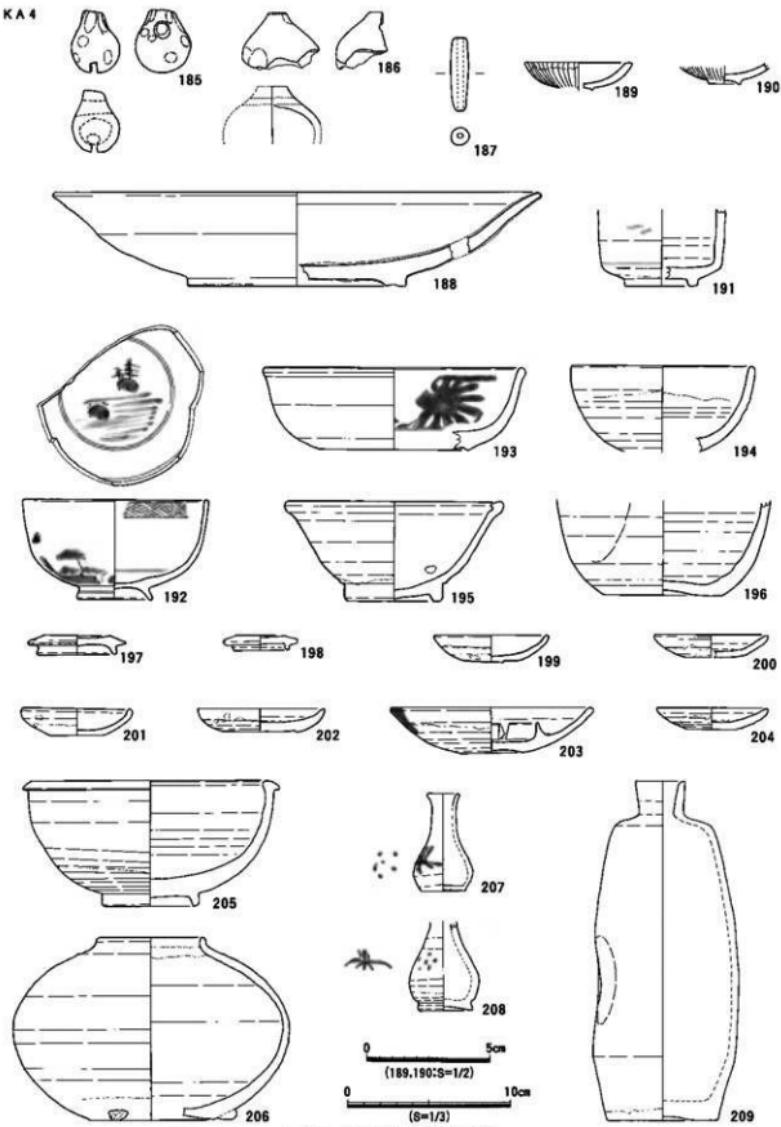


図62 KA 4 (1) 出土遺物

KA 4

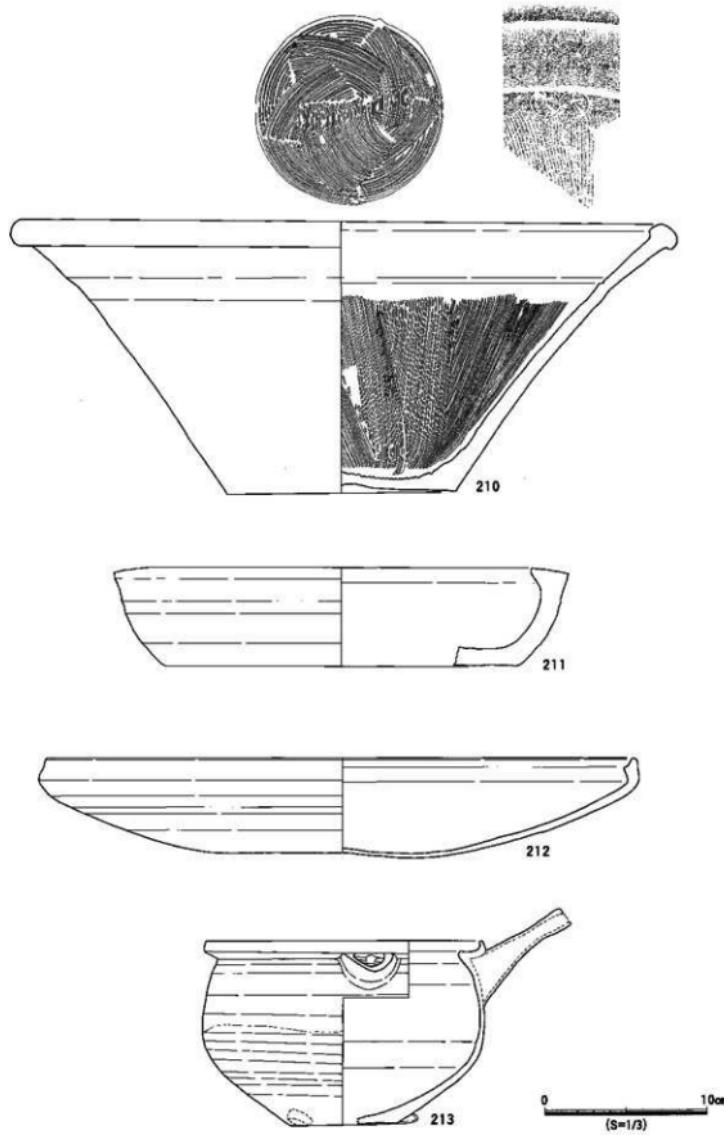


図63 KA 4 (2) 出土遺物

KA 4

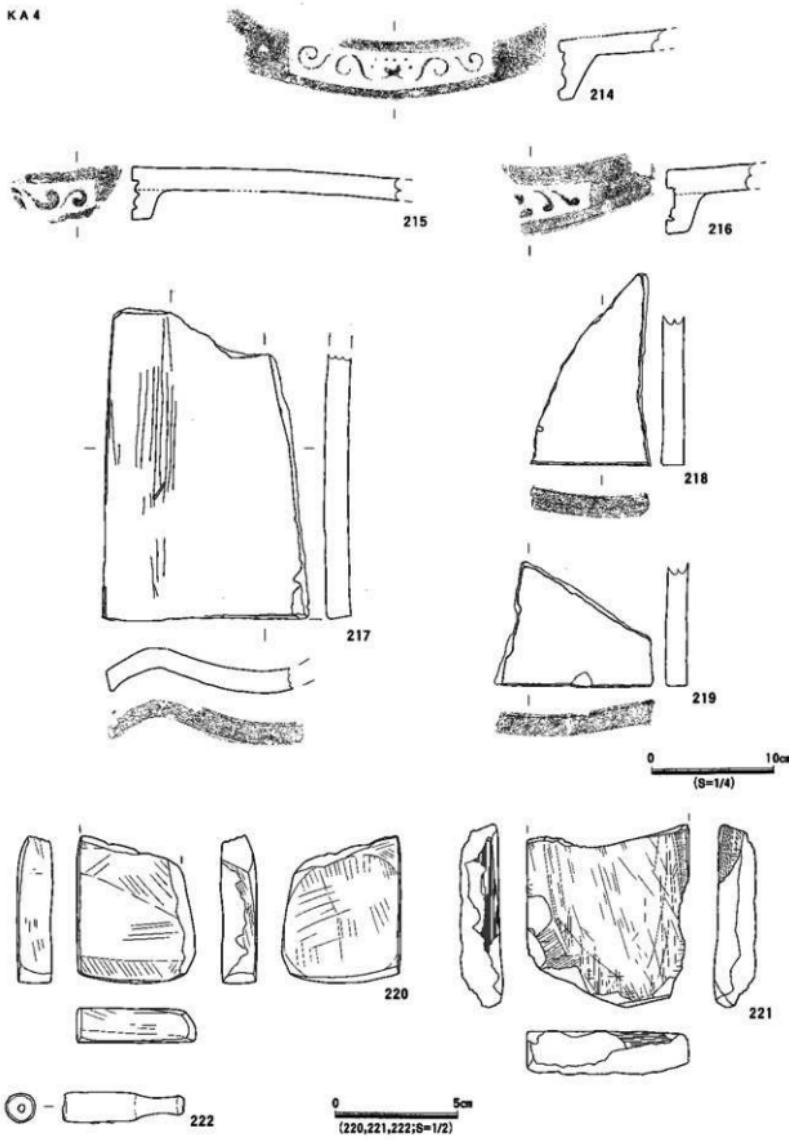
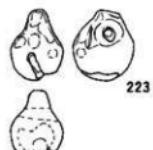


図64 KA 4 (3) 出土遺物

K A 5



223



224



225



226

K A 7



227

K A 6



228

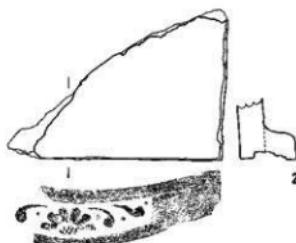


229

K A 8



230



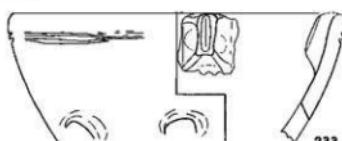
231

K A 9



232

K A 10



233



234

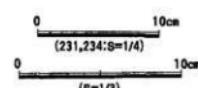
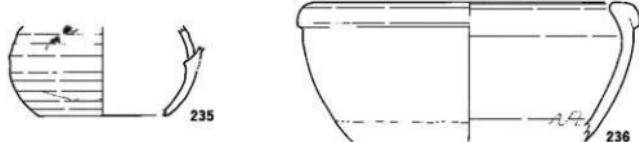
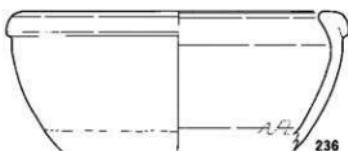


図65 K A 5～K A 10 出土遺物

K A11



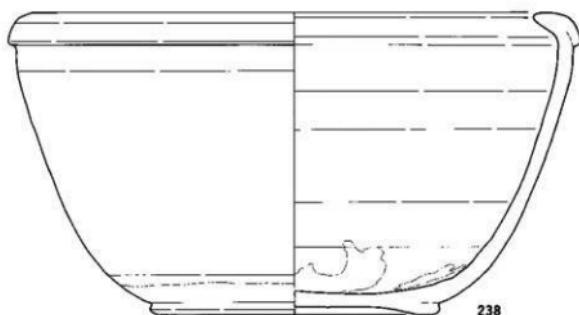
235



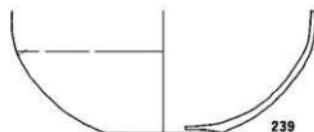
236



237



238



239

0  
(S=1/3) 10cm

図66 K A11(1) 出土遺物

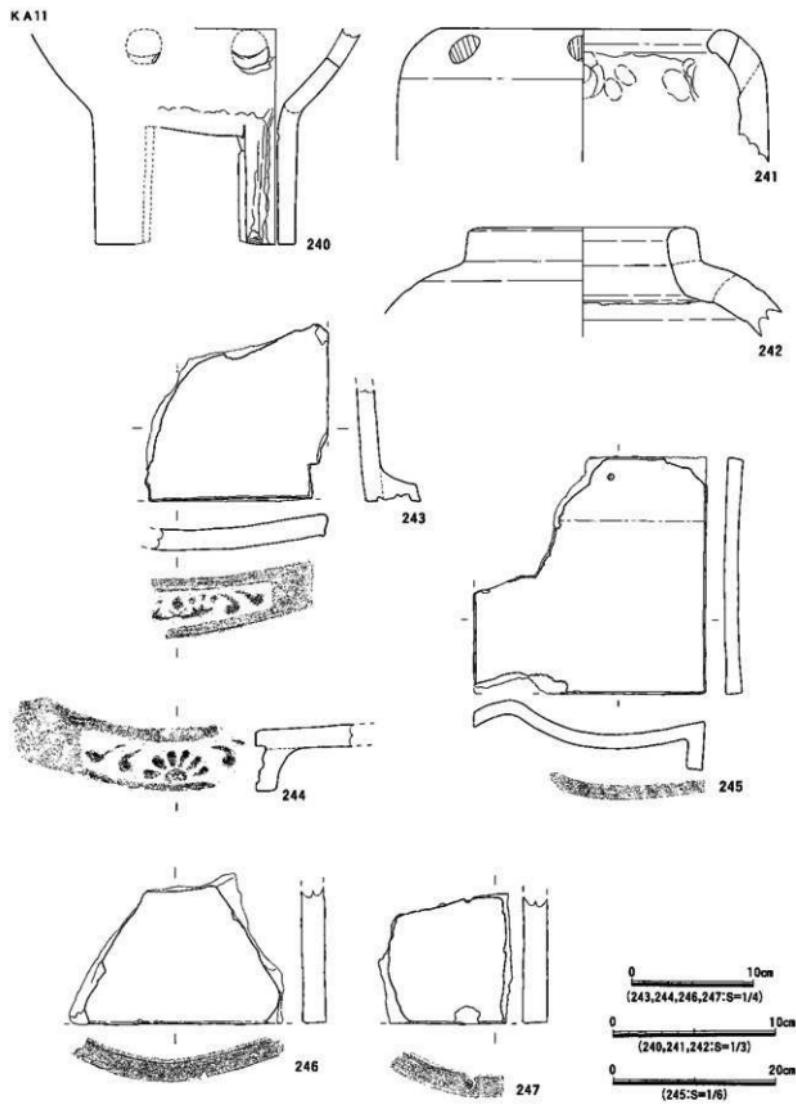
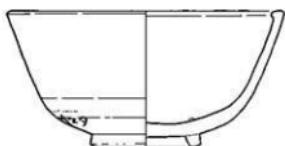
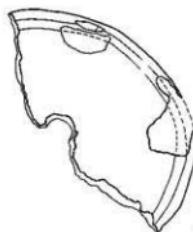
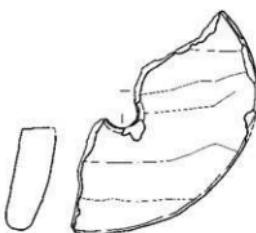


図67 KA11 出土遺物

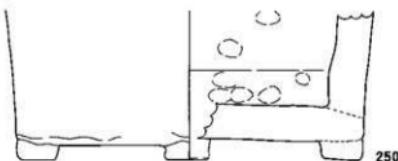
KA12



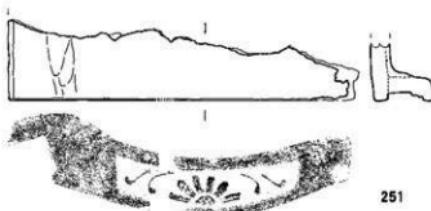
248



249



250



251



252

KA13



253

0 10cm  
(S=1/3)



254

図68 KA12・13 出土遺物

KA14



255



257



258

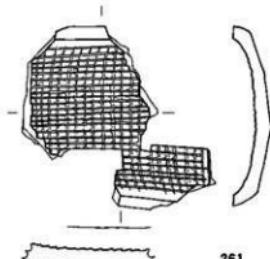


256



259

KA15



261

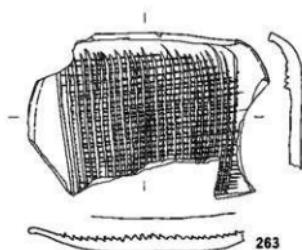


260

KA16



262



263



264



265



266

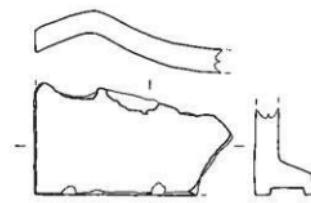
0  
(S=1/3)  
10cm

図69 KA14~KA16 (1) 出土遺物

KA16



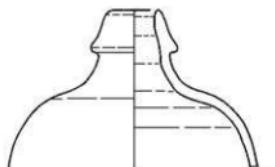
267



268

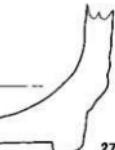


269

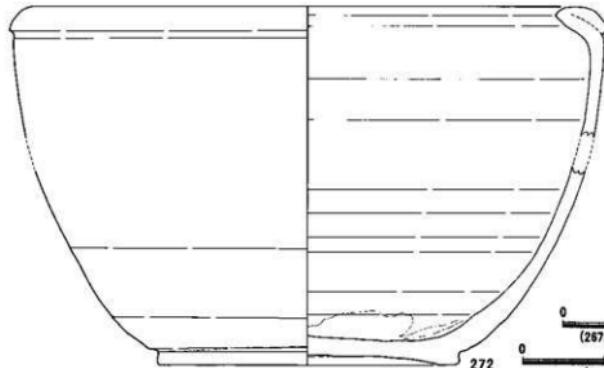


270

KA17



271



272

0 10cm  
(267,268:3=1/4)  
0 10cm  
(S=1/3)

図70 KA16 (2) ~ KA17 出土遺物

KA18

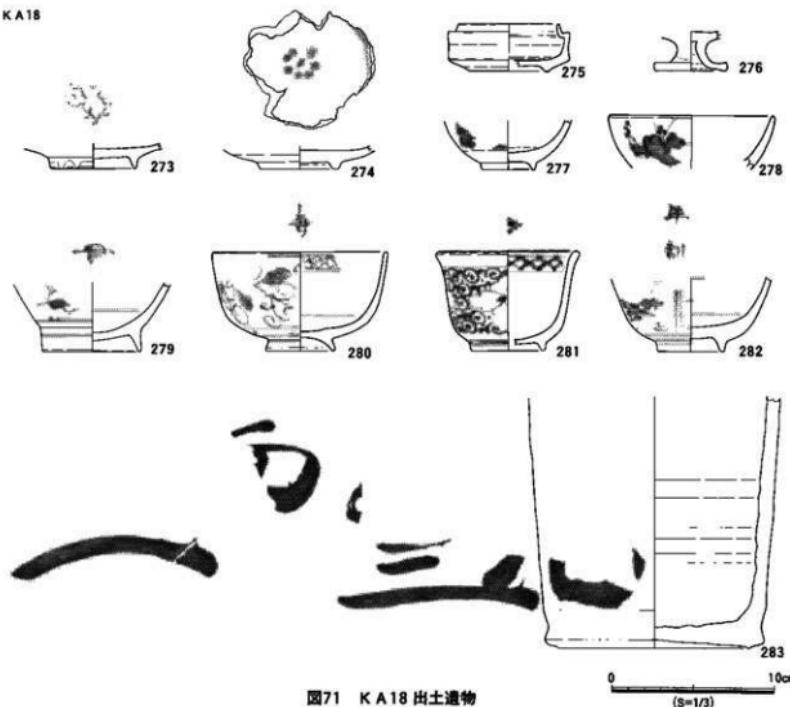


図71 KA18 出土遺物

0 10cm  
(S=1/3)

KA17 からは近世陶磁器 16 点、常滑 3 点、近世以降の瓦 7 点、近世土師器 1 点、明治時代以降の陶磁器 17 点等が出土している。271 は江戸時代後期の反胴、272 は江戸時代末期の練鉢である。

KA18 からは近世陶磁器が 29 点、常滑 3 点、近世以降の瓦 2 点、明治時代以降の陶磁器 123 点等が出土している。273 は江戸時代後期の摺絵皿、277・278 は江戸時代の肥前の碗である。283 は明治時代の徳利で外面に釉薬で文字が書かれている。

KA19 からは近世陶磁器 27 点、常滑 10 点、明治時代以降の陶磁器 82 点等が出土している。284～287 は肥前の皿で江戸時代のものである。

KA19

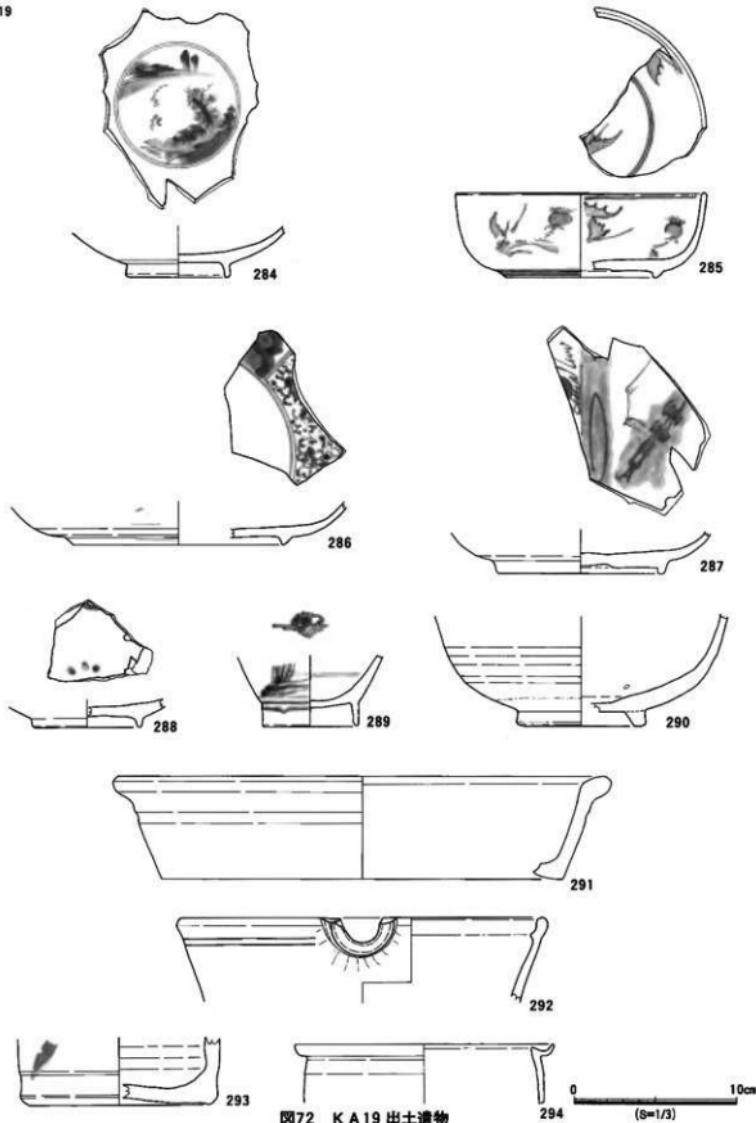


図72 KA19 出土遺物

## 第7節 包含層出土の遺物

### 1 包含層出土遺物

包含層から出土した遺物は縄文時代の石器、弥生土器、土錐、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、伊勢型鍋、青磁・白磁、中世陶器、近世陶磁器、常滑、焙烙鍋、近世以降の瓦、明治時代の陶器、瓦器、石硯、金属製品がある。

包含層から出土した縄文時代の石器は、草創期の有説尖頭器（295）とスクレイバー（296）と、前期の石鎌（297）と時期のわからないフレイク・磨製石斧がある。

包含層から出土した弥生土器は162点で、中期中葉以前のものが1点（300）、中期中葉中部高地栗林式のものが1点（302）、中期中葉貝田町式のものが5点（306～310）、中期後葉高藤式のものが2点（311・312）、中期のものが4点（301、303～305）を掲載した。

包含層出土から出土した須恵器は214点で、そのうちの7世紀後葉美濃須衛産の返り壺（318）・低脚高坪（319）・平瓶（320）、8世紀末～9世紀猿投産の長頸壺（321）、9世紀前葉美濃須衛産の有台坪（322）を掲載した。

包含層から出土した灰釉陶器は63点で、0-53号窯式期の碗が1点、H-72号窯式期の碗が2点・皿1点・瓶類1点で、百代寺窯式期の碗（328）・小碗（329）・片口鉢（330）を掲載した。

包含層から出土した山茶碗は548点で、寒洞1号窯式期の碗（332・333）・皿（334）、白土原1号窯式期の皿（335）明和1号窯式期の碗（336）、大畑大洞4号窯式期の皿（337）を掲載した。

包含層から出土した中世陶磁器では、青磁・白磁が4点出土し、青磁（339・340）・白磁（341・342）を掲載した。古瀬戸の陶器は包含層から21点出土し、前期の四耳壺（343）、中期の柄付片口（344）、後期の天目台（346）、卸皿（347）、擂鉢（348）を掲載した。大窯第3段階の灯明皿2点（351・352）がSH1・SH2付近の包含層から出土している。

包含層から出土した近世陶磁器では、肥前産の陶磁器が23点出土し、紅小皿・皿など356～362を掲載した。江戸時代後期の陶磁器が368点出土し、353～355、363～385を掲載した。焙烙鍋が27点出土し、388～390を掲載した。近世以降の瓦は176点出土し、391～402を掲載した。金属製品は22点出土し、408～411を掲載した。



写真10 南調査区包含層掘削風景



写真11 北調査区調査風景

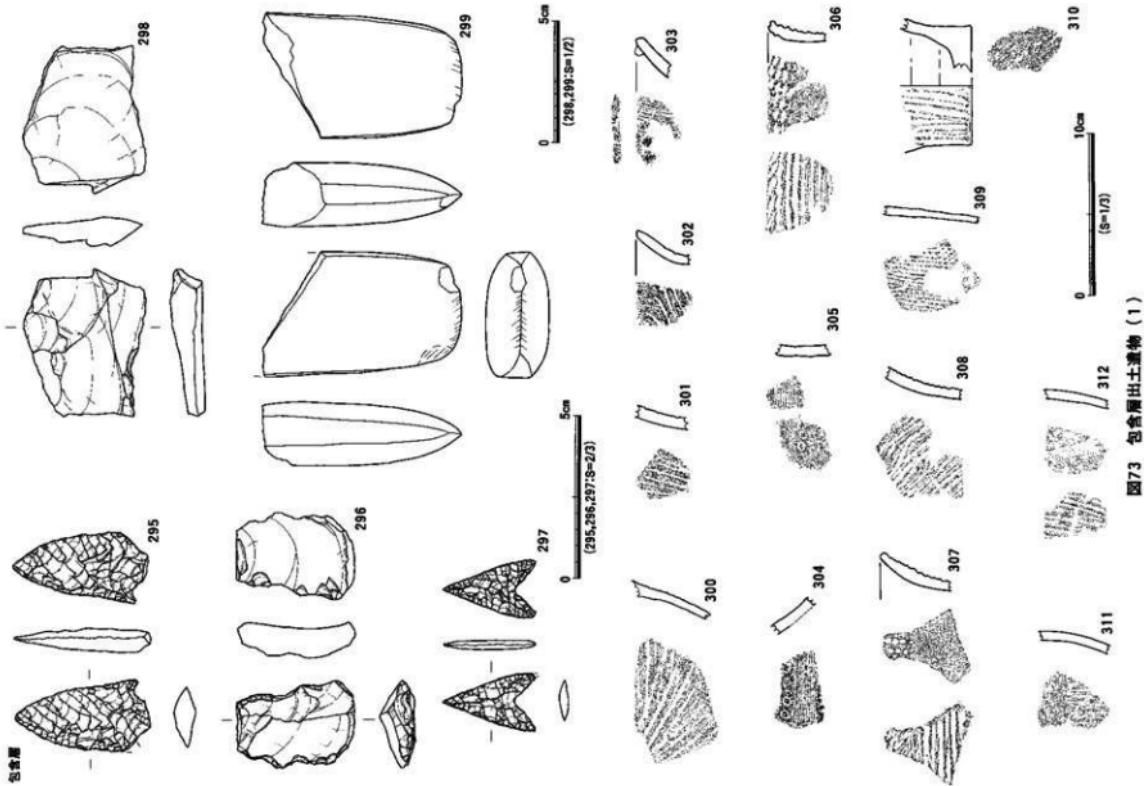


図73 包含層出土遺物(1)

## 包含層

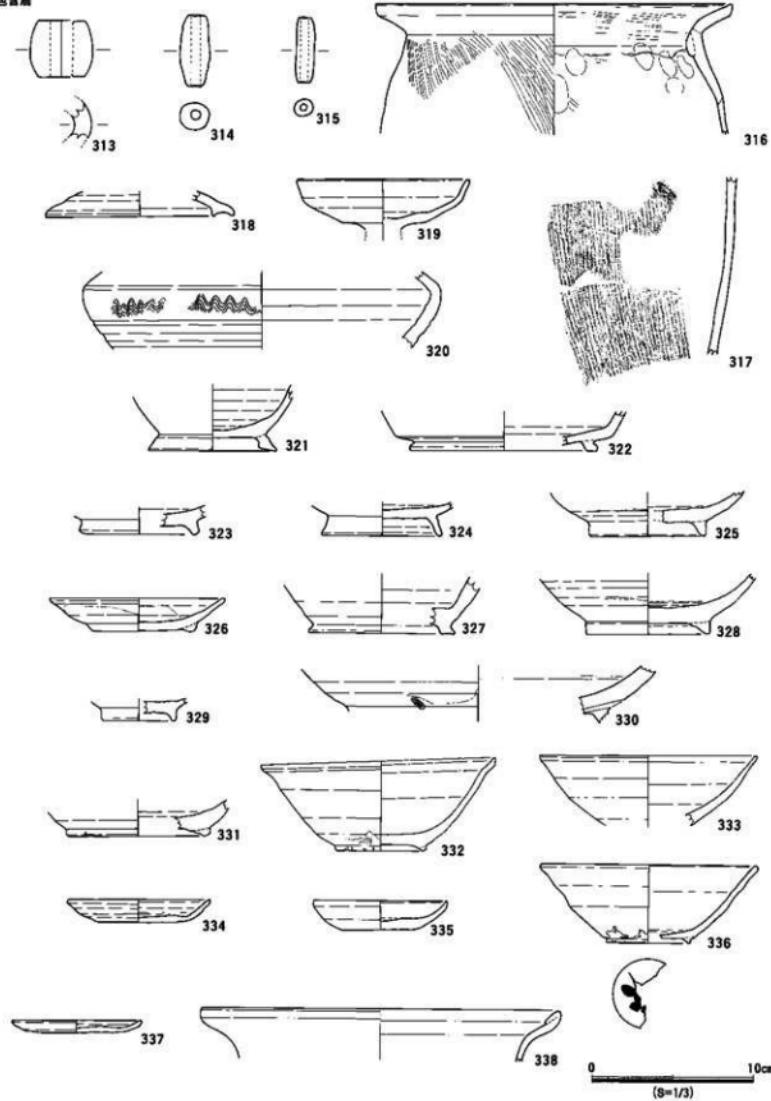


図74 包含層出土遺物（2）

包含層

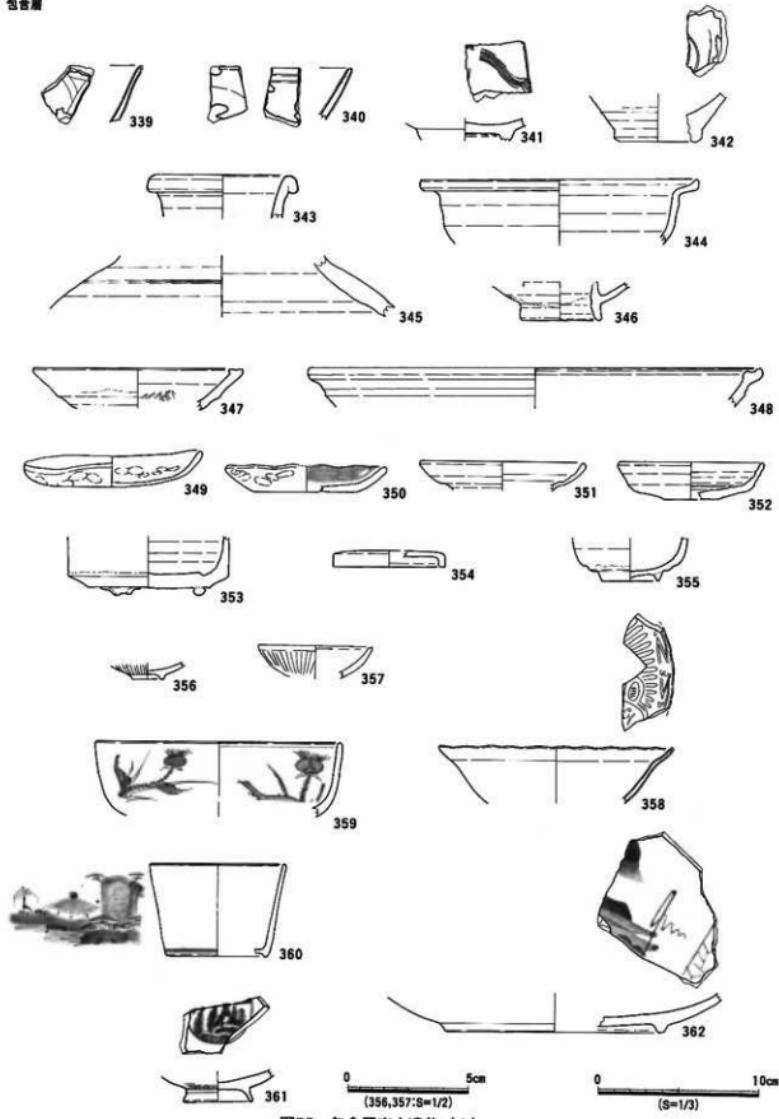


図75 包含層出土遺物(3)

包含層

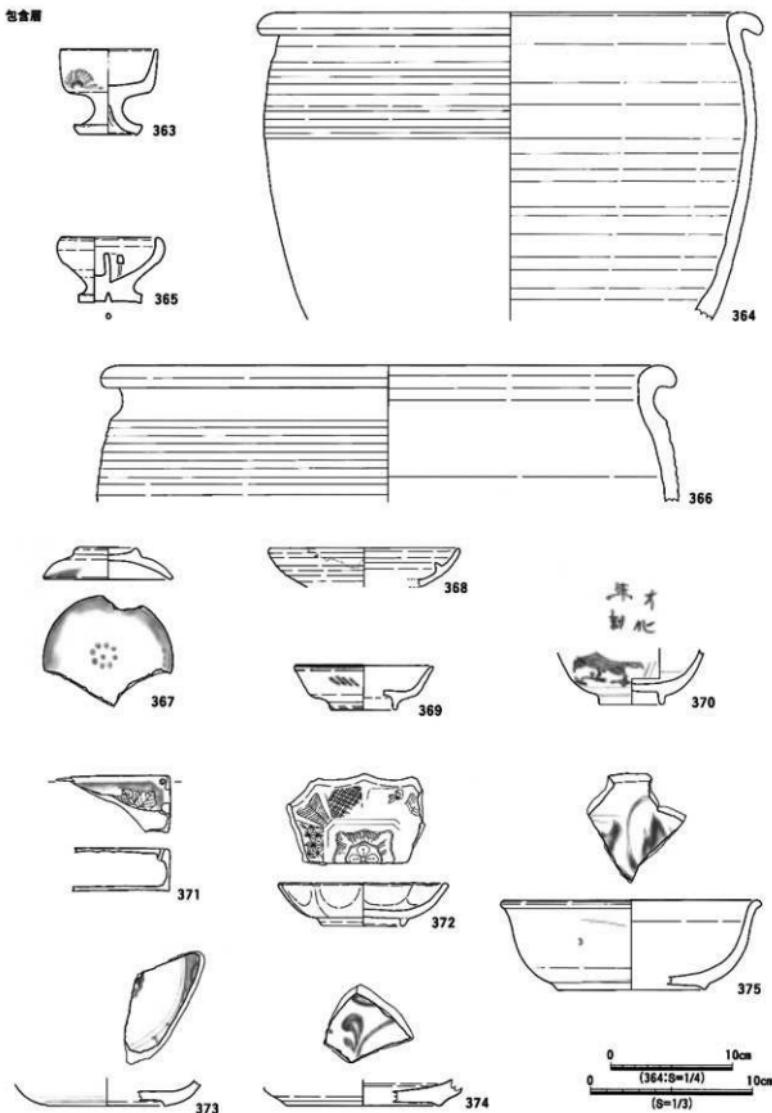


図76 包含層出土遺物(4)

包含層

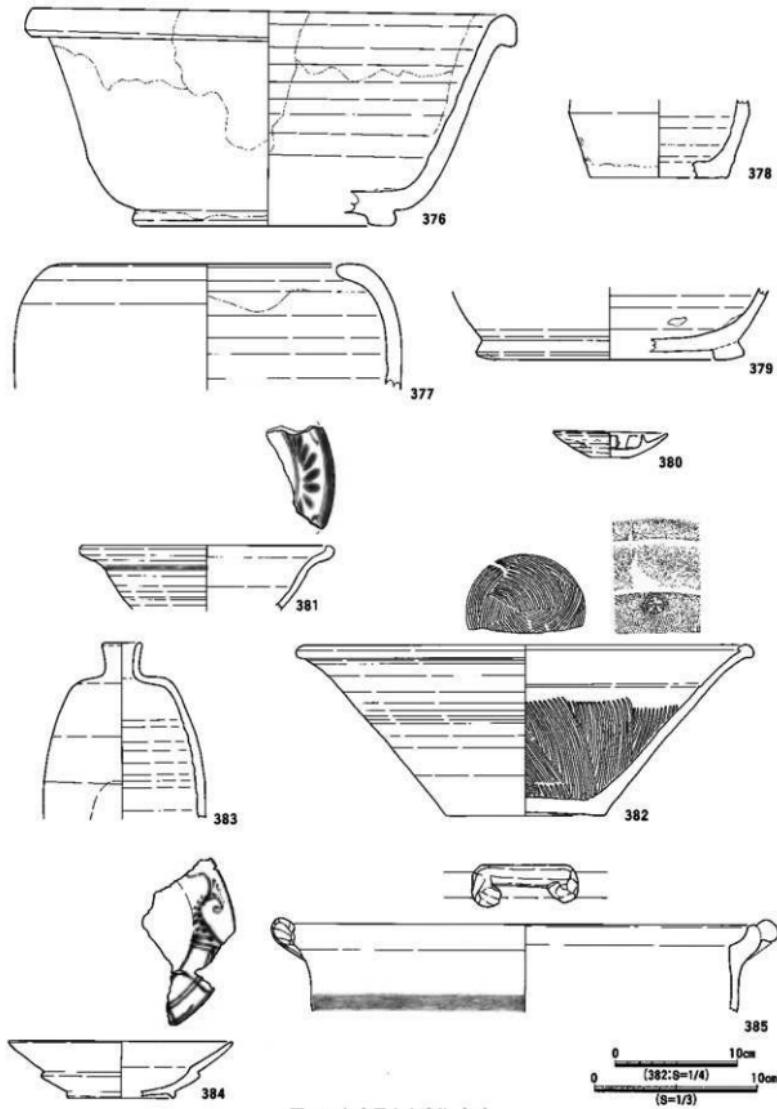
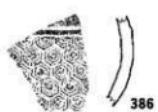
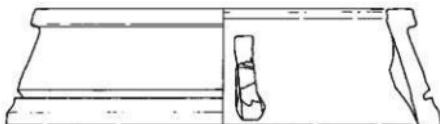


図77 包含層出土遺物（5）

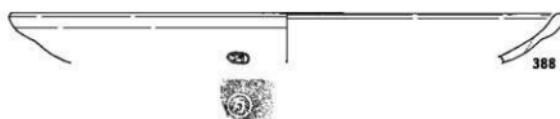
包含層



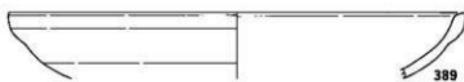
386



387



388



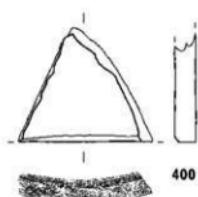
389



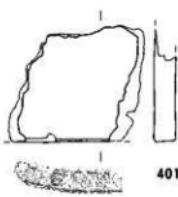
390

0  
(S=1/3)

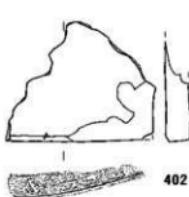
10cm



400



401



402

0  
(S=1/4)

10cm

図78 包含層出土遺物（6）

包含層

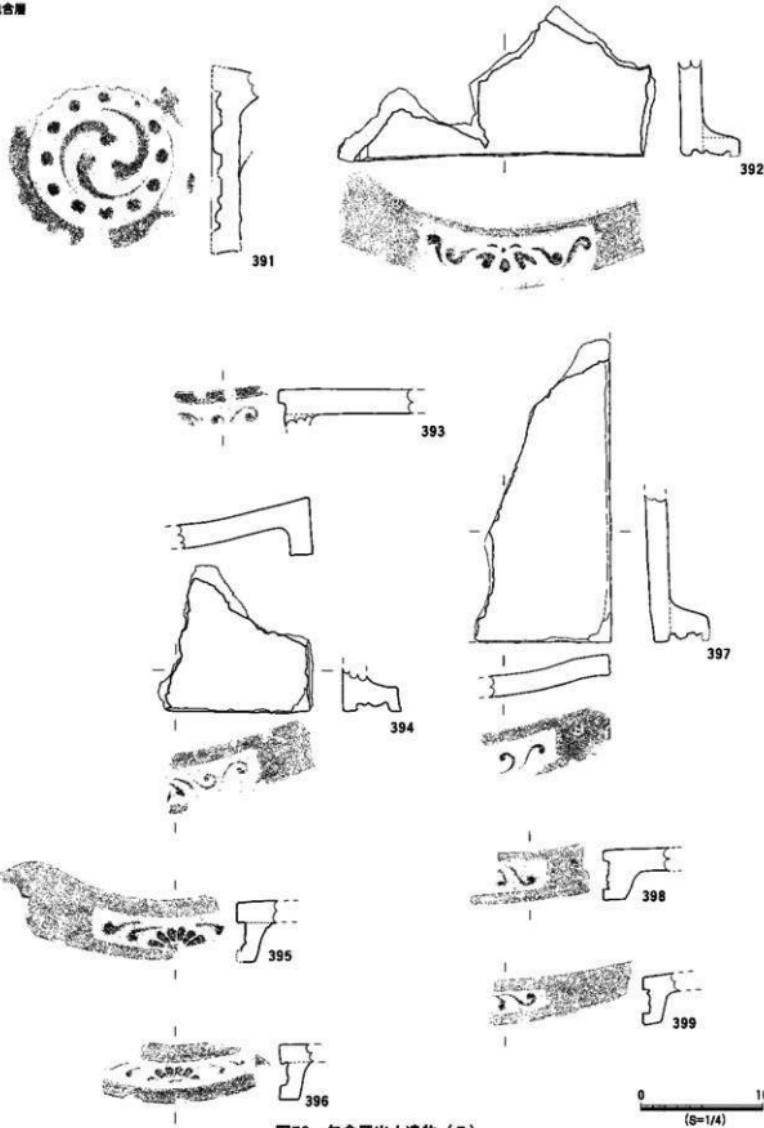


図79 包含層出土遺物（7）

0 10cm  
(S=1/4)

包含層

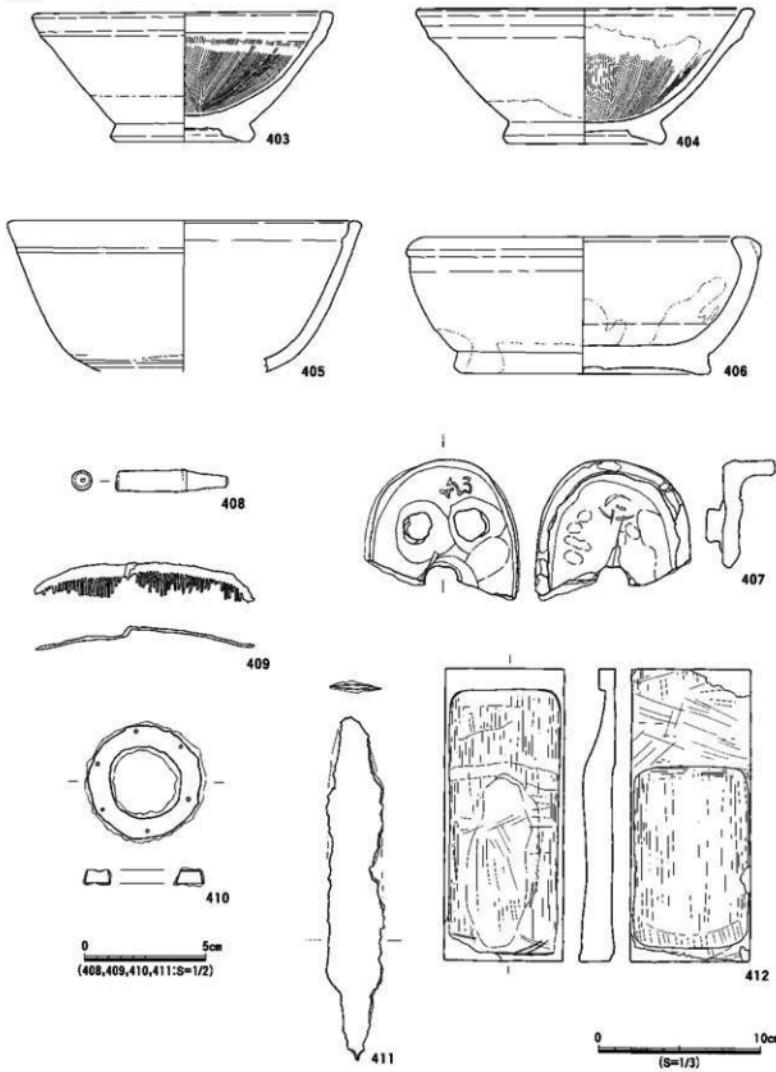


図80 包含層出土遺物（8）

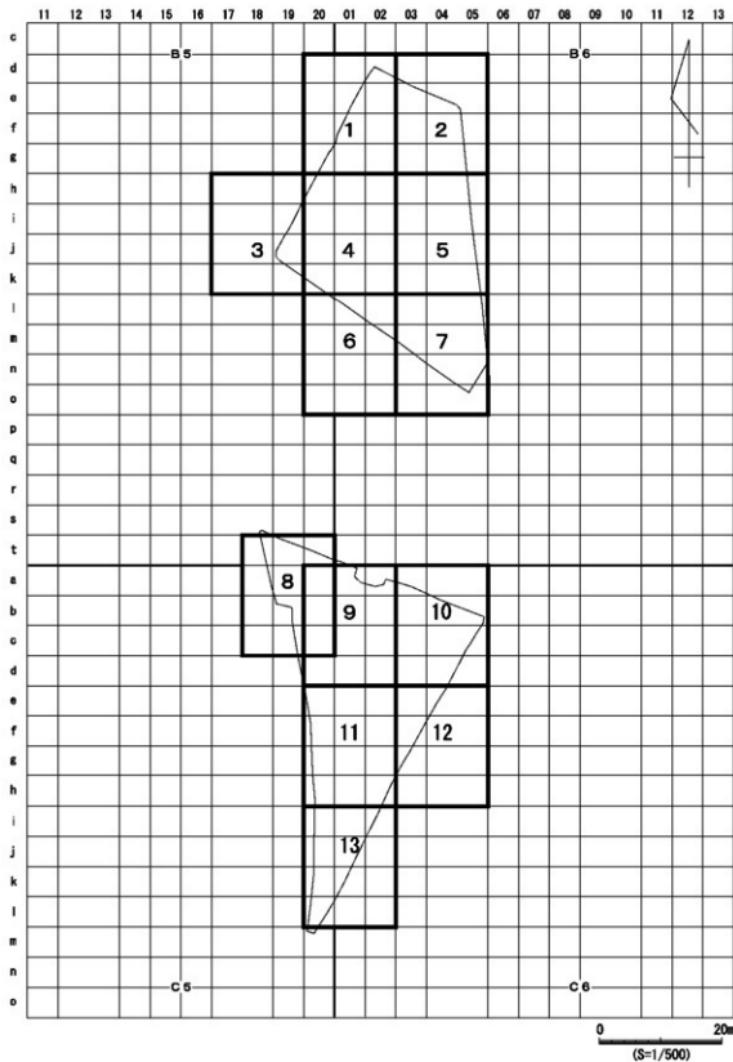


図81 遺構全体図割付図

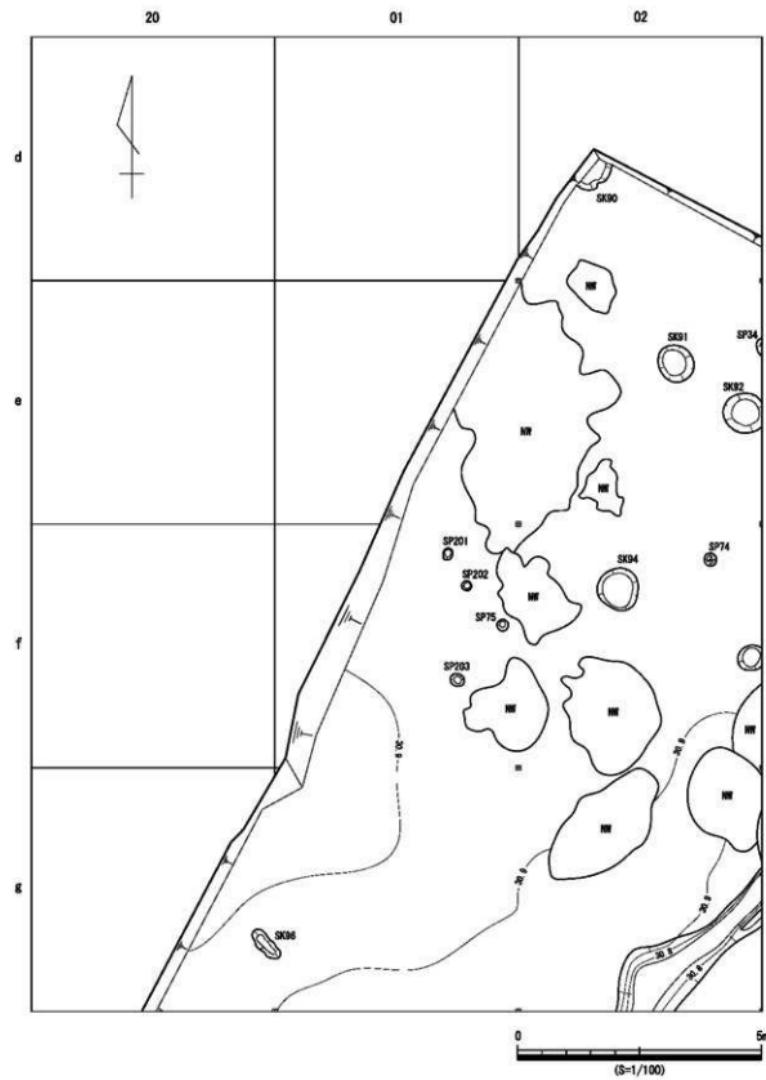


図82 遺構全体図分割図 1

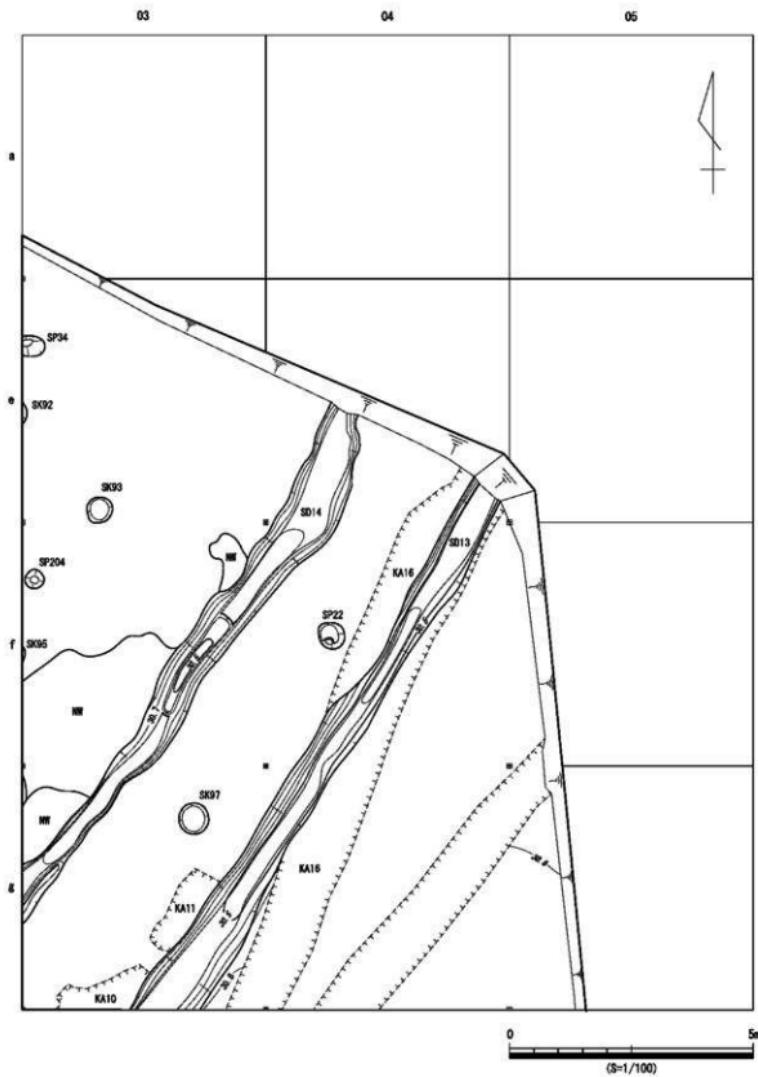


図83 遺構全体図分割図 2

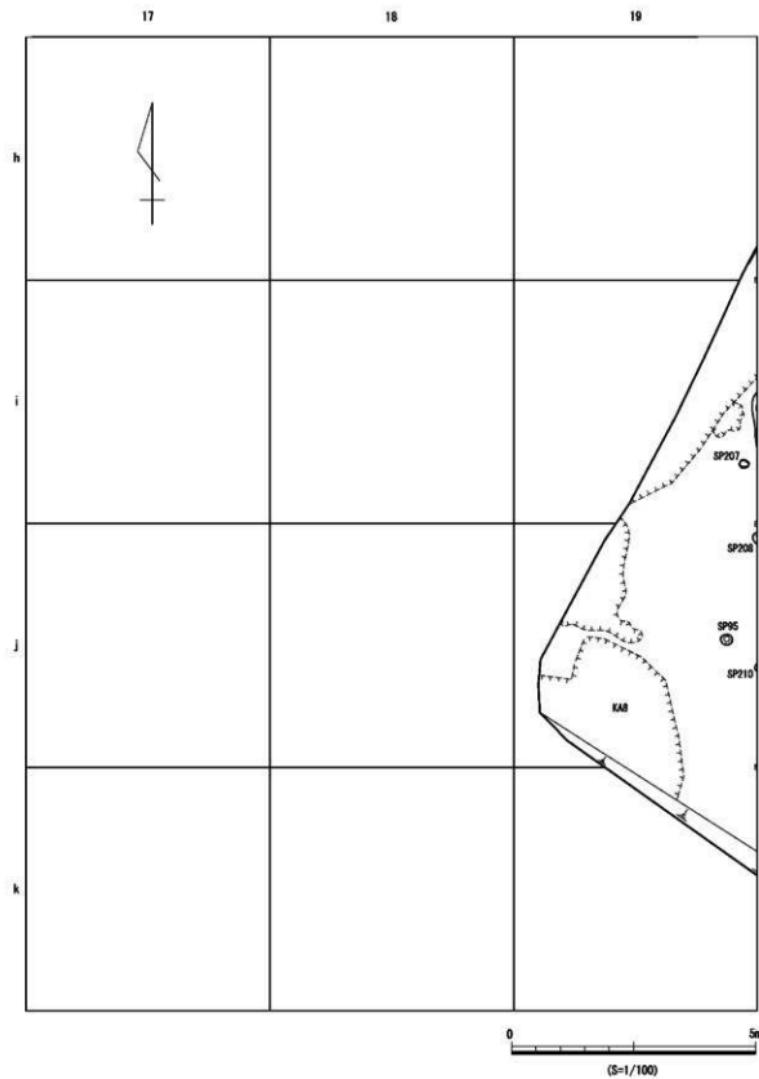
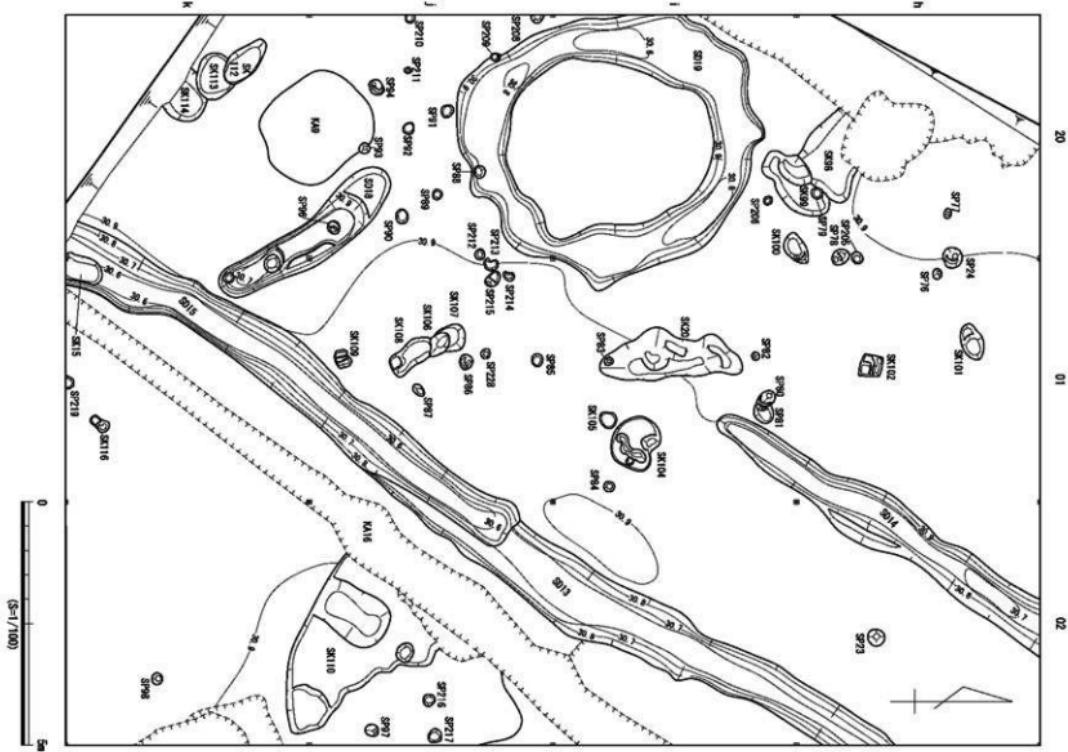


図84 遺構全体分割図 3

遺構全体図分割図 101



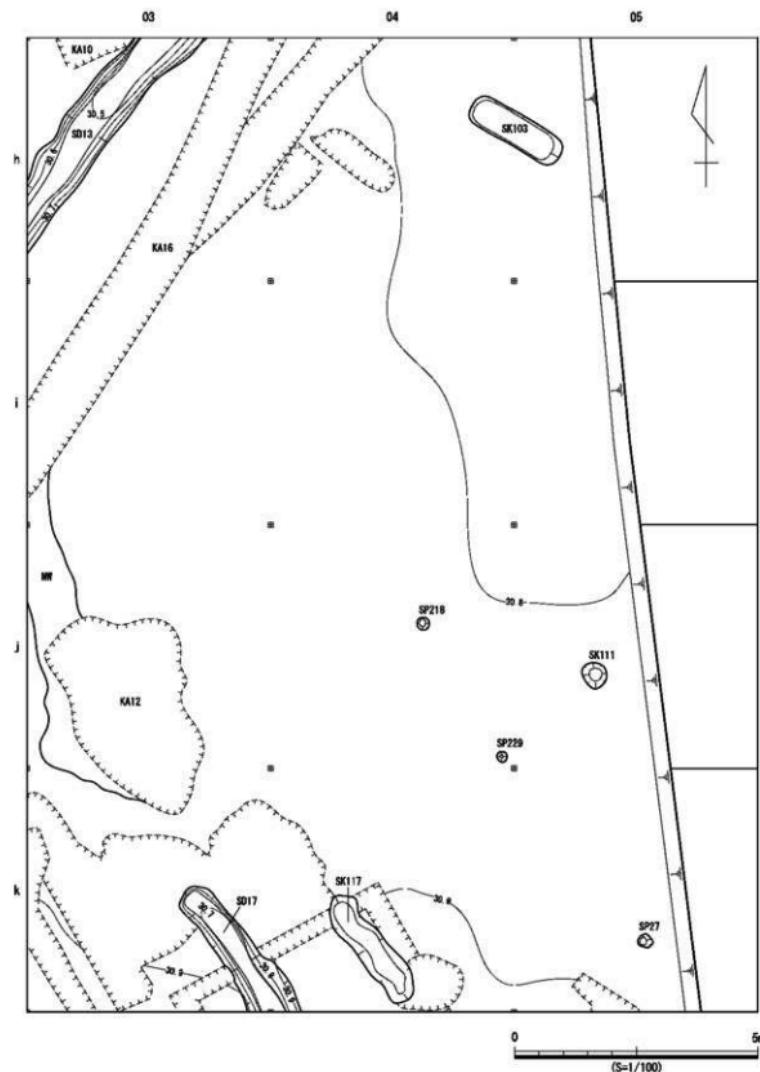


図86 遺構全体図分割図5

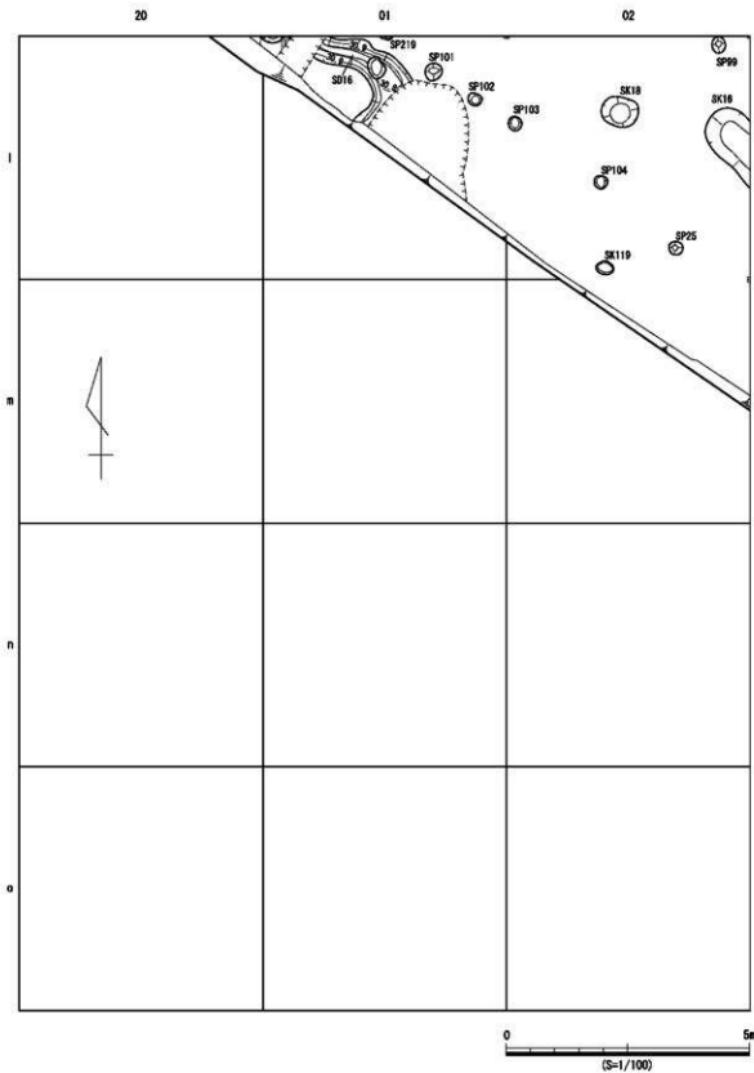


図87 遺構全体図分割図 6

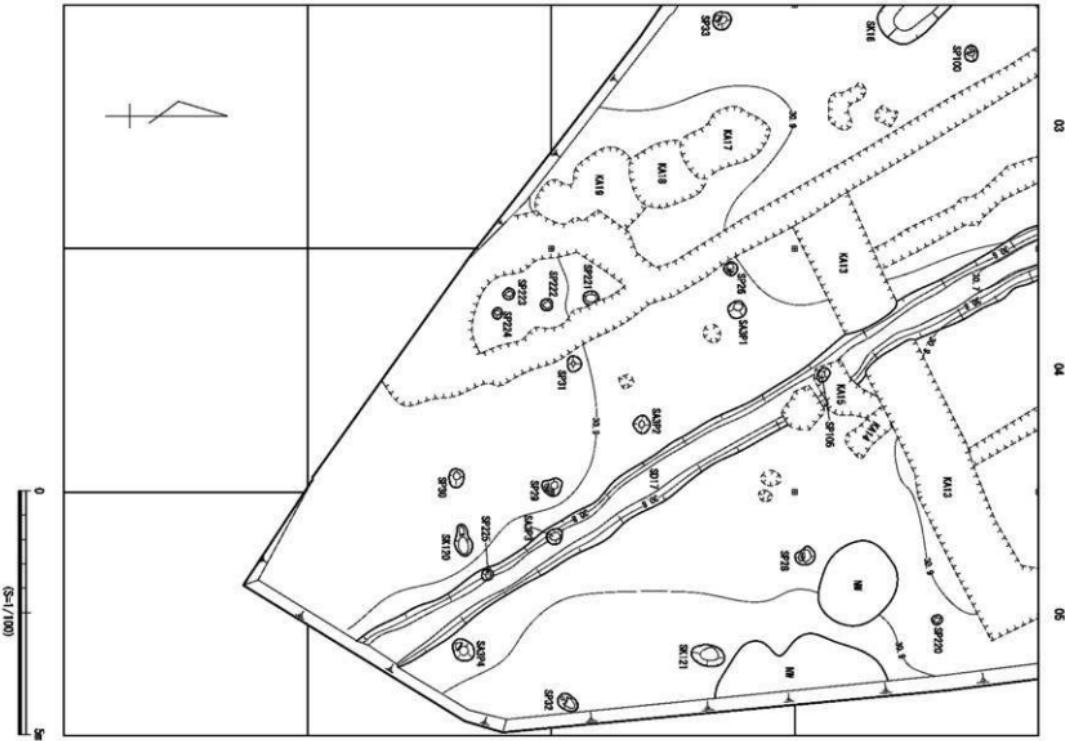


図88 遊耕全体図分野図7

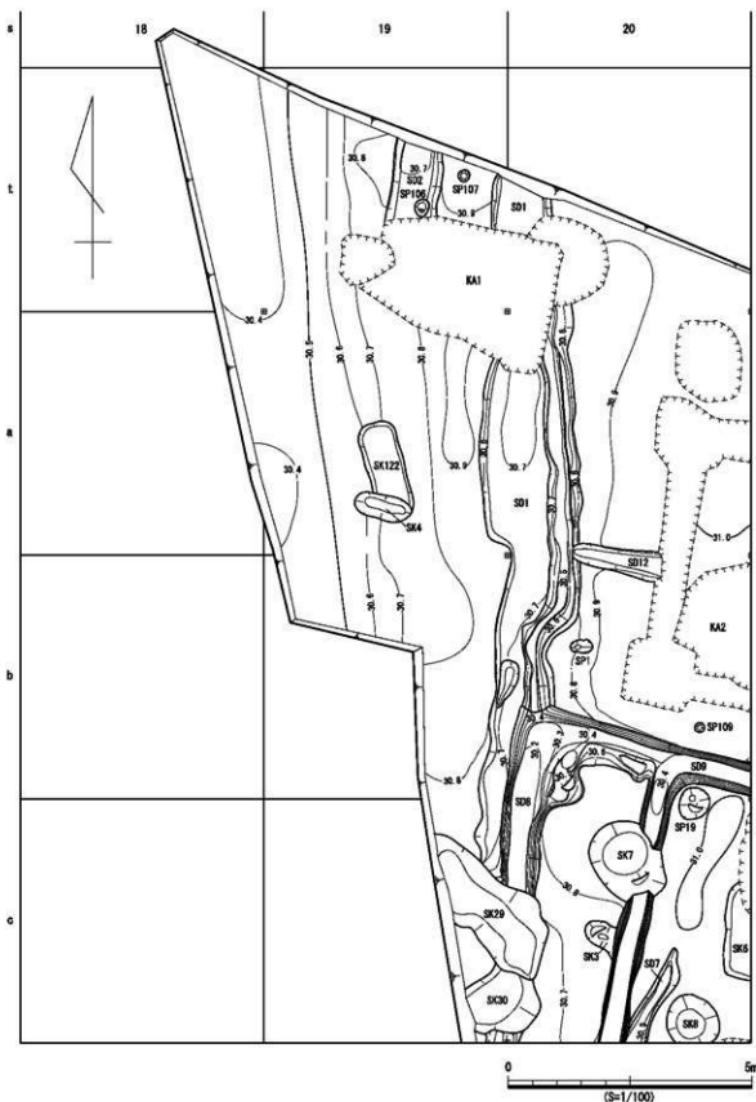


図89 造構全体図分割図 8

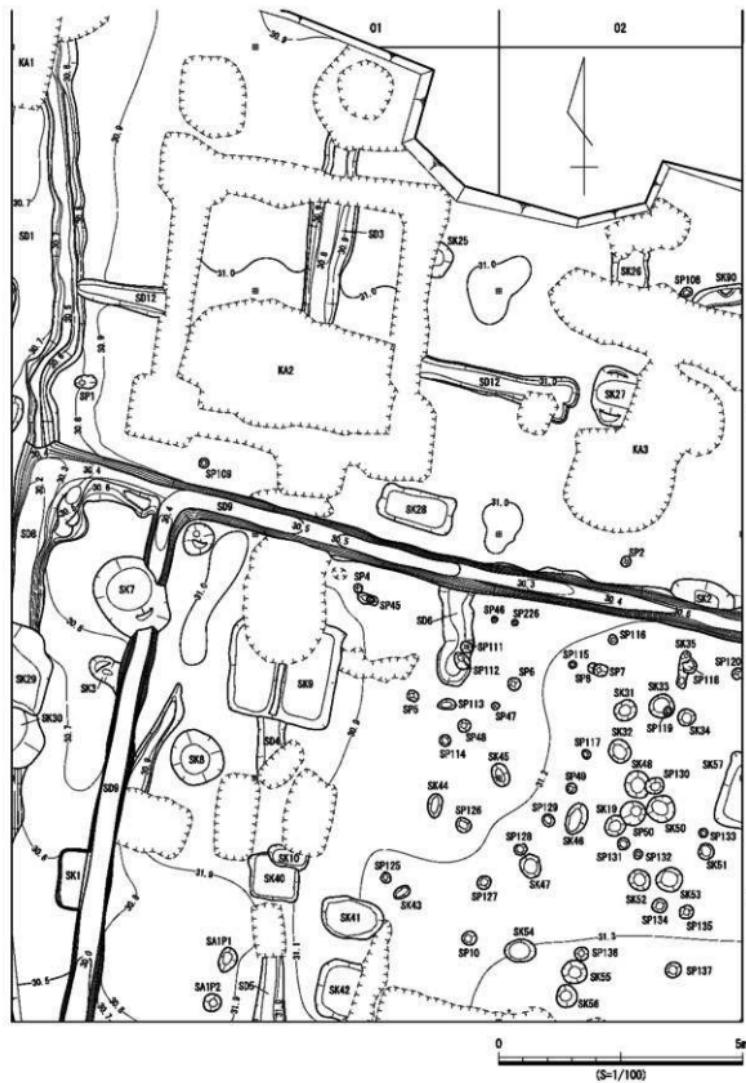


図90 遺構全体図分割図 9

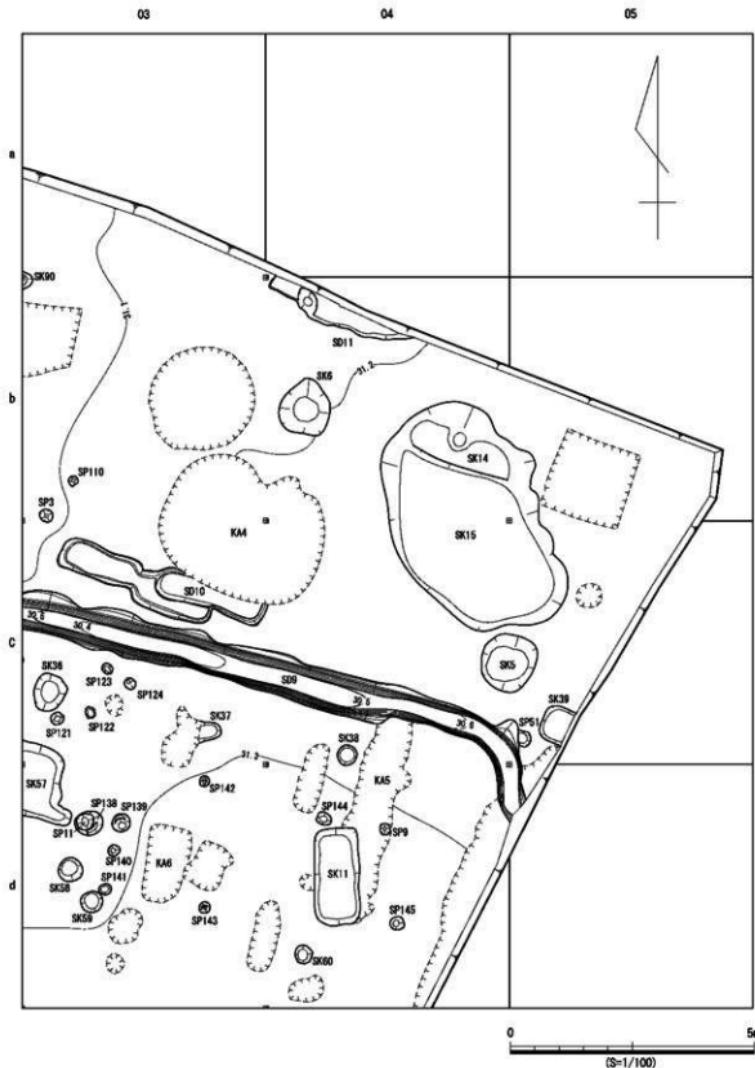


図91 遺構全体図分割図10

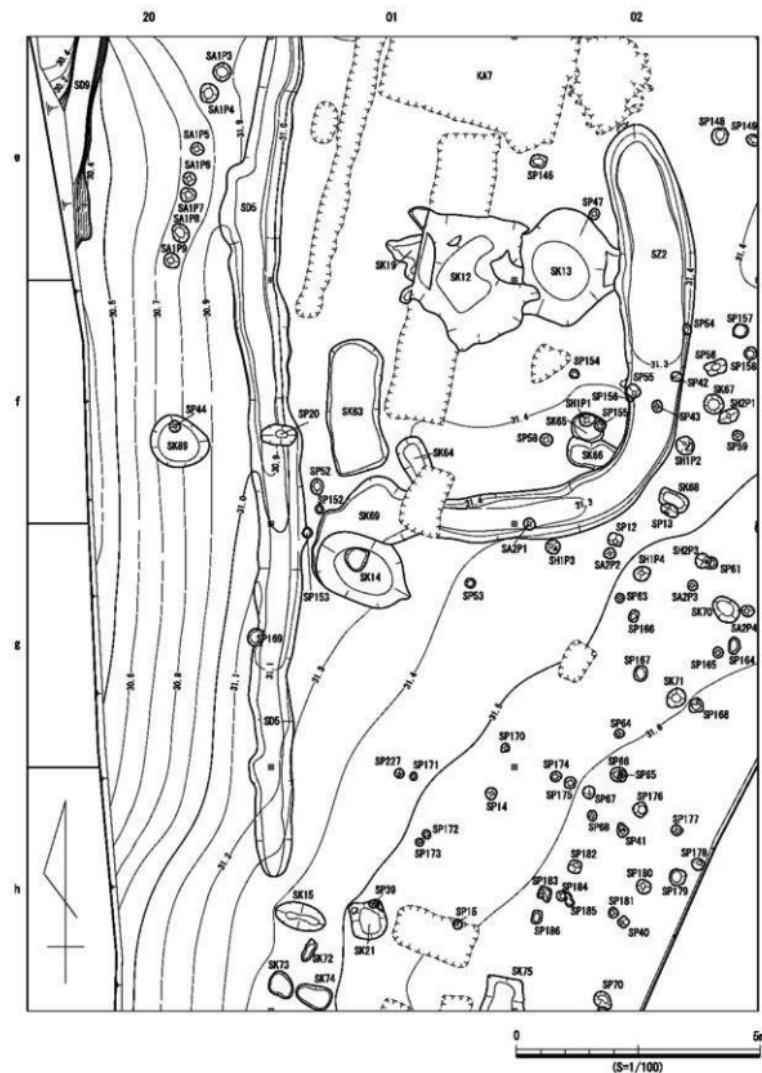


図92 遺構全体図分割図11

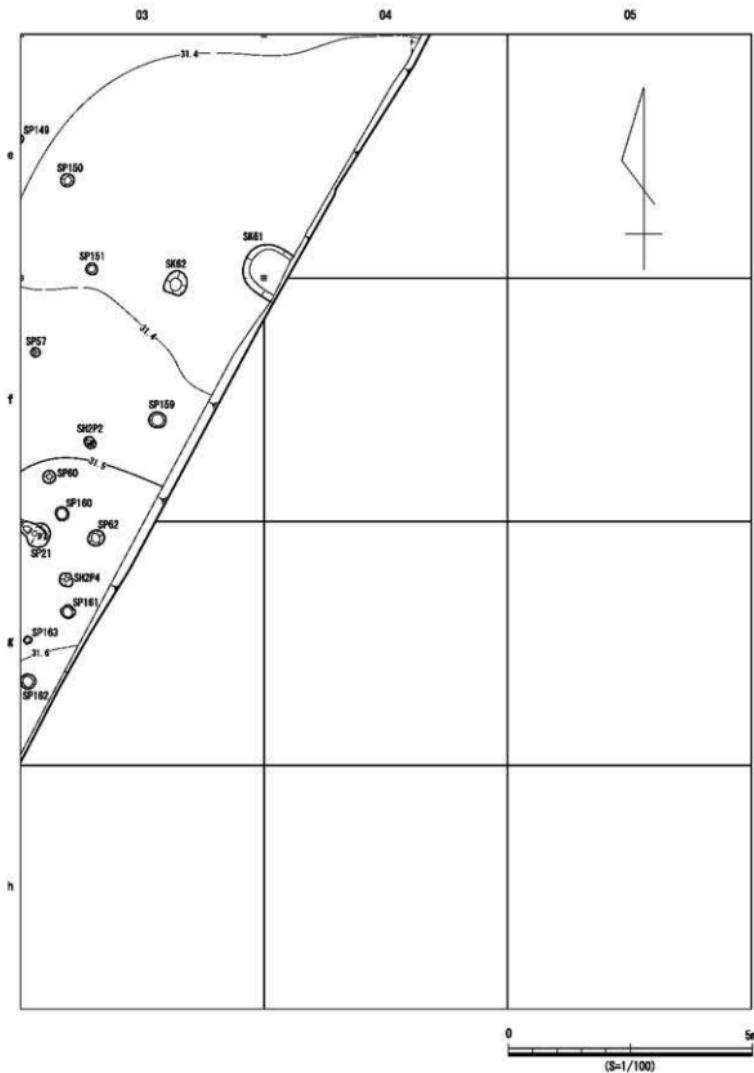


図93 遺構全体図分割図12

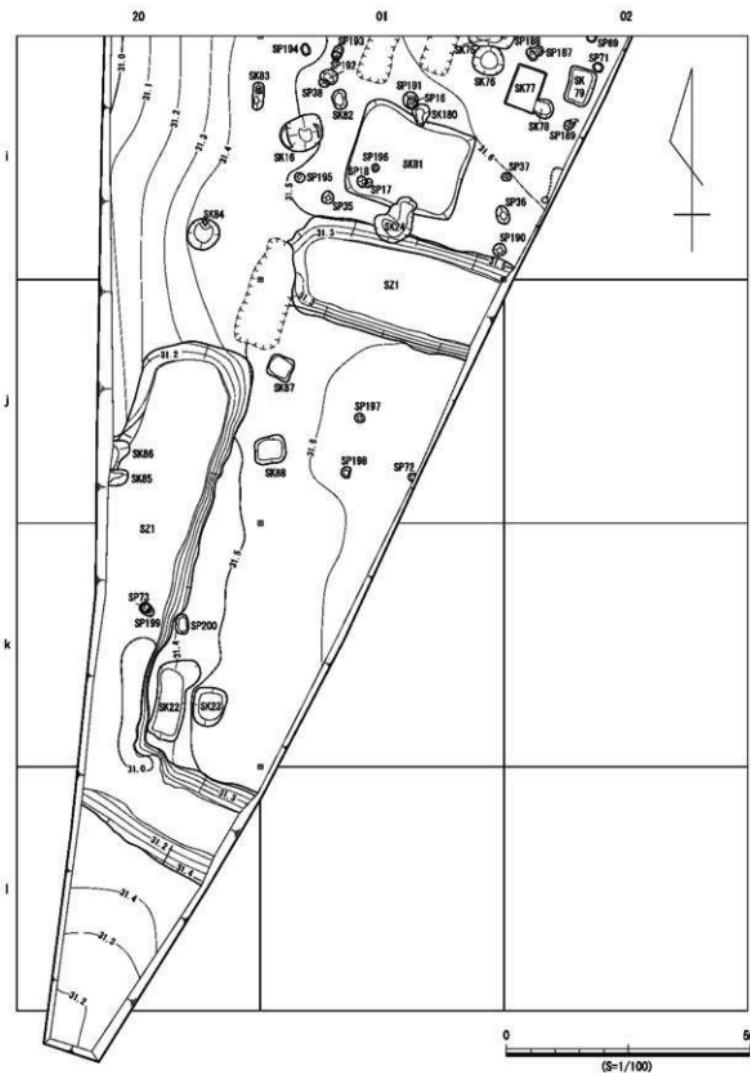


図94 造構全体図分割図13

表7 出土遺物一覧表(1)

遺物名	縄文 土器	弥生 土器	十輪器	須恵器	灰陶 陶器	山茶瓶	中臣 陶器	近畿 陶器	常滑	瓦器	中臣 土器	近畿 土器	近畿以 西の瓦	心形 石製品	金屬 製品	土器 品	合計	
SZ1南櫻		1				1											2	
SZ1北溝	41	1				3		1			2			3			51	
SZ2	15	3				3					1			2			24	
SA1P1~9																	0	
SA2P1																	0	
SA2P2																	0	
SA2P3																	0	
SA2P4																	0	
SA3P1																	0	
SA3P2																	0	
SA3P3																	0	
SA3P4																	0	
SH1P1	1								1								2	
SH1P2																	0	
SH1P3											1						1	
SH1P4																	0	
SH2P1							1	1									2	
SH2P2																	0	
SH2P3																	0	
SH2P4																	0	
SD1		1	3		2												6	
SD2			1		2												3	
SD3																	0	
SD4																	0	
SD5	4			8		5				1	2			1			21	
SD6		1		1		1											3	
SD7																	0	
SD8						2	1										3	
SD9	3	6	2	5	54		9	5		63	2		1		3		153	
SD10				1	3												4	
SD11									1								1	
SD12			2		2												4	
SD13	1		8	1													10	
SD14		1	6	1	2						2						11	
SD15			1		1												2	
SD16					1												1	
SD17		7			3		10	1									21	
SD18	14	6			2												22	
SD19																	0	
SK1																	0	
SK2						1											1	
SK3																	0	
SK4																	0	
SK5	1			5		38	6		5	1	35	2	36	3			132	
SK6						1	2					1					4	
SK7					1						1			1			3	
SK8		2	1	1						1					1		6	
SK9	2		1	1	5						1						10	
SK10						1											0	
SK11				1	3					1							5	
SK12					1												1	
SK13	4	9	1	16	1		1		2			2					36	
SK14	2																2	
SK15					1												1	
SK16																	0	
SK17	6	2	3	3	18	2	271	31	11	7	7	170	2	4	1		536	
SK18			1		5	14		139	20	11	4	5	132	1		3		335
SK19		1															1	
SK20																	0	
SK21								1		2							3	

表8 出土遺物一覧表(2)

遺構名	縦文 十器	弥生 十器	十郎器	板瓦器	灰陶器	山茶輪	中世 陶磁器	近世 陶磁器	滑石	从器	中世 十郎器	近世 十郎器	近世以 降の从 器	心器・ 石製品	金萬 製品	土器 品	合計
SK26			1														1
SK27					1												1
SK36					1												1
SK41					1												1
SK42						1											1
SK57						2											2
SK63						3											3
SK66		1				1											2
SK69			1														1
SK70								1									1
SK81		3									1						4
SK85		3															3
SK86				1	1												2
SK89					1												1
SK90													1				1
SK110			1														1
SK117						1						1					2
SP2						1											1
SP5		1															1
SP19					2						1						3
SP22		1															1
SP23		1															1
SP27		1															1
SP41		2															2
SP60											1						1
SP66													1				1
SP124											1						1
SP216													1				1
遺構小計	1	48	40	28	24	161	8	481	64	23	92	17	339	12	41	11	1390
I層																	1
II層	2	137	68	194	54	504	31	501	178	15	148	52	88	18	11	18	2019
KAI								2				1	1				4
KA2		1						44	11		1		6		1	1	65
KA3		1	2		10	1	36	11	2	1		2	3	2			71
KA4	5		5	6	14		157	32	1	2	7	10	19	6	10		274
KA5	1		1	1	11	1	29	2		10				1	3		60
KA6					1						1	1					3
KA7	17				9		3	2		2	1						34
KA8							4	1				2					7
KA9			1														1
KA10							4	2				10					16
KA11	1		3	1			21	8	2		2	32					70
KA12							10	4	1			12					27
KA13			2				4	9									15
KA14							18	4							1		23
KA15							4										4
KA16	1		6				12	18			4	3					44
KA17							16	3	1		1	7					28
KA18							29	3				2					34
KA19			1				27	10	1			1					40
包含層・複合小計	2	162	71	214	63	548	33	921	298	23	165	69	176	40	22	33	2840
合計	3	267	115	242	87	716	41	1403	362	46	260	86	515	57	63	44	4307

表9 造構観察表(1)

造構名	地区	大区	南北	東西	揚荷	P・SK・SD等	切り合ひ關係		造構(m)					備考
							<切られる	>切る	長軸 上端	長軸 下端	短軸 上端	短軸 下端	深さ 高さ	
SZ1	C6	1	20	○	-	b4 ウ			11.35	11.00	(1.85)	(0.95)	2.40	南周構
SZ1	C6	j	01	○	-	b3 エ			(4.32)	(3.90)	2.81	1.54	0.40	北周構
SZ2	C6	f	01	○	-	a エ	<SK66		(5.60)	(5.42)	0.47	0.31	0.13	
SH1P1	C6	f	02	○	1	a ウ			0.34	0.10	0.25	0.10	0.41	
SH1P2	C6	f	02	○	1	b2 ウ			0.39	0.23	0.37	0.07	0.50	柱当たり痕跡
SH1P3	C6	g	02	○	1	a ウ			0.29	0.17	0.28	0.09	0.39	
SH1P4	C6	g	02	○	1	a ウ			0.36	0.10	0.29	0.09	0.57	
SH2P1	C6	f	02	○	1	c ウ			0.46	0.08	0.26	0.10	0.44	柱底跡
SH2P2	C6	f	03	○	1	b4 カ			0.26	0.12	0.21	0.06	0.50	柱当たり痕跡
SH2P3	C6	g	02	○	1	a エ			0.30	0.06	0.27	0.06	0.40	柱当たり痕跡
SH2P4	C6	g	03	○	1	a ウ			0.30	0.09	0.28	0.09	0.38	
SA1P1	C5	d	20	○	1	a ア			0.52	0.25			0.11	
SA1P2	C5	d	20	○	1	a エ			0.35				0.15	
SA1P3	C5	e	20	○	1	a エ			0.37				0.18	
SA1P4	C5	e	20	○	1	a エ			0.38				0.12	
SA1P5	C5	c	20	○	1	a ア			0.26				0.11	
SA1P6	C5	e	20	○	1	a ア			0.26				0.08	
SA1P7	C5	e	20	○	1	a エ			0.32				0.09	
SA1P8	C5	c	20	○	1	a ア			0.41				0.09	
SA1P9	C5	e	20	○	1	a ア			0.31				0.12	
SA2P1	C6	f,g	02	○	1	a ウ	>SP55		0.24	0.08	0.22	0.07	0.31	柱当たり痕跡
SA2P2	C6	g	02	○	1	a ウ			0.24	0.07	0.22	0.06	0.41	
SA2P3	C6	g	02	○	1	a エ			0.20	0.08	0.19	0.07	0.30	
SA2P4	C6	g	02	○	1	a エ			0.25	0.09	0.23	0.11	0.41	
SA3P1	B6	m	04	○	1	c エ			0.35	0.15	0.34	0.19	0.74	
SA3P2	B6	m	04	○	1	a エ			0.37	0.14	0.34	0.10	0.67	
SA3P3	B6	m	05	○	1	a エ			0.33	0.20	0.31	0.15	0.36	柱当たり痕跡
SA3P4	B6	n	05	○	1	c 力			0.50	0.30	0.41	0.18	0.41	
SD1	C5	a,b	19,20	○	-	a エ	<SD8, SD12 (KA1)		(21.88)	(21.88)	1.04	0.86	0.21	
SD2	B5	t	19	○	-	b3 エ			(1.49)	(1.49)	1.01	0.77	0.14	
SD3	C6	a,b	01	○	-	a エ	>SD12 (SK9)		(3.60)	(3.60)	0.63	0.34	0.24	
SD4	C6	c	01	○	-	a ア			(1.11)	(1.11)	0.53	0.32	0.07	
SD5	C5C6	e-h	20,01	○	1	a ア	<SP169 (SD9)		(18.46)	(18.46)	0.74	0.38	0.21	
SD6	C6	c	01	○	-	a ウ			(1.97)	(1.74)	0.57	0.37	0.09	
SD7	C5	c,d	20	○	-	a ア			(2.33)	(2.07)	0.35	0.14	0.08	
SD8	C5	b-d	19,20	○	1	a ク	<SD9, SK30,31 (SD1)		(4.07)	(4.07)	(0.35)	(0.18)	(0.10)	
SD9	C6	c	01	○	-	b2 イ			(SK1, SK2, SK3, SK18, SD6, SD8)	(36.20)	(36.20)	0.60	0.30	0.78
SD10	C6	c	03	○	1	a キ	<KA4 (SD1)		4.36	4.11	(0.60)	(0.28)	0.29	
SD11	C6	b	04	○	-	a エ			3.03	2.78	0.32	0.29	0.09	
SD12	C6	b	01	○	-	a エ	<SD15 (SD13)		(5.25)	(5.16)	(0.21)	(0.09)	(0.10)	
SD13	B6	e-j	01-04	○	-	a ウ			(28.50)	(28.50)	1.04	0.57	0.22	
SD14	B6	e-l	01-04	○	-	b1 エ			23.00	23.00	0.50	0.23	0.16	
SD15	B6	j,k	01	○	-	b4 ウ	>SD13 (KA16)		(11.04)	(10.73)	1.08	0.31	0.48	
SD16	B6	l	01	○	-	b2 ウ			(1.81)	(1.81)	0.55	0.11	0.22	
SD17	B6	k-n	03-05	○	-	b2 ウ			(18.69)	(18.69)	0.53	0.31	0.21	
SD18	B5-B6	j,k	20,01	○	-	b2 ウ			4.13	3.82	0.84	0.59	0.30	
SD19	B5-B6	j,j	20,01	○	-	b2 ウ			6.32	6.08	5.59	5.09	0.15	
SK1	C5	d	20	○	2	a エ	<SD9 (SD9)		1.27	1.17	(0.51)	(0.44)	0.29	
SK2	C6	c	02	○	2	a ウ			(1.33)	(0.50)	(0.53)	(0.30)	(0.24)	
SK3	C5	c	20	○	-	a ウ	>SK22 (SD9)		(0.64)	0.21	0.51	0.11	0.20	
SK4	C5	a	19	○	1	a エ			1.19	0.86	0.50	0.18	0.49	
SK5	C6	c	05	○	1	b3 エ			1.18	0.70	1.10	0.82	0.94	
SK6	C6	b	04	○	1	a エ			1.14	0.52	1.05	0.53	0.21	
SK7	C5	c	20	○	1	b1 エ			1.77	1.10	1.37	0.93	1.06	
SK8	C5	c	20	○	1	a ウ			1.14	0.59	1.06	0.59	0.28	
SK9	C5,C6	c	20,01	○	2	a キ	>SD4 (SK40)		2.25	1.95	(2.16)	(1.80)	0.35	
SK10	C6	d	01	○	4	a エ			0.84	0.68	0.48	0.29	0.20	
SK11	C6	d	04	○	2	a エ			2.00	1.72	0.89	0.65	0.28	
SK12	C6	f	01	○	4	d キ			2.77	1.62	2.03	0.40	0.65	
SK13	C6	c,f	01,02	○	3	b1 エ			(5.35)	(4.36)	2.41	1.17	0.43	
SK14	C6	g	01	○	1	b1 エ			2.23	1.28	1.48	0.85	1.06	
SK15	C6	h	01	○	1	a エ			1.05	0.71	0.54	0.08	0.31	
SK16	C6	i	01	○	1	b3 ウ			0.89	0.51	0.70	0.23	0.28	
SK17	C6	b,c	04	○	3	b1 エ			3.36	1.84	2.62	1.53	0.81	
SK18	C6	c	04,05	○	4	d エ	<SD9		2.39	2.30	1.42	1.25	0.40	
SK19	B6	l	02,03	○	2	b2 エ			2.07	1.47	0.92	0.52	0.31	

表10 造構観察表(2)

造構名	地区			Y・SK・SD等 馬板 平凸 地盤 断面	切り合ひ関係		造構(m)					備考	
	大区	南北	東西		<切られる	>切る	長軸 上端	長軸 下端	短軸 上端	短軸 下端	深さ 高さ		
SK20	B6	i	01	○ 3 b3 キ			2.82	2.10	0.76	0.45	0.30		
SK21	C6	h	01	2 a キ			0.81	0.54	0.73	0.41	0.25		
SK22	C5	k	20	3 b1 イ			1.72	1.15	0.65	0.50	0.39		
SK23	C5	k	20	1 a エ			0.80	0.55	0.65	0.48	0.22		
SK24	C6	j	01	1 a ウ			1.01	0.68	0.52	0.21	0.19		
SK25	C6	a, b	01	3 a エ			(0.74)	(0.32)	(0.35)	(0.17)	(0.13)		
SK26	C6	a	02	1 a エ			(0.75)	(0.75)	(0.73)	(0.54)	(0.19)		
SK27	C6	b	02	1 a カ			1.14	0.51	(0.83)	(0.75)	0.19		
SK28	C6	b	01	2 a エ			1.59	1.25	0.61	0.52	0.17		
SK29	C5	c	19, 20	- - -	>SD6, SD1	(3.24) (2.87)	1.18	5.04	-	-	-		
SK30	C5	c	19, 20	- - -	>SD6	(1.25) (1.25)	1.38	0.80	-	-	-		
SK31	C6	c	02	1 a プ			0.46	0.25	0.40	0.22	0.12		
SK32	C6	c	02	1 a エ			0.48	0.32	0.43	0.25	0.06		
SK33	C6	c	02	1 a プ			0.52	0.33	0.49	0.29	0.08		
SK34	C6	c	02	1 a プ			0.37	0.19	0.34	0.21	0.06		
SK35	C6	c	02	3 a ク	<SP118		0.78	0.64	0.19	0.11	0.06		
SK36	C6	c	03	1 a ウ			0.77	0.44	0.65	0.35	0.15		
SK37	C6	c	03	- a エ			(0.45)	(0.37)	0.35	0.24	0.04		
SK38	C6	e	04	1 a エ			0.42	0.29	0.40	0.30	0.05		
SK39	C6	c	05	1 a エ			0.65	0.58	(0.56)	(0.50)	0.14		
SK40	C6	d	01	2 a プ	<SK10		1.01	0.84	0.94	0.84	0.12		
SK41	C6	d	01	1 a エ			1.28	1.07	0.81	0.71	0.07		
SK42	C6	d	01	2 a イ			(0.81)	(0.67)	1.20	0.98	0.15		
SK43	C6	d	01	1 a エ			0.36	0.28	0.23	0.11	0.04		
SK44	C6	d	01	1 a エ			0.49	0.35	0.30	0.14	0.10		
SK45	C6	d	02	1 a エ			0.48	0.30	0.34	0.15	0.07		
SK46	C6	d	02	1 a ウ			0.66	0.48	0.42	0.23	0.20		
SK47	C6	d	02	1 a プ			0.52	0.31	0.45	0.28	0.05		
SK48	C6	e, d	02	1 a プ	<SP130		0.56	0.31	0.51	0.30	0.12		
SK49	C6	d	02	1 a プ			0.45	0.36	0.41	0.32	0.10		
SK50	C6	d	02	1 a プ			0.57	0.35	0.55	0.23	0.11		
SK51	C6	d	02	1 a エ			0.34	0.25	0.33	0.19	0.04		
SK52	C6	d	02	1 a プ			0.46	0.25	0.44	0.23	0.08		
SK53	C6	d	02	1 a プ			0.55	0.34	0.50	0.34	0.06		
SK54	C6	d	02	1 a プ			0.64	0.42	0.47	0.31	0.07		
SK55	C6	d	02	1 a プ			0.53	0.27	0.49	0.14	0.09		
SK56	C6	d	02	1 a エ			0.46	0.21	0.43	0.23	0.16		
SK57	C6	e, d	02	2 a プ	>SP50		1.42	1.19	1.21	0.92	0.17		
SK58	C6	d	03	1 a エ			0.50	0.34	0.49	0.31	0.10		
SK59	C6	d	03	1 a エ			0.45	0.31	0.43	0.28	0.06		
SK60	C6	d	04	1 a プ			0.39	0.24	0.38	0.20	0.08		
SK61	C6	e, f	03, 04	1 a エ			(1.06)	(0.81)	(0.86)	(0.72)	(0.19)		
SK62	C6	e, f	03	1 a ウ			(0.48)	0.26	0.45	0.23	0.05		
SK63	C6	f	01	2 a プ			2.76	2.61	1.08	0.90	0.06		
SK64	C6	f, g	01	2 a プ			(0.74)	(0.58)	0.59	0.31	0.08		
SK65	C6	f	02	1 a エ			>SK66	0.57	0.53	0.55	0.53	0.04	
SK66	C6	f	02	3 a ウ	<SK65		>S22	1.22	1.01	(0.53)	0.32	0.06	
SK67	C6	f	02	1 a エ				0.41	0.21	0.40	0.23	0.05	
SK68	C6	f	02	1 a ウ			>SP13	0.58	0.40	0.39	0.20	0.06	
SK69	C6	f, g	01	3 a キ	<SK14			(1.74)	(1.66)	1.47	1.12	0.11	
SK70	C6	g	02	1 a ウ				0.55	0.38	0.46	0.30	0.11	
SK71	C6	g	02	1 a ウ				0.44	0.17	0.35	0.18	0.10	
SK72	C6	h	01	2 a キ				0.46	0.36	0.20	0.11	0.07	
SK73	C6	h	01	2 a キ				0.52	0.44	0.48	0.36	0.09	
SK74	C6	h	01	1 a エ				0.75	0.67	0.45	0.32	0.03	
SK75	C6	h	01	2 a エ	<SK76			0.91	0.70	0.80	0.39	0.14	
SK76	C6	i	01	1 a エ			>SK75	0.65	0.35	0.63	0.36	0.15	
SK77	C6	i	02	2 a エ			>SK78	0.88	0.84	0.63	0.57	0.08	
SK78	C6	i	02	1 a ウ	<SK77			(0.43)	(0.31)	0.40	0.28	0.04	
SK79	C6	i	02	1 a ウ				0.86	0.65	0.53	0.38	0.06	
SK80	C6	i	01	1 a ウ				0.45	0.31	0.35	0.16	0.14	
SK81	C6	i	01	2 a ウ	>SK24, SK80			2.32	2.20	1.91	1.68	0.12	
SK82	C6	i	01	1 a エ				0.40	0.25	0.28	0.18	0.04	
SK83	C5	i	20	2 a キ				0.56	0.37	0.21	0.11	0.12	
SK84	C5	i	20	1 a キ				0.66	0.36	0.54	0.45	0.11	
SK85	C5	j	20	1 a ウ			>SK86	(0.38)	(0.27)	0.30	0.20	0.13	
SK86	C5	j	20	1 a エ	<SK85			0.93	0.52	0.15	0.07	0.09	
SK87	C6	j	01	2 a エ				0.50	0.43	0.45	0.38	0.04	

表11 造構観察表(3)

造構名	地区			P・SK・SD号		切り合ひ倒体		規模(m)					備考		
	大区	南北	東西	場所	平西	準幅	斯面	<切られる	>切る	長軸 上端	長軸 下端	短軸 上端	短軸 下端	深さ 高さ	
SK88 C6 j 01		2	a	エ						0.63	0.60	0.56	0.40	0.08	
SK89 C6 f 20		1	a	エ						1.21	0.84	1.01	0.76	0.15	
SK90 C6 a, b 02, 03		1	a	キ						(1.15)	(1.05)	0.39	0.25	0.07	
SK90 B6 d 02		3	b4	エ						(0.71)	(0.60)	(0.30)	(0.20)	0.06	
SK91 B6 e 02		1	a	ウ						0.79	0.53	0.72	0.49	0.09	
SK92 B6 e 02		1	a	ウ						0.91	0.57	0.82	0.54	0.08	
SK93 B6 e 03		1	b1	エ						0.57	0.42	0.52	0.40	0.11	
SK94 B6 f 02		1	a	エ						0.87	0.69	0.86	0.64	0.07	
SK95 B6 f 02		1	a	エ						0.60	0.39	0.51	0.37	0.06	
SK96 B6 g 20		1	a	エ						0.74	0.60	0.28	0.13	0.10	
SK97 B6 g 03		1	a	エ						0.63	0.53	0.61	0.46	0.05	
SK98 B5 h 20	3	b2	ウ	<SP79		>SK99		1.47	1.06	(0.95)	(0.73)	0.19			
SK99 B6 h 20	4	b1	エ	<SK98		1.67	1.44	(0.81)	(0.51)	0.09					
SK100 B5, B6 h, i 20, 01	1	a	カ					0.68	0.50	0.41	0.23	0.14			
SK101 B6 h 01		1	b2	カ				0.77	0.58	0.45	0.28	0.15			
SK102 B6 h 01		2	b4	キ				0.46	0.35	0.45	0.37	0.07			
SK103 B6 h 04, 05		2	a	ウ				2.08	1.82	0.61	0.55	0.06			
SK104 B6 i 01		3	b2	カ				1.08	1.02	0.85	0.70	0.08			
SK106 B6 l 01		1	b4	エ				0.37	0.29	0.34	0.29	0.11			
SK106 B6 j 01		3	b1	ウ				>SK108, SK107	0.62	0.29	0.49	0.15	0.15		
SK107 B6 j 01		3	b1	ウ	<SK106		0.54	0.34	(0.33)	(0.21)	0.14				
SK108 B6 j 01		2	a	カ	<SK106		1.02	0.84	0.45	0.23	0.12				
SK109 B6 j 01		2	c	カ				0.36	0.26	0.28	0.21	0.12			
SK110 B6 j, k 02		3	a	ウ	<KA016		(3.62)	(3.48)	2.68	2.36	0.08				
SK111 B6 j 05		1	a	ウ				0.55	0.25	0.49	0.26	0.11			
SK112 B6 k 20		1	a	エ				1.13	0.93	0.57	0.42	0.14			
SK113 B6 k 20		1	a	エ				>SK114	0.90	0.73	0.86	0.69	0.11		
SK114 B6 k 20		1	a	ウ	<SK113		1.03	0.58	(0.56)	(0.57)	0.09				
SK115 B5, B6 K 20, 01	2	b4	エ					0.93	0.76	0.51	0.36	0.16			
SK116 B6 k 01		3	a	キ				0.41	0.38	0.18	0.13	0.07			
SK117 B6 k 04		1	a	ウ				2.60	2.27	0.64	0.39	0.13			
SK118 B6 l 02		1	a	エ				0.76	0.40	0.64	0.40	0.18			
SK119 B6 l 02		1	b2	エ				0.37	0.31	0.29	0.19	0.05			
SK120 B6 n 05		3	a	キ				0.67	0.67	0.31	0.20	0.05			
SK121 B6 m 05		1	b2	エ				0.70	0.37	0.44	0.27	0.12			
SK122 C6 a 19		2	b3	エ	<SK4		2.10	1.89	0.81	0.57	0.19				
SP1 C6 b 20	○	1	a	ウ				0.45	0.12	0.24	0.09	0.40			
SP2 C6 c 02	○	1	a	ウ				0.21	0.06	0.28	0.07	0.39	柱当たり痕跡		
SP3 C6 b 03	○	1	a	ア				0.27	0.08	0.25	0.07	0.34	柱当たり痕跡		
SP4 C6 c 01	○	1	a	ウ				0.18	0.03	0.16	0.03	0.33	柱当たり痕跡		
SP5 C6 c 01	○	1	a	ウ				0.25	0.09	0.21	0.09	0.45			
SP6 C6 c 02	○	1	a	ウ				0.26	0.11	0.25	0.10	0.36			
SP7 C6 c 02	○	1	a	ウ				0.31	0.09	0.24	0.10	0.48			
SP8 C6 c 02	○	2	a	ウ	<SP7		(0.21)	(0.14)	(0.13)	(0.03)	(0.36)				
SP9 C6 d 04	○	1	a	ア				0.24	(0.10)	0.21	0.05	0.49			
SP10 C6 d 01	○	1	a	エ				0.30	0.16	0.28	0.14	0.27			
SP11 C6 d 03	○	1	a	イ				0.37	0.17	0.34	0.14	0.22			
SP12 C6 g 02	○	1	a	エ				0.28	0.11	0.24	0.09	0.32			
SP13 C6 l 02	○	1	a	カ	<SK68		0.38	0.07	0.24	0.20	0.44				
SP14 C6 h 01	○	1	a	エ				0.25	0.06	0.23	0.09	0.50			
SP15 C6 h 01	○	1	a	ア				0.20	0.07	0.19	0.07	0.64			
SP16 C6 l 01	○	1	a	ア				0.24	0.07	0.19	0.07	0.52			
SP17 C6 l 01	○	1	a	エ				0.18	0.04	0.15	0.03	0.36			
SP18 C6 i 01	○	1	a	エ	<SP17		0.20	0.09	0.28	0.19	0.24				
SP19 C6 b, s 20	○	1	a	エ				0.64	0.37	0.62	0.17	0.79			
SP20 C6 l 01	○	1	a	ウ				0.74	0.24	0.42	0.14	0.50	純当たり痕跡		
SP21 C6 g 03	○	1	a	ウ				0.52	0.27	0.46	0.27	0.54	柱当たり痕跡		
SP22 B6 r 04	○	1	c	カ				0.60	0.40	0.54	0.36	0.41			
SP23 B6 h 02	○	1	c	ウ				0.35	0.13	0.34	0.13	0.40			
SP24 B5, B6 h 20, 01	○	1	c	カ				0.42	0.24	0.41	0.28	0.37			
SP25 B6 l 02	○	1	a	ウ				0.28	0.10	0.27	0.10	0.34			
SP26 B6 m 04	○	1	a	ウ				0.29	0.19	0.28	0.18	0.22			
SP27 B6 m 04	○	3	b4	カ				0.42	0.26	0.29	0.15	0.20			
SP28 B6 k 05	○	1	a	エ				0.31	0.19	0.27	0.16	0.38			
SP29 B6 l 05	○	1	a	カ				0.41	0.24	0.39	0.26	0.48			
SP30 B6 n 04	○	1	b2	エ				0.38	0.20	0.30	0.15	0.41			
SP31 B6 n 04		1	a	ウ				0.32	0.10	0.28	0.06	0.32			
SP32 B6 m 05		1	a	カ				0.46	0.40	0.30	0.17	0.32			

表12 遺構観察表(4)

遺構名	地区			掲載	P・SK・SD等	切り合い関係		規模(m)					備考		
	大区	南北	東西			平面	堆積	断面	<切られる	>切る	長軸 上端	長軸 下端	短軸 上端	短軸 下端	
SP33	B6	n	03			1	b1	力			0.40	0.25	0.36	0.24	0.29
SP34	B6	c	02			1	b1	エ			0.59	0.21	0.43	0.18	0.29
SP35	C6	i	01			1	a	エ			0.26	0.09	0.24	0.09	0.31
SP36	C6	i	01			1	c	エ			0.39	0.21	0.25	0.12	0.26
SP37	C6	i	02			1	a	ウ			0.20	0.07	0.15	0.07	0.28
SP38	C6	i	01			1	a	ウ	>SP38		0.21	0.07	0.19	0.05	0.24
SP39	C6	h	01			1	a	エ			0.21	0.07	0.20	0.07	0.28
SP40	C6	h	02			2	a	ウ			0.21	0.08	0.29	0.05	0.29
SP41	C6	h	02			1	b1	ウ			0.32	0.18	0.12	0.07	0.28
SP42	C6	f	02			1	a	ウ			0.34	0.10	0.20	0.07	0.27
SP43	C6	f	02			1	a	ウ			0.24	0.10	0.20	0.08	0.27
SP44	C5	f	20			1	a	ア			0.23	0.09	0.21	0.07	0.25
SP45	C6	c	01			3	a	エ			0.44	0.29	0.20	0.12	0.29
SP46	C6	c	01			1	a	ウ			0.14	0.04	0.12	0.04	0.20
SP47	C6	c	02			1	a	ワ			0.15	0.03	0.15	0.03	0.22
SP48	C6	c	01			1	a	ウ			0.26	0.10	0.25	0.11	0.24
SP49	C6	d	02			1	a	エ			0.21	0.12	0.21	0.09	0.23
SP50	C6	d	02			1	a	ア	<SK49		0.52	0.22	0.50	0.21	0.22
SP51	C6	c	05			2	a	ウ			0.38	0.23	0.30	0.20	0.20
SP52	C6	f	01			1	a	ア			0.34	0.18	0.25	0.14	0.17
SP53	C6	g	01			1	c	ウ			0.21	0.11	0.19	0.13	0.23
SP54	C6	f	02			1	a	ウ	>SZ2		0.22	0.05	0.18	0.04	0.18
SP55	C6	f	02			1	a	ウ	<SP156		0.29	0.07	0.28	0.08	0.23
SP56	C6	f	02			2	a	ウ	>SK13		0.38	0.20	0.25	0.12	0.17
SP57	C6	f	03			1	a	ウ			0.19	0.06	0.18	0.08	0.22
SP58	C6	f	02			1	a	エ			0.26	0.13	0.24	0.09	0.19
SP59	C6	f	02			1	a	ウ			0.22	0.09	0.20	0.07	0.25
SP60	C6	f	03			1	b3	ア	>SP156		0.26	0.11	0.25	0.11	0.19
SP61	C6	g	02			1	a	ク	>SP156		(0.26)	(0.15)	0.24	0.10	(0.27)
SP62	C6	g	03			1	a	エ			0.35	0.17	0.31	0.21	0.21
SP63	C6	g	02			1	b2	ウ			0.19	0.08	0.18	0.07	0.17
SP64	C6	g	02			1	a	エ			0.20	0.07	0.18	0.07	0.24
SP65	C6	h	02			1	a	キ	>SP65		0.32	0.10	0.18	0.09	0.17
SP66	C6	h	02			1	a	カ	>SP65		0.33	0.23	0.30	0.20	0.16
SP67	C6	h	02			1	a	エ			0.25	0.06	0.23	0.05	0.23
SP68	C6	h	02			1	b3	エ			0.21	0.08	0.18	0.08	0.20
SP69	C6	i	02			1	a	エ	>SP70		0.22	0.17	0.20	0.14	0.20
SP70	C6	h	02			3	b1	ウ	<SP69		0.41	0.20	(0.32)	0.10	0.19
SP71	C6	i	02			1	a	エ			0.21	0.14	0.19	0.14	0.21
SP72	C6	j	01			1	c	ウ			0.18	0.10	(0.17)	(0.09)	0.19
SP73	C5	k	20			1	a	ウ			0.19	0.14	0.15	0.09	0.48
SP74	B6	f	01			1	c	カ			0.27	0.19	0.27	0.15	0.20
SP75	B6	f	01			1	c	エ			0.24	0.11	0.22	0.11	0.16
SP76	B6	h	01			1	a	ウ			0.21	0.09	0.19	0.08	0.30
SP77	B5	h	20			1	a	ウ			0.20	0.07	0.15	0.06	0.20
SP78	B5	h	20			1	b2	エ			0.38	0.25	0.31	0.21	0.21
SP79	B5	i	20			1	c	エ	>SK98		0.24	0.19	0.22	0.19	0.24
SP80	B6	i	01			1	c	カ	>SP81		0.40	0.29	0.29	0.24	0.30
SP81	B6	i	01			1	c	カ	>SP80		(0.46)	(0.39)	0.39	0.22	0.20
SP82	B6	l	01			1	e	ウ			0.22	0.06	0.21	0.06	0.21
SP83	B6	i	01			1	c	ウ			0.18	0.07	0.15	0.07	0.16
SP84	B6	i	01			1	c	エ			0.22	0.12	0.21	0.11	0.17
SP85	B6	j	01			1	c	エ			0.26	0.17	0.23	0.14	0.18
SP86	B6	j	01			1	c	ウ			0.30	0.21	0.27	0.19	0.31
SP87	B6	j	01			1	a	エ			0.29	0.21	0.19	0.09	0.25
SP88	B5	j	20			1	c	エ			0.26	0.16	0.23	0.12	0.15
SP89	B5	j	20			1	c	ウ			0.21	0.14	0.20	0.13	0.28
SP90	B6	j	01			1	a	エ			0.30	0.22	0.25	0.18	0.24
SP91	B6	j	20			1	c	イ			0.28	0.20	0.24	0.20	0.26
SP92	B6	j	20			1	c	イ			0.25	0.19	0.23	0.17	0.17
SP93	B5	j	20			1	c	エ			0.23	0.08	0.21	0.06	0.21
SP94	B5	j	20			1	b2	カ			0.34	0.27	0.29	0.06	0.16
SP95	B5	j	19			1	c	ウ			0.24	0.11	0.23	0.11	0.17
SP96	B5	j	20			1	b3	イ			0.26	0.21	0.24	0.19	0.16
SP97	B6	j	02			1	a	ウ			0.28	0.07	0.22	0.07	0.18
SP98	B6	k	02			1	a	エ			0.23	0.11	0.21	0.11	0.21
SP99	B6	l	02			1	a	エ			0.34	0.12	0.27	0.12	0.26
SP100	B6	l	03			1	b1	ウ			0.29	0.21	0.27	0.16	0.21

表13 造構観察表(5)

造構名	地区			撮影 機種	P + SK + SD等 平面 准積 所面	切り合ひ関係		規模 (m)					備考
	大区	南北	東西			<切られる	>切る	長軸 上端	長軸 下端	短軸 上端	短軸 下端	深さ 高さ	
SP101	B6	1	01		1 c エ			0.38	0.16	0.33	0.22	0.21	
SP102	B6	1	01		1 n エ			0.29	0.16	0.25	0.16	0.18	
SP103	B6	1	02		1 a エ			0.30	0.21	0.27	0.17	0.16	
SP104	B6	1	02		1 b2 イ			0.28	0.17	0.27	0.23	0.25	
SP105	B6	1	04		1 n ウ			0.31	0.13	0.23	0.14	0.26	
SP106	B5	t	19		1 a エ			0.37	0.22	0.30	0.22	0.12	
SP107	B5	t	19		1 a エ			0.24	0.13	0.23	0.12	0.08	
SP108	C6	ab	02		1 a ウ			0.26	0.19	0.19	0.09	0.14	
SP109	C5	b	20		1 a ア			0.20	0.11	0.19	0.09	0.16	
SP110	C6	b	03		3 a ア			0.23	0.07	0.18	0.06	0.13	
SP111	C6	c	01		1 n ア			0.26	0.08	0.24	0.07	0.04	
SP112	C6	c	01		1 a ア			0.39	0.29	0.16	0.11	0.07	
SP113	C6	c	01		1 a ウ			0.38	0.22	0.21	0.12	0.10	
SP114	C6	c	01		1 n エ			0.24	0.16	0.23	0.11	0.06	
SP115	C6	c	02		1 a ワ			0.16	0.08	0.14	0.08	0.07	
SP116	C6	c	02		1 s ウ			0.21	0.07	0.18	0.08	0.13	
SP117	C6	c	02		1 s エ			0.25	0.19	0.17	0.08	0.13	
SP118	C6	c	02		1 a エ		>SK35	0.32	0.22	0.31	0.23	0.09	
SP119	C6	c	02		1 a ア			0.20	0.10	0.16	0.08	0.10	
SP120	C6	c	02		1 a ア			0.25	0.08	0.23	0.07	0.08	
SP121	C6	c	03		1 a ア			0.29	0.14	0.25	0.10	0.11	
SP122	C6	c	03		1 s エ			0.25	0.17	0.21	0.12	0.07	
SP123	C6	c	03		1 s ウ			0.25	0.20	0.20	0.08	0.11	
SP124	C6	c	03		1 a エ			0.29	0.08	0.21	0.07	0.06	
SP125	C6	d	01		1 a ア			0.22	0.13	0.20	0.08	0.13	
SP126	C6	d	01		1 n エ			0.32	0.19	0.30	0.15	0.13	
SP127	C6	d	01		1 a ア			0.30	0.15	0.28	0.14	0.08	
SP128	C6	d	02		1 s ア			0.27	0.13	0.24	0.16	0.04	
SP129	C6	d	02		1 a ア			0.27	0.18	0.24	0.16	0.06	
SP130	C6	d	02		1 a ア		>SK48	0.38	0.20	0.34	0.16	0.11	
SP131	C6	d	02		1 s ア			0.26	0.17	0.24	0.14	0.06	
SP132	C6	d	02		1 n ウ			0.21	0.09	0.28	0.08	0.09	
SP133	C6	d	02		1 s イ			0.18	0.12	0.18	0.09	0.14	
SP134	C6	d	02		1 s ア			0.32	0.17	0.30	0.15	0.05	
SP135	C6	d	02	2	2 a ア			0.30	0.13	0.26	0.11	0.07	
SP136	C6	d	02	1	a ア			0.29	0.13	0.28	0.12	0.04	
SP137	C6	d	02	1	a ア			0.34	0.18	0.30	0.16	0.05	
SP138	C6	d	03	1	s キ			0.58	0.15	0.50	0.13	0.10	
SP139	C6	d	03	1	s ウ			0.38	0.15	0.37	0.14	0.09	
SP140	C6	d	03	1	a ア			0.25	0.10	0.22	0.09	0.08	
SP141	C6	d	03	1	n エ			0.27	0.21	0.23	0.12	0.09	
SP142	C6	d	03	1	a ワ			0.23	0.06	0.20	0.04	0.06	
SP143	C6	d	03	1	s キ			0.24	0.05	0.22	0.04	0.09	
SP144	C6	d	04	1	s エ			0.31	0.16	0.26	0.12	0.13	
SP145	C6	d	04	1	a エ			0.28	0.13	0.27	0.12	0.13	
SP146	C6	e	02	2	s ウ			0.32	0.21	0.25	0.14	0.09	
SP147	C6	c	02	1	a ワ			0.23	0.10	0.20	0.09	0.15	
SP148	C6	e	02	1	a ワ			0.37	0.21	0.34	0.17	0.13	
SP149	C6	e	02	1	s ウ			0.31	0.16	0.22	0.11	0.08	
SP150	C6	c	03	1	s ウ			0.28	0.14	0.26	0.18	0.14	
SP151	C6	e	03	1	a エ			0.25	0.13	0.23	0.17	0.08	
SP152	C6	f	01	1	a ア			0.19	0.12	0.16	0.08	0.08	
SP153	C6	g	01	1	a ア			0.23	0.15	0.20	0.13	0.08	
SP154	C6	f	02	1	n エ			0.20	0.10	0.18	0.12	0.13	
SP155	C6	f	02	1	b2 ア			0.23	0.11	0.21	0.11	0.13	
SP156	C6	f	02	1	a エ			0.17	0.12	0.16	0.07	0.07	
SP157	C6	f	02	1	n エ			0.35	0.25	0.30	0.24	0.10	
SP158	C6	f	02	1	a ワ			0.25	0.15	0.25	0.15	0.04	
SP159	C6	f	03	1	s ア			0.35	0.25	0.33	0.23	0.11	
SP160	C6	f	03	1	s エ			0.29	0.21	0.23	0.20	0.04	
SP161	C6	g	03	1	a エ			0.30	0.18	0.29	0.21	0.06	
SP162	C6	g	03	1	a エ			0.32	0.20	0.30	0.23	0.03	
SP163	C6	g	03	1	s エ			0.19	0.12	0.16	0.10	0.04	
SP164	C6	g	02	1	a エ			0.34	0.26	0.25	0.15	0.05	
SP165	C6	g	02	1	s ウ			0.21	0.10	0.20	0.08	0.11	
SP166	C6	g	02	1	n ウ			0.24	0.13	0.19	0.10	0.07	
SP167	C6	g	02	1	s キ			0.38	0.21	0.27	0.19	0.04	
SP168	C6	g	02	1	s キ			0.31	0.17	0.30	0.10	0.07	

表14 造構観察表(6)

造構名	地区	馬数	南北	東西	P・SK・SD等	切り合ひ関係		規格(m)					備考	
						平面	横断面	<切られる	>切る	長軸上端	長軸下端	短軸上端	短軸下端	
SP169	C5	g	20	1	a	工			>SP5	0.38	0.29	0.37	0.29	0.09
SP170	C6	g	01	1	a	ウ				0.21	0.07	0.17	0.07	0.09
SP171	C6	h	01	1	a	エ				0.17	0.09	0.14	0.06	0.19
SP172	C6	h	01	1	a	ウ				0.18	0.08	0.16	0.09	0.11
SP173	C6	h	01	1	a	ウ				0.17	0.07	0.16	0.06	0.12
SP174	C6	h	02	1	a	ウ				0.22	0.11	0.20	0.09	0.08
SP175	C6	h	02	2	a	ウ				0.23	0.09	0.22	0.12	0.06
SP176	C6	h	02	1	a	キ				0.28	0.21	0.27	0.20	0.12
SP177	C6	h	02	1	a	エ				0.32	0.06	0.28	0.10	0.13
SP178	C6	h	02	1	a	ウ				0.28	0.10	0.24	0.08	0.12
SP179	C6	h	02	1	a	エ				0.35	0.20	0.34	0.23	0.09
SP180	C6	h	02	1	a	ウ				0.30	0.12	0.29	0.10	0.08
SP181	C6	h	02	1	a	ウ				0.21	0.09	0.20	0.09	0.04
SP182	C6	h	02	2	a	ウ				0.28	0.07	0.26	0.13	0.09
SP183	C6	h	02	2	a	キ				0.28	0.22	0.24	0.17	0.05
SP184	C6	h	02	1	a	ウ			>SP185	0.23	0.10	0.20	0.12	0.03
SP185	C6	h	02	1	a	イ				0.30	0.24	0.11	0.06	0.08
SP186	C6	h	02	1	a	エ				0.28	0.18	0.20	0.11	0.12
SP187	C6	i	02	1	a	ウ			>SP188	0.20	0.10	0.19	0.09	0.12
SP188	C6	i	02	1	a	ク				0.24	0.19	0.22	0.10	0.06
SP189	C6	i	02	1	a	ウ				(0.24)	0.08	0.18	0.06	0.10
SP190	C6	i	01	1	a	ウ				0.27	0.10	0.26	0.11	0.14
SP191	C6	i	01	1	a	ウ				0.36	0.19	0.31	0.17	0.08
SP192	C6	i	01	1	a	ウ			<SP192	0.35	0.21	(0.28)	(0.13)	0.11
SP193	C6	i	01	1	c	エ				0.32	0.26	0.20	0.15	0.13
SP194	C6	i	01	1	a	エ				0.24	0.19	0.17	0.11	0.06
SP195	C6	i	01	1	a	ウ				0.21	0.08	0.20	0.07	0.11
SP196	C6	i	01	1	a	ウ				0.16	0.07	0.14	0.05	0.05
SP197	C6	j	01	1	a	エ				0.21	0.09	0.18	0.09	0.13
SP198	C6	j	01	1	a	ウ				0.23	0.12	0.18	0.11	0.06
SP199	C5	k	20	1	b2	ウ				0.32	0.19	0.23	0.19	0.08
SP200	C5	k	20	1	a	エ				0.40	0.29	0.27	0.22	0.09
SP201	B6	f	01	1	a	エ				0.24	0.15	0.20	0.14	0.04
SP202	B6	f	01	1	b1	エ				0.29	0.13	0.19	0.13	0.06
SP203	B6	f	01	1	a	エ				0.29	0.20	0.25	0.15	0.09
SP204	B6	f	02	1	a	ウ				0.41	0.18	0.40	0.15	0.16
SP205	B5	h	20	1	a	エ				0.26	0.19	0.22	0.12	0.06
SP206	B5	i	20	1	c	エ				0.20	0.17	0.17	0.09	0.13
SP207	B5	i	19	1	a	エ				0.19	0.17	0.17	0.11	0.04
SP208	B5	j	19,20	1	a	ウ				0.28	0.12	0.24	0.14	0.08
SP209	B5	j	20	3	c	カ				0.23	0.11	0.17	0.12	0.14
SP210	B5	j	20	1	b3	エ				0.22	0.13	0.20	0.13	0.07
SP211	B5	j	20	1	a	ウ				0.19	0.05	0.12	0.07	0.10
SP212	B5	j	20	1	a	エ				0.22	0.15	0.20	0.09	0.03
SP213	B6	j	01	3	a	エ				0.29	0.19	0.19	0.12	0.03
SP214	B6	j	01	3	a	エ				0.25	0.16	0.15	0.06	0.03
SP215	B6	j	01	1	a	カ				0.35	0.29	0.25	0.21	0.05
SP216	B6	j	02	1	a	ウ				0.25	0.13	0.24	0.18	0.08
SP217	B6	j	02	1	a	エ				0.28	0.15	0.27	0.20	0.06
SP218	B6	j	04	1	a	エ				0.26	0.16	0.25	0.12	0.15
SP219	B6	l	01	1	a	エ				0.28	0.18	0.26	0.18	0.13
SP220	B6	i	06	1	a	エ				0.21	0.17	0.20	0.10	0.06
SP221	B6	m	04	1	a	エ				0.33	0.22	(0.30)	(0.16)	0.06
SP222	B6	n	04	1	a	エ				0.24	0.16	0.24	0.14	0.08
SP223	B6	n	04	1	a	エ				0.24	0.10	0.23	0.15	0.05
SP224	B6	n	04	1	a	エ				0.23	0.10	0.20	0.12	0.12
SP225	B6	n	05	1	a	ウ				0.23	0.14	0.23	0.09	0.12
SP226	C6	c	02	1	a	ウ				0.13	0.05	0.13	0.05	0.13
SP227	C6	h	01	1	a	ウ				0.20	0.07	0.19	0.05	0.09
SP228	B6	j	01	1	b1	エ				0.22	0.09	0.19	0.11	0.10
SP229	B6	j	04	1	a	ウ				0.22	0.06	0.20	0.06	0.09

表15 土器観察表 (1)

測定番号	種別	器種	出土位置	地名・位置	層位	年代	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	鉢圓番号	圓板番号
1	弥生土器	甕	SZ1	C5120	-		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側模壓状文 口縁部内斜刺突文	16	14
2	弥生土器	甕	SZ1	O6j01	g		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側条痕文 内面スヌ付若	16	14
3	弥生土器	甕	SZ1	O6l01	c		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	条紋文	16	14
4	弥生土器	甕	SZ1	O6l01	a		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側条痕文 内面捲ナデ	16	14
5	弥生土器	甕	SZ1	O6l01	f		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側羽状文 (条痕文)	16	14
6	弥生土器	甕	SZ1	O6l01	c		後期	-	-	-	頸部に円形竹管文 8条の沈線文	16	14
7	弥生土器	高环	SZ1	C5j20	-		後期前半	14.4	7.6	11.8	外側ハゲ目一部ミガキあり 内面ハケ目ナデ一部ミガキあり	16	14
8	弥生土器	台付甕	SZ1	O6j01	g		後期前半	-	8.5	(12.3)	外側ミガキ 外面ほぼ全面に赤彩 内面ハケ後ナデ	16	14
9	弥生土器	甕	SZ1	O6l01	-		後期前半	14.9	4.1	25.1	内面ハケ口後捲ナデ 外面ハケ口後 桧葉文・刺突紋・横線文・波状文 (5条) 体部外腹下半から底或外腹にかけて捺付着、底部内腹保有者	16	14
10	弥生土器	広口甕	SZ1	C5l20	I		後期	-	-	-	内面残存状況悪いがハケ口が 外面 模壓文と波状文	16	14
11	弥生土器	甕	SZ1	O6l01	a		後期	-	-	-	-	16	14
14	弥生土器	甕	SZ2	O6f01	-		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側条痕文 口縁部内斜刺突文 内面条痕文	19	15
15	弥生土器	甕	SZ2	O6f02	a		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側条痕文	19	15
16	弥生土器	高环	SZ2	C5e20	a		中腹後葉 (高麗)	14.4	13.4	4.6	口縁部外腹に沈線4条 脊部増面に沈線2条	19	15
17	弥生土器	船底甕	SZ2	O6e10	b-I		中腹後葉 (高麗)	9.1	-	-	外側口縁部模壓文 頸部に沈線 外面ハケ	19	15
18	弥生土器	甕	SZ2	O6e10	-II		中腹後葉 (高麗)	12.8	-	-	口縁部外腹ハケ口後3条の沈線文 頸部口部ハケ口後連続文書2本単位 内面ハケ目	19	15
19	弥生土器	甕	SZ2	C5e20	-		中腹後葉 (高麗)	-	-	-	外面叩き後ハケ 内面縱方向の割り	19	15
20	弥生土器	甕	SZ2	O6e04	j		中腹後葉 (高麗)	-	-	-	外面叩き後ハケ 内面縱に削り	19	15
21	弥生土器	甕	SZ2	O6e01	-		中腹後葉 (高麗)	-	-	-	外面叩き後ハケ 内面ハケ目	19	15
22	弥生土器	甕	SZ2	O6e01	-		中腹後葉 (高麗)	-	-	-	外面ハケ後叩き 内面ハケ 口縁付近	19	15
23	弥生土器	甕	SZ2	O6e01	-		中腹後葉 (古井)	-	-	-	外面縦擦き 1河からの贈人品	19	15
24	弥生土器	甕	SD18	B6k01	c		中腹中葉以前	21.0	-	-	口縁部外腹肥厚して削み	19	15
25	弥生土器	甕	SD18	B6k01	b		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外面沈線	19	15
26	弥生土器	甕	SD18	B6k01	b		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側条痕文	19	15
27	弥生土器	甕	SD18	B5j20	-		中期か	17.9	-	-	口縁部外丸移か半纏竹管により刺突 KAと接合	19	15
28	弥生土器	甕	SP41	O6b02	I		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側羽状文	19	15
29	弥生土器	甕	SP41	O6b02	I		中腹中葉 (貝田町)	-	-	-	外側条痕文羽状文	19	15
30	弥生土器	船底甕	SD9	O6c04	f		中腹後葉 (高麗)	-	-	-	外側ヒョウ描文 (波状文、横線文) 竹管文	19	15
31	弥生土器	甕	SK19	B6l03	--z		中腹前半 (朝日～貝田町)	23.3	-	-	外側内沈線 内面沈縞による複円形の凹面内に刺突 沈縞文と刺突文	19	15
32	山茶碗	碗	SBZP1	O6f02	g		美濃窯 明和1	12.8	-	-	内外面回転ナデ	29	14
33	山茶碗	皿	SD5	O6g01	b		美濃窯 明和1	9.0	6.2	1.0	内外面回転ナデ 底部内面停止措ナデ 底部外面回転系切り	29	14
34	土器蓋	羽蓋	SD5	O6d01	b		13世紀	27.2	-	-	-	29	14
35	陶器	小坪	SD5	O6g01	-		瀬戸美濃 昭和10か11	7.0	3.0	48.5	全面に釉薬 沈輪	29	16
36	陶器	鉢	SD5	O6g01	-		美濃 昭和10か11	-	6.9	(9.2)	筒み3ヶ所 体部下半回転ヘラ削り 底部外面回転ヘラ削り 内外面仄輪	29	16

表16 土器観察表(2)

発掘番号	種別	器種	出土位置	地区名	層位	遺地	分類・時期等	口径(cm)	直径(cm)	高さ(cm)	備考		押出番号	図版番号
											内面	外側		
37	陶器	桶	SD6	C6e01	b	櫛目	登10か11	-	20.4	(10.5)	底部外周にビン痕3ヶ所 内外面底部を除いて長石釉 底部鉄粒 EA2七接合	29	16	
38	瓦器	不明	SD6	C6e06	-	不明		-	10.0	(12.9)	外面ミガキ	29	16	
40	土製品	土鍵	SD9	C6e03	d			-	-	3.3		29	14	
41	土師器	土師帯環	SD9	C6e04	i		16世紀後半以降	6.1	2.2	1.3	外面指揮さえ 内面指揮ナデ	29	16	
42	土師器	土師帯環	SD9	C6e04	j		16世紀後半以降	5.8	2.0	1.8	外面指揮さえ 内面指揮さえ、後指ナゲ	29	16	
43	土師器	土師帯環	SD9	C6e04	j		16世紀後半以降	6.0	3.0	1.6	内面指揮ナデ 外面指揮さえ、後指ナゲ	29	16	
44	土師器	土師帯環	SD9	C6e03	h		16世紀後半以降	9.1	-	1.9	口縁部にスス付着 内外面指揮さえ 後指ナゲ 灯明皿として使用	29	16	
45	土師器	土師器皿	SD9	C6e04	p		16世紀後半以降	9.0	4.5	2.1	口縁部にスス付着 内外面指揮さえ、後指ナゲ 灯明皿として使用	29	16	
46	土師器	土師帯環	SD9	C6e20	q		16世紀後半以降	10.2	7.0	2.5	口縁部にスス付着 灯明皿	29	16	
47	陶器	丸碗	SD9	C6e02	f	美濃窯	登8	5.2	-	(5.2)	体部下部回転ヘラ削り 内面と口縁部外周回転ナデ 内外面灰釉	29	14	
48	磁器	丸碗	SD9	C6e04	k	肥前	江戸	12.0	-	-	外面輪目文	29	14	
49	山茶碗	碗	SD17	B6f04	d	美濃窯	谷造開2	-	7.6	(1.8)	内外面回転ナデ 内面自然釉 底部外周回転糸切り 貼り付け高台 切削痕	44	16	
50	山茶碗	碗	SD17	B6f05	a	美濃窯	窓洞1	-	5.35	-	内外面回転ナデ 底部内面静止指揮ナデ 内面自然釉 立ね焼き底 底部外周回転糸切り 貼り付け高台 切削痕	44	16	
51	山茶碗	碗	SD17	B6f04	a	美濃窯	明和1	-	5.0	(3.3)	内外面回転ナデ 底部内面静止指揮ナデ 立ね焼き底 底部外周回転糸切り 貼り付け高台 切削痕正底	44	16	
52	陶器	染付碗	SD17	B6f04	a	瀬戸	登10	11.3	5.0	6.05	内外面灰釉 花文	44	16	
53	須恵器	四耳壺	SD13	B6g03	n	美濃須須	7世紀後葉～8世紀前葉	-	-	-	外側に沈線2条と波状文あり 肩に耳が付くタイプ 外反する短い口縁 KA13と接合	44	16	
54	須恵器	円面鏡	SD13	B6g02	b	支那須須	7世紀後葉～8世紀前葉	24.9	-	-	内外面自然釉 底部外周回転ナデ 底部外周回転糸切り底 貼り付け高台 切削正底	44	16	
55	灰釉陶器	改直	SD13	B6g04	a		H-72	-	7.0	(4.9)	内外面自然釉 内外面回転ナデ 底部外周回転糸切り底 貼り付け高台 切削正底	44	17	
56	山茶碗	碗	SD13	B6f04	b	美濃窯	明和1	11.2	4.0	4.4	内外面回転ナデ 底部外周回転糸切り底 貼り付け高台 切削正底	44	17	
57	須恵器	平瓶	SD14	B6f01	a	美濃須須	7世紀後葉	-	11.8	-	底部前面に叩き痕あり 竹バラの刻み(肩) 变形 SD13と接合	44	17	
58	灰釉陶器	碗	SD14	B6f02	a		0-53	-	6.4	-		44	16	
59	山茶碗	碗	SD14	B6g03	b	美濃窯	窓洞1	-	6.1	2.8	内外面回転ナデ 底部内面に自然釉 立ね焼き底 底部外周に回転糸切り 貼り付け高台 切削正底	44	17	
60	須恵器	甕	SD15	B6k01	2	美濃須須	7世紀代か	-	-	-	木製あて具底	44	16	
61	陶器	鉢給皿	SK5	C6e04	e	笠置	第1段階 第1小周	-	7.5	-	底部外周にビン1個付着 内外面灰釉	44	17	
62	陶器	蓋物の蓋	SK5	C6e04	j	美濃	登8か9	10.9	11.0	1.5	内外面回転ナデ 外面に灰釉	44	17	
63	陶器	中皿	SK5	C6e04	j	美濃	登8～11	17.0	9.0	1.7	内外面全面に灰釉	44	17	
64	陶器	腰絞茶碗	SK5	C6e05	b	美濃	登8か9	-	4.4	(1.8)	外側回転ヘラ削り 外面切削 内面灰釉 灰釉と鉄粒の上下掛け分け	44	17	
65	陶器	唐1円盤(漆け分け漆巻)	SK5	C6e04	i	美濃	登8か9	-	4.0	-	長石釉と鉄粒のかけ分け 左右掛け分け(灰釉と鉄粒)	44	17	
66	陶器	唐1円盤(漆巻)	SK5	C6e04	c	美濃	登8か9	-	4.2	-	内外面回転ナデ 内外面灰釉	44	17	
67	陶器	灯明皿	SK5	C6e04	s	美濃	登10か11	8.0	3.8	1.2	内外面回転削り 内外面灰釉	44	17	
68	陶器	振鉢	SK5	C6e04	r	瀬戸	登10～11	-	-	-	内面に重ね焼きのビン痕あり 内外面回転糸切り 貼り付け高台 底部外周に灰釉	44	17	
69	陶器	振鉢	SK5	C6e06	g	瀬戸	登11	42.7	-	-	内外面灰釉	44	17	
70	陶器	火鉢	SK6	C6b04	b		不明	21.9	-	-		44	17	

表17 土器観察表 (3)

高輪 番号	種別	器種	出土 位置	地区 名	層位	产地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	神田 番号	団服 番号
72	陶器	灯明皿	SK13	C6a02	b	大庭	第1段階か 第2段階	10.0	-	-		44	17
73	灰釉陶器	碗	SK15	C6b01	a		H-72	-	7.0	-		44	17
74	弥生土器	壺	SK17	C6b04	5		中期後葉 (大庭)	-	-	-	外腹叩き後ハケ 内面ハケ	49	18
75	弥生土器	壺	SK17	C6b04	g		中期中葉 (大出町)	-	8.0	-	SK9と接合	49	18
76	陶器	海瓶	SK17	C6b04	e	古瀬戸	中1かII	-	-	-	外腹沈縁2条 外面灰釉	49	18
77	陶器	丸瓶	SK17	C6c04	f	美濃	晩5～7	-	5.7	(4.5)	内外面回転ナデ 貼り付け高台 鉄輪	49	18
78	陶器	上給付皿	SK17	C6b04	i	美濃	晩8	-	4.0	-	底部外面回転ヘラ削り 内外面灰釉	49	18
79	陶器	刷毛目茶碗	SK17	C6b04	g	瀬戸	晩8	12.7	-	-	内外面回転ナデ 灰釉 白肥を盛つ て灰釉	49	18
80	陶器	鉢形碗	SK17	C6b04	7	美濃	晩8	-	(3.5)	-	外面回転ヘラ削り後墨目文 外面持 株 内外面灰釉	49	18
81	陶器	箱形湯呑	SK17	C6b04	a	美濃	晩8か9	-	-	(2.1)	底沿外面回転ヘラ削り 外面墨目文 内面鉄輪 外面灰釉	49	18
82	陶器	箱形湯呑	SK17	C6c04	8	美濃	晩8か9	-	-	-	外腹墨目文 外面持株 内面鉄輪	49	18
83	陶器	腰鉢湯呑	SK17	C6b05	b	瀬戸	晩8	-	4.3	(4.2)	外面回転ヘラ削り 外面鉄輪 内面 灰釉 鉄輪の上下掛け分け	49	18
84	陶器	椎文皿	SK17	C6c04	g	瀬戸	晩9	-	3.9	(3.3)	内外面回転ナデ 削り出し高台 内 外面墨文有 内外面灰釉 椎文	49	18
85	磁器	蓋	SK17	C6c04	8	瀬戸美濃 江戸	9.2	-	2.8	-	外面有小鳥	49	17
86	陶器	蓋	SK17	C6b04	b	瀬戸	晩10か11	8.0	-	-	外面回転ナデ 外面灰釉	49	18
87	陶器	仏龕具	SK17	C6b04	f	瀬戸	晩10か11	-	3.2	(2.0)	内外面回転ナデ 外面灰釉	49	17
88	陶器	灯明皿	SK17	C6c04	d	美濃	晩10か11	9.8	4.3	2.0	外面体部～底部回転ヘラ削り 内外 面灰釉 外面口縁部を除いて釉糞拭 い取り	49	17
89	陶器	東京茶碗	SK17	C6c05	1	美濃	晩10か11	10.4	5.0	6.1	内外面長石輪	49	17
90	磁器	丸瓶	SK17	C6b04	5	不明	晩11	-	4.4	(3.6)	内外面長石輪	49	17
91	磁器	湯呑	SK17	C6c05	m	肥前	江戸	-	1.7	(4.4)	内外面長石輪	49	17
92	陶器	鍵鉢	SK17	C6b04	3	瀬戸	晩10か11	-	14.7	-	内外面重ね焼きのピン痕あり 内外 面回転ナデ 貼り付け高台 底部外 面削り 灰釉	49	18
93	陶器	甕	SK17	C6c04	k	常滑	不明	-	15.4	-	内外面板ナデと押さえ	50	18
94	陶器	甕	SK17	C6b04	-	常滑	10世紀	17.3	22.8	52.7	内面押さえ 外面回転ナデ 休船 下部外表面から底部外表面にかけて煤付 着	50	19
95	陶器	甕	SK17	C6c04	7		不明	-	18.8	-	内外面回転ナデ 内外面灰釉	50	18
96	瓦器	十能	SK17	C6b04	7		近世以降	-	-	-	外面ミガキ 横の柄をつける人型い タイプ	50	18
97	瓦器	火鉢か	SK17	C6b04	p		近世以降	25.3	-	-	外面ミガキ 口縁部一部凹みあり 内面剥き	50	18
98	瓦器	火鉢か	SK17	C6b04	k		近世以降	24.6	-	(11.0)	外面ミガキ 外面に「男籠」のヘラ 括書き文字あり	50	18
115	山茶碗	碗	SK18	C6c04	r	尾張	5型式	17.2	-	-	内面自然釉 底部外面回転糸切り 貼り付け高台 初段庄底	53	19
116	山茶碗	碗	SK18	C6c04	b	尾張	5型式	-	6.9	-	内面自然釉 外面回転糸切り 底部外表面削り 底部外表面削り 底部 内面にピン痕あり 口縁部から脚部 外表面に凹みタール付着 鉄輪か一次 焼成をうける	53	19
117	陶器	灯明皿	SK18	C6c04	s	美濃	晩6か7	10.3	5.2	2.1	内面墨文 文部外面蛇の目高台 内面長石輪 KA4と接合	53	20
118	磁器	直	SK18	C6c04	n	肥前	江戸	15.3	9.0	4.9	内面墨文 文部外面蛇の目高台 内面長石輪 KA4と接合	53	20
119	陶器	小碗	SK18	C6c04	n	美濃	晩8	6.3	3.15	3.4	單の文様 剥り出し高台 内外面底 部外表面削り 除いて灰釉	53	20
120	陶器	湯舟(鉄輪)	SK18	C6c04	l	美濃	晩8	9.4	3.6	5.3	單の文様 剥り出し高台 内外面底 部外表面削り 除いて灰釉	53	20
121	陶器	鍵鉢	SK18	C6c04	n	美濃	晩8	6.9	3.7	(3.6)	内面回転ヘラ削り 外部体部下半か ら底部を除いて灰釉	53	20
122	陶器	灯明皿	SK18	C6c04	h	瀬戸	晩8か9	-	4.8	(3.1)	内面灰釉 KA4と接合	53	20

表18 土器観察表(4)

発現番号	種別	器種	川土	位置名	地区名	層位	所在地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	特徴番号	層位番号
123	陶器	押鉢皿	SK18	C6c04	5	美濃	登8か9	-	7.0	(2.1)	底算内面に花文、腹文 底部内面重ね焼き痕 内外面灰釉	53	20	
124	陶器	片口鉢	SK18	C6c04	2	瀬戸	登8か9	-	7.2	-	内黄面回転ナデ 刈り出し高台 灰釉	53	19	
125	陶器	指鉢	SK18	C6c04	n	瀬戸	登8	-	16.0	(12.0)	切妻15度で1単位 体部下半から回転ヘラ削り	53	20	
126	陶器	灯明皿	SK18	C6c04	1	瀬戸	登10	6.9	2.7	1.5	外腹回転削り 底部外面に重ね焼き痕あり 内外面灰釉	53	20	
127	陶器	箱形湯舟	SK18	C6c04	4	美濃	登10	7.8	4.0	(4.5)	内外面回転ナデ 内外面良石縫 瓢文	53	20	
128	陶器	箱形湯舟	SK18	C6c04	3	美濃	登10	-	3.4	(2.6)	内外面回転ナデ 内外面灰釉 梅文	53	20	
129	陶器	広東茶碗	SK18	C6c04	5	美濃	登10	-	6.0	(5.0)	内外面長右縫 梅文	53	20	
130	陶器	広東茶碗	SK18	C6c04	n	瀬戸	登10	-	5.5	-	花文 内外面長右縫	53	19	
131	陶器	仏龜具	SK18	C6c04	o	瀬戸	登10か11	-	2.8	-	底部外面を除いて灰釉	53	20	
132	陶器	仏龜具	SK18	C6d04	e	肥前	江戸	6.0	-	(9.1)	内外面長右縫	53	19	
133	磁器	小鉢	SK18	C6d04	2	不明	登11	6.0	2.8	2.4	内外面回転ナデ	53	19	
134	磁器	小鉢	SK18	C6c04	k	肥前	江戸	7.3	3.2	3.7	内外面回転ナデ SK14と接合	53	19	
135	磁器	鉢	SK18	C6c04	4	肥前	江戸	17.2	8.0	8.0	底部外面蛇の目高台 口縁2角形 内外面良石縫	54	19	
136	陶器	純鉢	SK18	C6d05	3	瀬戸	登11	26.2	15.2	16.2	底部内面に雜薙拭い取り5ヶ所 底部外回転ヘラ削り 内外面灰釉 K44と接合	54	19	
137	陶器	半額	SK18	C6c04	n	瀬戸	登10か11	-	10.0	-	外右体縫から底部にかけて回転ヘラ削り 内外面縫隙 SK14と接合	54	19	
138	陶器	甕	SK18	C6c04	5	瀬戸	登10か11	-	12.9	-	底部内面にビン底3ヶ所 底部外面回転ヘラ削り 内外面縫隙	54	19	
139	陶器	火鉢	SK18	C6c04	-	瀬戸	登10か11	-	14.8	(5.0)	底部内面に重ね焼底あり 底部に丸い脚が3つか 外面縫隙	54	19	
140	陶器	篠利	SK18	C6c04	n	美濃	明治	-	10.8	-	外間に「山町口藤田店」の文字あり 内外面長右縫 SK32と接合	54	19	
141	陶器	指鉢	SK18	C6c04	g	瀬戸	明治	-	8.4	(5.4)	底部外面一部煤付痕 底部外側黒帯を除いて鉢縫	54	-	
142	陶器	瓶	SK18	C6c04	r	常滑	近世後期	25.2	-	6.2	外面部内面側の突起を付ける際の押さえあり	55	20	
143	陶器	煙炉の目皿	SK18	C6c04	b	常滑	近世後期	9.8	7.4	1.0	上皿削り	55	20	
144	陶器	煙炉の目皿	SK18	C6c04	1	常滑	近世後期	14.2	11.9	2.0	-	55	20	
145	陶器	火鉢	SK18	C6c04	3	常滑	近世後期	16.1	-	-	内面に押さえ痕 体部内面にヘラ記号あり	55	20	
146	陶器	火鉢か	SK18	C6c04	s	常滑	近世後期	-	13.4	(11.6)	内外面ナデ 指押さえ	55	20	
147	陶器	煙炉か	SK18	C6c04	o	常滑	近世後期	14.6	14.0	10.4	内面指押さえ 内面に蝶付痕 外面ナデ	55	20	
148	瓦器	火鉢	SK18	C6c04	n	近世後期以降	22.1	-	(16.7)	外面部ミガキ 内面削り	56	21		
149	瓦器	火鉢	SK18	C6c04	3	近世後期以降	30.8	-	(7.7)	外面部ミガキ 外面に「支那」「支乃」のヘラ括き文字あり SK14と接合	56	21		
150	瓦器	火鉢	SK18	C6c04	4	近世後期以降	-	-	-	外面部方向のミガキ 外面に「□□一月」のヘラ括き文字 内面削り	56	21		
151	瓦器	火鉢(脚)	SK18	C6c04	3	近世後期以降	-	19.8	-	脚部方型の穴2つあり 4脚か 外面部ミガキ 4脚と推定	56	21		
152	瓦器	十脚	SK18	C6c04	3	近世後期以降	-	-	-	内面に蝶付痕	56	21		
153	瓦器	十脚(柄なし)	SK18	C6c04	4	近世後期以降	-	3.5	-	外面部ミガキ 右端欠損	56	21		
163	陶器	不明	KA1	B5t19	-	美濃	江戸	-	5.8	(0.9)	底部外側黒帯	59	22	
165	土製品	土鉢	KA2	C5b01	-	不明	-	-	3.5	-	指押さえ ナデ	59	22	
166	陶器	甕	KA2	C5b20	-	瀬戸	登9	35.4	-	(6.9)	内外面回転ナデ 内外面良石縫	59	22	
167	陶器	広東茶碗	KA2	C5b20	-	美濃	登10	-	(6.0)	(4.0)	内外面回転ナデ 外面回転ヘラ削り 内外面良石縫	59	22	
168	陶器	広東茶碗	KA2	C5b01	-	瀬戸	登10	-	5.8	(4.0)	内外面回転ナデ 内外面花文と圓文 外面直線文と円文	59	22	
169	陶器	純鉢	KA2	C5b20	-	瀬戸	登11	31.0	-	-	内外面灰釉	59	22	

表19 土器観察表(5)

編番 番号	種別	基盤 位置	出土 位置	地区 名	層位	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	脚高 (cm)	備考	確認 番号	回収 番号
170	陶器	鉢	KA2	C5b20	-	横戸	登11	-	15.2	-	体部下面下半から底部外面回転へラ 削り 底部内面に棘突状の取り丸く 5ヶ所あり 内外面灰釉	59	22
171	陶器	擂鉢	KA2	C6b01	-	横戸	登11	38.8	14.3	15.5	脚部2ヶ所で1単位 体部外面下部か ら底部外面向て同軸回転へラ削り	59	22
172	陶器	甌	KA2	C6b01	-	不明	56.2	-	52.4	-	内面指押さえ 外面回転ナデ	60	22
173	陶器	壺?	KA2	C5b20	-	常滑	近江後期	36.4	37.6	31.6	梵きより上部と口縁部、内面下部 に突出部 体部外面に2条波状文	60	22
174	土師器	鍋	KA2	C6b04	-	不明	27.2	-	-	-	内外面回転ナデ 外面回転へラ削り	60	22
177	陶器	志野皿	KA3	C6b02	-	美濃	登3	11.5	7.6	2.1	削り出し高台 灰釉	61	23
178	陶器	皿	KA3	C6b02	-	美濃	登4	12.2	6.0	3.0	貼り付け高台 内外面灰釉 口縁部 疊縫	61	23
179	陶器	香炉	KA3	C6b02	-	美濃	登6か7	-	8.4	-	底部外面回転へラ削り 底部外面を 除いて内外両面に銷孔 SDHと接合	61	23
180	陶器	小中(こな)	KA3	C6b02	-	横戸	登9	-	4.0	-	全面長石釉 SK14と接合	61	23
181	常滑	甌	KA3	C6b02	-	常滑		-	15.0	(7.5)	体部外面ナデ 体部外面指押さえ 底部内面指押さえ	61	23
182	陶器	碗	KA3	C6b03	-	美濃	明治	-	11.1	(15.8)	外面文字「芥見口瓶口千六」全面長 石釉	61	22
185	土製品	土鉢	KA4	C6b03	-	不明	-	-	-	3.9	指押さえ ナデ 篦6~8mmの玉が 入る	62	23
186	土製品	土鉢	KA4	C6b04	-	不明	-	-	-	-	外表面指押さえ指ナデ 内面頂部でし ぼり込み 大型穴孔径約4.5cm	62	23
187	土製品	土鉢	KA4	C6b03	-	不明	-	-	4.5	-	端子細い	62	23
188	陶器	鉢	KA4	C6b05	1	志野	大窓4後	29.4	13.3	(5.80)	外表面回転へラ削り 貼り付け高台 高台底跡を除いて内外両面長石釉	62	23
189	磁器	紅小皿	KA4	C6b04	-	肥前	江戸	4.2	-	(1.1)	内面と外面白縁部に長石釉	62	23
190	磁器	紅小皿	KA4	C6b03	-	肥前	江戸	-	1.3	(0.8)	内面と外面白縁部に長石釉	62	23
191	陶器	湯呑	KA4	C6b03	-	肥前	江戸	-	4.5	(4.7)	外表面底部へラ削り 刈り出し高 台 内外面灰釉	62	24
192	磁器	丸碗	KA4	C6b03	-	肥前	江戸	11.4	4.6	6.1	内面(島) 外面(松、海、樹皮) 内 外両面長石釉	62	24
193	磁器	鉢	KA4	C6b04	-	肥前	江戸	15.5	-	-	内面花文 内外面長石釉 SK14と接 合	62	23
194	陶器	丸碗	KA4	C6b03	-	美濃	登8か9	10.9	-	-	内外面回転ナデ 外面解脚部下から回 転へラ削り 下地に銷孔 口縁部に 粘跡	62	23
195	陶器	片口鉢	KA4	C6b03	-	美濃	登8	12.8	6.0	6.1	内外面回転ナデ 刈り出し高台 底 部内面ビンズ4つ 内外面黒釉	62	24
196	陶器	碗	KA4	C6b03	-	美濃	登8か9	-	7.2	-	体部下半回転へラ削り 外面黒釉	62	24
197	陶器	合子蓋	KA4	C6b03	-	美濃	登10か11	4.6	6.0	1.2	外表面回転へラ削り 内面回転ナデ 内外面の灰釉	62	24
198	陶器	盃	KA4	C6b04	-	美濃	登10か11	3.3	-	0.9	内外面回転ナデ 外面回転へラ削り 外面上に灰釉	62	24
199	陶器	灯明皿	KA4	C6b04	-	美濃	登10	7.0	3.0	1.6	底部外面回転へラ削り 口縁部外面 に盛り出しあげ 内外面に灰釉	62	24
200	陶器	灯明皿	KA4	C6b04	-	美濃	登10か11	6.8	3.0	1.4	内外面回転ナデ 外面体部へ底部回 転へラ削り 内外面灰釉	62	24
201	陶器	灯明皿	KA4	C6b03	-	美濃	登10か11	6.8	3.3	1.75	内面に重ね後のビンズ3ヶ所あり 内面回転ナデ 外面回転へラ削り 底部外面削り 灰釉	62	24
202	陶器	灯明皿	KA4	C6b03	-	横戸	登10か11	7.7	4.2	1.4	内面回転ナデ 外面回転へラ削り 底部外面削り 灰釉	62	24
203	陶器	灯明皿	KA4	C6b04	-	横戸	登11	12.2	3.9	2.9	1ヶ所の口縁部内外間に突出部 内 外面灰釉	62	24
204	陶器	灯明皿	KA4	C6b03	-	美濃	登11	6.7	3.0	1.3	内面に重ね後のビンズ3ヶ所あり 外 面回転削り 灰釉	62	24
205	陶器	鉢	KA4	C6b03	-	横戸	登10か11	14.6	5.3	7.7	内面にビンズ2ヶ所 外面体部下半 へ底部回転へラ削り 内外面灰釉	62	24
206	陶器	土瓶	KA4	C6b04	-	横戸	登10か11	6.2	7.6	11.2	体部下から底部外面に突出部 外 面灰釉	62	23